

ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第一 沿革

第一案 第八十五條 未タ確定ノ判決ヲ經サル數罪俱ニ發シタルトキハ各其刑ヲ宣告シ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス

第八十六條 死刑ト繋獄ノ刑トヲ宣告シタルトキハ止タ死刑ヲ執行ス

第八十七條 數個ノ刑共ニ定役ヲ附シ又ハ共ニ之ヲ附セサルトキハ止タ其期限ノ長キモノヲ執行ス若シ其期等シキトキハ止タ其刑ヲ執行ス若シ其刑期定役ヲ附セサル刑ヨリ短キトキハ先ツ定役ヲ附シタル刑ヲ執行シ其期限ヲ定役ヲ附セサル刑ニ通算ス

第八十八條 期限等シキ重罪ノ刑ト禁錮ノ刑トヲ宣告シタル場合ニ於テ其共ニ定役ヲ附シ又ハ之ヲ附セサルトキハ止タ重罪ノ刑ヲ執行ス

期限等シキ無役禁錮ト拘留トヲ宣告シタルトキハ止タ禁錮ヲ執行ス

第八十九條 重罪ノ刑ト禁錮トヲ宣告シ又ハ禁錮ト拘留トヲ宣告シタル場合ニ於テ前數條ノ規定ニ從ヒ禁錮又ハ拘留ヲ執行スルトキハ重罪又ハ禁錮ノ刑ハ仍ホ其法律上ノ結果ヲ生ス

第九十條 重罪ノ刑ト罰金若クハ科料トヲ宣告シタルトキハ止タ重罪ノ刑ヲ執行ス

禁錮若クハ拘留ト罰金若クハ科料トヲ宣告シタルトキハ禁錮拘留ヲ執行シ其一日ヲ一圓ニ折算シテ罰金科料ノ額ヨリ控除シ剩ル金額ヲ徴收ス

第九十一條 數個ノ罰金若クハ科料ヲ宣告シ又ハ罰金ト科料トヲ宣告シタルトキハ止タ其金額ノ多キモノヲ執行ス

第九十二條 附加刑ハ總テ之ヲ執行ス但停止公權及ヒ監視ニ付テハ止タ其期限ノ長キモノヲ執行ス

第九十四條 一罪前ニ發シ已ニ確定ノ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シタルトキハ亦前數條ノ規定ニ從フ但後發罪ニ對スル繫獄ノ刑前發

罪ノ刑ヨリ重キトキハ其前後ノ刑定役ヲ附スルト否トヲ分タス已ニ執行シタル前發罪ノ刑期ヲ後發罪ノ刑期ニ通算ス
已ニ執行シタル刑又ハ執行中ノ刑消滅シタルニ因リ他ノ刑ヲ執行ス可キ場合ニ於テモ亦前項通算ノ例ニ從フ

第九十四條 前發罪ヲ判決スルトキ未タ發セサル罪再犯罪ト俱ニ發シ又ハ再犯罪ヨリ後ニ發シタルトキハ再犯罪ノ刑ト後發罪ノ刑トヲ比較シ前數罪ノ規定ニ從テ處分シ前發罪ノ刑ハ別ニ之ヲ執行ス若シ前發罪ノ刑後發罪ノ刑共ニ再犯罪ノ刑ヨリ重キトキハ前發罪ノ刑ト後發罪ノ刑トヲ比較シテ處分シ再犯罪ノ刑ハ別ニ之ヲ執行ス

第二案 第五十七條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第五十八條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑

ヲ科セス但公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス
但一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ他ノ刑ヲ科セ
ス但罰金科料公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第五十九條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮アルトキハ
其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノ
ヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモ
ノニ超ユルコトヲ得ス

第六十條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條第一項ノ場
合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ
處斷ス

第六十一條 併合罪中重キ罪ニ附加刑ヲシト雖モ他ノ罪ニ附加刑
アルトキハ之ヲ附加ス但第五十八條ノ適用ヲ妨ケス

二個以上ノ公權剝奪アルトキハ其期限ノ最モ重キモノヲ附加シ

二個以上ノ監視アルトキハ單ニ其一個ヲ附加ス

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第六十二條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪
トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第六十三條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ
併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ公權剝奪及ヒ沒收
ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキ
ハ罰金科料公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ
懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金科料公權剝奪及ヒ沒收ヲ
除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重
キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユル
コトヲ得ス

公權剝奪及ヒ監視ハ其期限ノ最モ長キモノヲ執行ス

第六十四條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受

ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム
第六十五條 輕罪ノ刑ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條ノ場
合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ輕罪ノ罰ハ之ヲ併科ス
第六十六條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段
若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ
刑ヲ以テ處斷ス

第六十一條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第六十七條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルト
キハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第三案
第五十七條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ
確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪
トヲ併合罪トス

第五十八條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑

ヲ科セス

但公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科
セス但罰金科料公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第五十九條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ
罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ
加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル罪ノ長期ヲ
合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第六十條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條第一項ノ場
合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ
處斷ス

第六十一條 併合罪中重キ罪ニ附加刑ナシト雖モ他ノ罪ニ附加刑
アルトキハ之ヲ附加ス但第五十八條ノ適用ヲ妨ケス

二個以上ノ公權剝奪アルトキハ其期間ノ最モ長キモノヲ附加シ
二個以上ノ監視アルトキハ單ニ其一個ヲ附加ス
二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第六十二條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪
トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第六十三條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アルトキハ其刑ヲ併セ
テ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ公權剝奪及ヒ沒收ヲ除
ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ
罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲
役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其
半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

公權剝奪又ハ監視ハ其期間ノ最モ長キモノヲ執行ス

第六十四條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受
ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第六十五條 拘留又ハ科料ト他ノ罪トハ之ヲ併料ス但第五十八條
ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併料ス

第六十六條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段
若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ
刑ヲ以テ處斷ス

第六十一條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第六十七條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルト
キハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第四案

第五十六條 第三案第五十七條ニ同シ

第五十七條 第三案第五十八條ニ同シ

第五十八條 第三案第五十九條ニ同シ

第五十九條 第三案第六十條ニ同シ

第六十條 併合罪中重キ罪ニ附加刑ナシト雖モ他ノ罪ニ附加刑ア

ルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得但第五十七條ノ適用ヲ妨ケス
二個以上ノ公權剝奪アルトキハ其期間ノ最モ長キモノヲ附加シ
二個以上ノ監視アルトキハ單ニ其一個ヲ附加ス
二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第六十一條 第三案第六十二條ニ同シ

第六十二條 第三案第六十三條ニ同シ

第六十三條 第三案第六十四條ニ同シ

第六十四條 第三案第六十五條ニ同シ

第六十五條 第三案第六十六條ニ同シ

第六十六條 第三案第六十七條ニ同シ

第二 參照法律

舊刑法

第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタルトキハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

第百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ

通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納定シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵價ノ處分ハ各本法ニ從フ

佛蘭西刑法

刑法釋義 第一編 總則

第三百七十九條 犯人ヲ刑ニ處ス可キ裁判言渡ヲ爲ス以前其吟味中ニ證書ニ據リ又ハ證人ノ申述ニ據リ其犯人更ニ他罪アルコトヲ知リ其罪是迄申立ラレタル罪ヨリ更ニ重キ模樣ナル時又ハ其犯人ト共ニ罪ヲ犯セシ者召捕ヘラレタル時ハ重罪裁判所ニテ其更ニ發覺シタル罪ニ付治罪ノ規則ニ循ヒ再ヒ犯人ノ罪ヲ告訴スヘキコトヲ言渡ス可シ
此等ノ場合ニ於テハ檢察長再度ノ訴ニ付キ裁判言渡アル迄ハ初度ノ如ク執行フコトヲ暫ク延ス可シ

治罪法第三百六十五條 若シ被告人ニ數箇ノ重罪及ヒ輕罪アルトキハ其中ノ最重ナル罪ニ因テ其刑ヲ定ム可シ總テ其他ノ場合ニ於テハ故殺ノ犯人ヲ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

白耳義刑法

第五十八條 違警罪數箇ヲ犯ス者ハ其各犯罪後ニ從テ罪ヲ科ス可シ

第五十九條 違警罪一條以上若クハ輕罪一條俱ニ發スレハ罰金又ハ懲治獄ヲ其ノ各犯罪條ニ從テ科シ次條ノ定限ヲ超フ可カラズ(最重キ者ノ倍

加)

第六十條 數輕罪ヲ犯ス者ハ其各犯ニ從テ刑ヲ加フ但輕罪律中最モ重キ者ヲ倍加スルニ超ユルヲ得ス

第六十一條 重罪ヲ犯ス者ニシテ輕罪又ハ違警罪俱ニ發スレハ唯重罪ヲ以テ論シ罪ヲ科スヘシ

第六十二條 重罪數犯ノ者ハ其重キニ從テ論ス若シ其罪有期徒刑有期禁錮若クハ監役ニ該ル者ハ或ハ本刑ニ一等ヲ加ヘ五年ニ至ル(假令ハ本刑徒刑十五年ナレハ十五年ニ五年ヲ加ヘ二十年ニ至ルカ如シ)

第六十三條 凡罪ノ重キ者ニ從フトハ受刑期ノ長期ヲ云フ若シ其期等シキ者ハ徒刑及ヒ監役ヲ禁錮ヨリ重シトス

第六十四條 凡沒入ノ刑ハ重輕罪違警罪共ニ之ヲ科ス

第六十五條 凡一事ヲ犯シ罪名數條ニ涉ル者ハ特ニ重キ者ニ從テ科ス

獨逸刑法

第七十三條 一罪ニヨリ數項ノ罪ヲ犯シタルトキハ其重キニ從テ處シ若

シ刑ニ輕重アルトキハ其重キ刑ニ處スヘシ(假令ハ人ノ妻ト知り強姦スレハ其一犯ニヨリ有夫姦ト強姦ノ二罪相犯スノ類)

第七十四條 凡重罪又ハ輕罪ヲ犯シ或ハ數次同一ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルニ因リ同種ノ有期ノ刑ニ處スルトキハ其重キヲ加ヘテ一トナシ處ス可シ(假令ハ三年又ハ二年ニ當ル徒刑ト共ニ又五年ニ當ル徒刑ノ發覺スルトキハ其五年ヲ裁判官ノ見込ヲ以テ三年或ハ二年ノ徒刑ニ加ヘテ罰スルノ類)

各種ノ刑共ニ發スレハ其内最モ重キ刑ニ處ス禁獄徒刑ト共ニ發シタルハ唯其徒刑ニ處スルノ類)

其罪ノ期限ハ數刑合セテ其全數ニ至ラス又十五年徒刑十年禁獄十五年城寨禁獄以上ニ至ルヲ得ス(合セテ全數ニ至ラストハ假令ハ三年ノ徒刑及ヒ五年ノ徒刑共發スルトキハ八年ト爲ルトモ其全數八年ニ處スルコトヲ得ス其以下六年ニ處スルノ類)

第七十五條 徒刑ノ外禁獄ノ刑ト城寨禁獄ノ刑ト共ニ處スルトキハ其二

種ノ刑ヲ各別ニ處ス可シ(重キ方ヲ先ニ決ス)

數個ノ城寨禁獄ノ刑及ヒ禁獄ノ刑共發スレハ各別ニ處シタル如ク合セテ其三種ノ刑ニ區處ス可シ其全期限ハ十五年ニ過クルヲ得ス

第七十七條 拘留ノ刑其餘ノ刑ト共ニ處スルトキハ拘留ヲ別ニ處ス可シ第七十八條 數箇ノ罰金ヲ合セテ處スルトキ又ハ實決ノ刑ト共ニ處スルトキハ之ヲ合算スヘシ

其罰金ヲ折算シテ實決ニ換ヘルトキハ其刑ノ長期ハ禁獄二年違警罪ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ拘留三個月トス

英吉利刑法典

- 一 輕罪二罪以上ヲ犯ス者ハ各犯ニ從テ罪ヲ科ス可シ
- 一 二罪以上囚獄又ハ徒刑ノ同種罪ヲ犯ス者ハ一刑期滿後ニ又一刑ヲ言渡ス可シ

- 一 已ニ他ノ犯罪ノ爲メ囚獄セラレ後餘ノ重罪ノ發覺スルトキハ其囚滿期ノ時ヨリ更ニ囚獄ノ刑ヲ言渡スコトヲ得 又已ニ囚獄或ハ徒刑ニ處

セラレシ後餘罪發覺シテ徒刑ヲ言渡ストキハ前罪ノ囚獄或ハ徒刑ノ満期中ヨリ算フ可シ其囚獄或ハ徒刑ノ年限定期ヲ過クルアルモ妨ケナシ
奧地利刑法

第三十四條 一個ノ重罪ヲ鞠問シ及ヒ之ヲ判決スルニ際シ數多ノ重罪發覺スルトキハ其重キニ從テ其罪ヲ論ス但他ニ俱發ノ重罪アルトキハ又之ヲ不問ニ措ク可ラス

第三十五條 前條ノ規則ハ重罪輕罪違警罪ト俱ニ發セシトキモ亦之ヲ適用ス

第四十四條 左ノ諸件ハ加等スヘキ情狀トス

第一 數箇異種ノ重罪ヲ犯セシ者

伊太利刑法

第三十七條 五年以上ノ繫獄ノ刑ニ該ル數多ノ犯罪ヲ行ヒタル者其犯罪ノ一徒刑ニ該ルトキハ一年以上三年以下ヲ以テ分房繫留ノ期限ヲ加ヘ又他ノ刑共ニ徒刑ニ該ルトキハ五年迄ヲ加フルモノトス

第六十八條

同性質ノ有期繫獄ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ヲ行ヒタル者ニ付テハ其重キ犯罪ニ對シテ刑ヲ科シ又他ノ刑ノ同期限ノ半ヲ加フ但懲役及ヒ禁獄ニ付テハ三十年監視追放ニ付テハ五年ヲ超過スルコトヲ得ス

第六十九條

二個ノ犯罪ヲ行ヒ一ハ懲役ニ該リ他ノ一ハ禁獄ニ該ルトキハ左ノ規定ニ從テ處斷ス

- 一 若シ其懲役一年ヲ超過セス且其禁獄刑期ノ三分ノ一ニ達セサルトキハ懲役刑期ノ半ニ等シキ期限ノ加重ヲ以テ禁獄ノ刑ヲ適用ス
- 二 其他總テノ場合ニ於テハ禁獄ノ刑期三分ノ一ニ等シキ加重ヲ以テ懲役ヲ適用ス但三十年ヲ超過スルコトヲ得ス

二個以上ノ犯罪俱ニ發スルトキハ場合ニ依リ前後ノ規定ヲ適用スル前同性質ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付テハ前條ノ規定ニ從フヘシ

第七十條

二個ノ犯罪ヲ行ヒ一ハ懲役又ハ禁獄ニ該リ他ノ一ハ監視追放ニ該ルトキハ懲役又ハ禁獄ヲ適用シ而シテ其科シタル刑禁獄ナルトキハ監視追放期限ノ三分ノ一ニ等シキ加重ヲ爲シ懲役ナルトキハ其六分

ノ一ニ等シキ加重ヲ爲スモノトス
數多ノ懲役又ハ禁獄ニ該ル犯罪若クハ監視追放ニ該ル犯罪俱ニ發スル
トキハ第六十八條及ヒ第六十九條ノ規定ニ從フ

第七十一條 拘留ニ該ル數多ノ註違ヲ行ヒタル者ニ付テハ其重キ註違ノ
刑ノ刑ヲ科シ他ノ刑ノ全期限ノ半ニ等シキ加重ヲ爲スモノトス但三年
ヲ超過スルコトヲ得ス

第七十二條 一個又ハ數多ノ狀罪及ヒ拘留ノ刑ニ處スヘキ一個又ハ數多
ノ註違ヲ行ヒタル者ニ付テハ其犯罪ニ對シテ科スヘキ刑又ハ前數條ノ
規定ニ從ヒ數多ノ犯罪ノ俱發ヨリ生スヘキ刑ヲ適用ス若シ其犯罪ニ對
シテ科スヘキ刑懲役ナルトキハ拘留全期限ノ六分ノ一ニ等シキ加重ヲ
爲シ其他ノ場合ニ於テハ其三分ノ一ヲ加フ

第七十三條 前數條ニ記載シタル場合ニ於テ第三十一條、第三十三條、第三
十四條及ヒ第三十五條ノ規定ニ從ヒ各刑ノ效力ヲ定ムルニ付テハ次條
ニ定メタルモノヲ除クノ外各犯罪ニ科スヘキ刑ノミヲ斟酌スルモノト

ス

第七十四條 各條ノ爲メニ定メタル有懲ノ公務禁止及ヒ職業藝術停止ノ
刑ハ禁止ニ付テハ十二年停止ニ付テハ四年ヲ超過セサルニ於テハ皆全
刑期ヲ適用スルモノトス

第七十五條 各罪ノ爲メニ定メタル財産刑ハ犯罪ニ付テハ一萬五千リ
レ註違ニ付テハ三千リレヲ超過セサルニ於テハ皆全部ヲ適用スルモ
ノトス

財産刑ヲ禁獄ノ刑ニ換フル場合ニ於テハ其禁獄ノ刑ハ十八月ヲ超過ス
ルコトヲ得ス而シテ罰金ト科料俱發スル場合ニ於テハ必ス禁獄ニ換フ
ルモノトス

第七十六條 前數條ニ記載シタル規定ハ裁判宣告ノ後其裁判確定前ニ犯
シタル餘罪ノ發シタル爲メ犯人ヲ裁判スヘキ場合ニ於テモ亦之ヲ適用
ス

前同一ノ規定ハ有期繫獄ノ刑ニ處セラレタル後ニシテ其執行ヲ受クル

前又ハ其執行中餘罪ヲ犯シタル場合ニ於テモ亦之ヲ適用ス但前數條ニ從ヒ刑ヲ加重スルニ付テハ其三分ノ二半若クハ三分ノ二ノ代リニ六分ノ一半三分ノ一ヲ加フ右加重ヲ定ムルニ付テハ裁判宣告ノ際時宜ニ依リ再犯加重ヲ新ニ犯シタル罪ノ刑期ニ算入シタル後執行ヲ受クヘキ刑ノ殘餘ノミヲ適用ス若シ其刑ノ執行ヲ終ヘタルトキ又ハ再ヒ刑ノ宣告ヲ受クル前ニ其刑ノ消滅シタルハ新ニ犯シタル罪ニ對シ其刑ノ全部ヲ適用スルモノトス

第七十七條 罪ヲ犯シ又ハ罪跡ヲ掩フ爲メ若クハ罪ヲ犯スノ際犯罪ヲ組織スル他ノ所爲ヲ行フニ當リ法律ニ於テ其所爲ヲ犯罪構造ノ原素又ハ加重ノ情狀ト認メサルトキハ前數條ノ規定ニ從ヒ犯人ヲ各本罪ノ刑ニ處ス

第七十八條 一個ノ所爲ニ依リ數多ノ刑名ニ觸レタル者ハ其重キニ從テ處斷ス

第七十九條 同一ナル法律上ノ規定ヲ數度犯シタル者ハ一個ノ決心ヲ實

行シテ別々ニ犯シタルトキト雖モ一罪ト看做スモノトス但其刑ノ六分ノ一以上半以下ヲ加重スルモノトス

露西亞刑法

第三百三十九條 凡重罪犯爲テ審問セラレ未タ其處刑ヲ終ラサル内更ニ新罪ヲ犯ストキモ亦數罪俱發ノ例ニ從テ刑ス

第五百五十六條 重罪俱發即同時或ハ異時ニ於テ數個ノ罪ヲ犯シ未タ其刑ヲ受ケス又期滿免除大赦或ハ特赦ヲ以テ其罪ノ消滅セサルトキハ裁判官其宣告書中ニ其各個犯罪ニ對スル處刑ヲ排列シ就中其最重ノ刑ヲ執リ更ニ本刑ノ中ノ最上度ヲ以テ言渡ス可シ

印度刑法

第七十二條 凡裁判ニ於テ明言スル所ノ數罪ヲ加人ヲ有罪トシ判決シ數罪中其何罪ニ當ルヘキヤ疑ハシク而シテ數罪其罰ヲ同フセサルトキハ其最モ輕キ者ヲ以テ之ヲ罰スヘシ

カリホルニア州刑法

刑法釋義 第一編 總則

第六百五十四條 此刑法中二箇條以上ヲ以テ罰スヘキニ該ルトキハ一條例ニ照シテ處斷シ決シテ二條例ニ照シ二個以上ノ罰ヲ科スルコトヲ得ス故ニ其一條例ニ依テ處斷ヲ受クルカ又ハ無罪ニ歸スルトキハ他ノ條例ヲ以テ更ニ之ヲ罰スルヲ得ス

第六百六十九條 凡二罪以上ヲ犯シテ拘禁セラレタル者ハ第一罪ノ期限終テ次ニ第二罪ノ拘禁ヲ命シ第二罪ノ期限終テ又次ニ第三罪ノ拘禁ヲ命ス以下之ニ倣フ

細々利刑法

第八十六條 二個ノ重罪同時ニ發覺シタル者ハ其至重ノ刑ノ一ニ就テ處斷ス

二個以上重罪ノ俱發シタルトキハ事犯中ノ最モ重キ罪ニ一等ヲ加重シテ處斷ス但シ其刑ヲ加重シテ死刑ニ入ルルコトヲ得ス

第八十七條 二個ノ輕刑俱發シタルトキハ之ヲ併科シテ輕罪ニ就テ定メタル刑ノ長期ニ超過セサルニ於テハ其二個ノ刑ヲ併科スルコトヲ得ヘ

シ
若シ二個以上俱發ノ輕罪ハ輕罪ニ就テ定メタル長期ノ二倍ニ超過セサルニ於テハ亦其數罪ヲ併科スルコトヲ得

巴西兒刑法

第六十一條 數罪俱發ノ時ハ各法律上定ムル所ノ刑ヲ科シ刑期ノ長短ヲ問ハス其刑ノ輕重ニ因リテ至重ノ體刑ヲ先ニシ然ル後漸次ニ輕刑ニ及ホスヘシ

若シ數罪ヲ犯シ死刑ヲ受ケタル時ハ他ノ體刑ヲ科スルヲ得ス唯罰金ノ刑ハ之ヲ科スルヲ得

第六十二條 若シ犯罪者俱ニ二刑以上ヲ受ケ一刑ノ終リタル後ニ他ノ刑ヲ受ク可カラサル時ハ其至重ノ罰ニ科ス可キ刑ニ最重刑一等ヲ加ヘ但シ加ヘテ死刑ニ至ルトキハ之ヲ無期徒刑ニ處スヘシ

羅馬法

數罪俱發ハ一人ニシテ二罪以上ヲ犯スコトヲ云フ則チ其差別ニアリ

一 數個ノ所爲ニ因テ數個ノ法律ヲ犯ス者之ヲ所爲上ノ俱發ト云フ
 二 一個ノ所爲ニ因テ數個ノ法律ヲ犯ス者之ヲ法律上ノ俱發ト云フ
 往古ノ時代ハ人民自カラ裁判ヲ爲セシニ因リ數罪ヲ同時ニ裁判シ且合
 算シテ刑ヲ科シタレトモ後世ニ至テハ犯罪毎ニ裁判官法律ニ定メタル
 犯罪ノ裁判ヲ爲シタリ故ニ有犯罪毎ニ罰シタレハ其刑ヲ合算シテ科ス
 ルコトヲ得ス

普魯士刑法

第五十六條 凡他ニ關セサル各種ノ所爲ヲ以テ數個ノ重罪或ハ輕罪ヲ犯
 セシ者ニ對シテハ其中著シキ罪ニ合併シテ之ヲ科ス
 然レトモ羈絆ノ刑ニ當ツ可キ場合ナルトキハ其期限ヲ最重ナル重罪或
 ハ輕罪ニ處ス可キ羈絆ノ定期以下ニ降減スヘシ
 第五十七條 第五十六條ノ成規ハ次款ニ依テ其制限ヲ立ツ
 一款 有期羈絆ノ刑ヲ數個相合シ以テ處スルトキハ決シテ其期限ヲ二
 十年ヨリ越ヘシムルコト勿レ又輕罪ニ處スルニハ必ス二十年以上ノ

時限ニ當ツルコト勿レ

二款 其種類ノ異ナルモノヲ合シテ處刑スヘキトキハ其合併スル時間
 ヲ減シテ彼罪類ノ最重ナルモノヲ科ス
 三款 右ノ場合ニ於ケル禁獄時間ハ五年以上十年以下タル可シ
 第三百三十八條 若シ數個ノ違式ヲ犯セシトキハ之ヲ合シ其中著シキ者
 ニ付テ罪ヲ論ス
 違式罪ハ別ニ重罪或ハ輕罪ヲ犯シタルニ因テ之ヲ除免スヘキモノニア
 ラス

サクソン刑法

第七十八條 一人ニテ種々ノ施術ヲ用ヒ犯シタル數個ノ惡事ヲ羈絆ノ刑
 或ハ罰金ノミニ當リタルモノトシテ處分スルトキハ其惡事ノ相集合セ
 シヲ以テ之ヲ俱發ノ罪ニ科ス
 一人ニテ種々ノ施術ヲ以テセシ惡事ニ於テ其罪ハ羈絆刑ノ一個ナル歟
 或ハ數個ナル歟又罰金ノ一個ナルカ或ハ數個ナルトキハ通常其犯セシ

羈絆ノ刑ニ罰金ヲ併セテ之ヲ處ス而シテ其方法ハ即チ共犯セシ惡事ノ
二罪以上ニシテ羈絆ノ刑ニ屬スル歟又ハ罰金ニ屬スルトキ羈絆ノ刑ニ
就テ其刑ヲ合計シ罰金ニ就テハ其金ヲ總算シ以テ之ヲ罰ス可シ但シ前
項ニ掲クル所ノ成規ヲ照ス可キナリ
數罪俱發ノ惡事中ニ於テ本罪ノ外法律上ニ關セシ損害ノ現出セシ者ア
ルトキハ其間フヘキ惡事ノ重科ニ該ラサルモ其損害ノ併セテ之ヲ處分
ス若シ追放ノ刑ヲ俱發惡事ノ中ニ現在スルトキハ通常特別ニ之ヲ處分
スヘシ

チユーリング刑法

第五十二條 一個ノ惡事及ヒ同一惡事ノ繼續ト做ス可ラサル數個ノ所爲
ヲ以テ犯シタル罪犯者ヲ處刑スルトキハ其各罪ノ犯觸スル刑ハ悉ク之
ヲ論ス可シ然レトモ俱發罪ニ就テ記載セラレタル定規ニ準ス可キヲ要
ス

第五十三條 第四十七條第三款ニ登錄セル惡事竊盜背信騙欺逼勒ヲ所持

物ニ對シ數回之ヲ犯シ而シテ該惡事ノ度ハ自ラ等階アレトモ同般ノ刑
律ニ言渡ス可キトキハ其數個ノ惡事ヲ合計シテ其全數ニ適セル刑律ヲ
以テ論ス可シ

第五十四條 罪犯者一個或ハ數個ノ惡事ニ就テ若シ終身徒刑ニ處セラル
ルトキハ別ニ爾他ノ犯罪ヲ追問セス

第五十五條 各種ノ有期羈絆刑ヲ犯シタル者ハ罪犯中ニ就テ最重類ノ罪
科ヲ採リ以テ論ス但シ徒場驅役及ヒ有期徒刑ノ重キ者ハ此限ニ在ラス
禁獄ノ刑ト重キ羈絆ノ刑ト俱發スルトキ裁判官ハ其禁獄ニ換ルニ工役
或ハ罰金ヲ以テ處スヘキ適宜ヲ用フ可ラサルモノトス

第五十六條 同種類ナル有期羈絆刑ノ俱發スルトキハ之ヲ合算ス可シ然
レトモ徒場及ヒ徒場驅役ニ就テハ其最長期限ヲ超出スルヲ許サス或ハ
其超等ノ時間ハ之ヲ捨テ適宜ヲ以テ苛嚴ノ作業ヲ副スルコトアリ

ブロンズウイック刑法

第五十五條 同一惡事ノ繼續ニ非スシテ各種ノ施術ヲ以テ數個ノ違令ヲ

犯シ直ニ之ヲ處刑スヘキ者ハ其犯セシ各個ノ惡事ニ其罪ヲ科ス若シ一時ニ處刑ス可キ惡事ノ中所持物ニ對シテ企テシ同種類ナルモノヲ數個俱發セシ時ハ之ヲ其最重ノ罪ニ科ス但シ該罪ハ前ニ記載セシ如キ制定ヲ適用スルコトアリ或ハ其數個俱發セシ惡事ヲ合算シ其合計ニ因テ生シタル罪ヲ採リ少ナクトモ現出セル著明ノ者ヲ以テ其罪科ヲ酌量スルノ原因ト看做シ之ヲ判決ス又該惡事ノ數個俱發スル既行未成ノ者ニ於テモ亦同方法ヲ以テ之ヲ處刑スヘシ然レトモ其既成ノ惡事ト未成ノモノト數個俱發セシトキハ之ヲ以テ處刑ス可ラス

ハンブルグ刑法

第六十二條 同一惡事ノ連續ニ非ス各種ノ施術ニ因テ起リタル數個ノ罪犯ヲ合科スルトキハ死刑ニ當ツヘキ者ヲ除キ各罪犯ニ就テ其刑ニ處ス可シ然レトモ徒刑ノ如キハ其最長期限ニ超出スルコトヲ許サス又徒刑及ヒ禁獄ノ俱發スル者ハ徒刑ヲ以テ論シ罰金ノ數個合聚セシ者ハ金員ノ大小ニ關スス其合算シタル總額ニ依テ處分スルヲ法トス

バイエルン刑法

第八十四條 第一各種ノ所爲ニテ數個ノ重輕罪違令ヲ犯スコト第二同一ノ所爲ニテ同時ニ二個以上ノ刑律ヲ犯スコト或ハ同一ノ刑律ヲ種々ノ趣向ヲ以テ犯スコト
右二款ニ犯觸セハ法律ニ照シ之ヲ其最重ノ罪ニ科スヘシ若シ第一款ニ登載セル場合ニ在テ罰金及ヒ禁錮若クハ禁錮ヲ俱發シ若クハ數個ノ罰金ヲ合聚シタルトキハ何レニ於ケルモ該罰金ヲ合科スヘシ然レトモ違式ノミヲ犯シタル者ニ對シテハ罰金ノ總額一百五十ギユルダン以上ニ至ルヲ許サス又重罪若クハ輕罪及ヒ違令ニ該ル者ハ其金額一千ギユルダン以上ニ超ユルヲ許サス

第八十七條 有期羈絆ノ刑ヲ言渡サレシ者其處分セララルノ初メ或ハ處刑ノ際又新タニ有期羈絆ノ刑ニ處セラル可キ所業ヲ犯シ其一ハ徒刑其一ハ禁獄若クハ禁錮ニ當リタルトキ禁獄若クハ禁錮ヲ變換スルニ該刑ノ未タ處刑ニ至ラサル者ハ之ヲ徒刑ニ處スヘシ然レトモ之カ爲メ其禁

獄若クハ禁錮ノ時限ノ四分ノ三以上ヲ以テ本刑ニ合科ス可ラス

(遠式註違處分手續)

第九條 遠式註違罪ヲ犯シ二罪以上一時ニ俱發スルモノハ其贖金ヲ各自ニ科スヘシ

若シ遠式註違ノ罪ト刑律ノ罪ト俱發スルトキハ遠註ノ罪ヲ科セスシテ裁判所ヘ交付スヘシト雖モ其贖金ヲ追徴シ得ヘキモノハ其罪ヲ科シテ後裁判所ヘ交付スヘシ但シ其罪ヲ科スル科セサルヲ論セス其旨ヲ該犯ノ假口書ニ認ムヘシ

フレイメン刑法

第一百六條 同一ノ所爲ヨリ各種ノ刑律ニ觸レタルトキハ只其一罪科ヲ探ル可キモノナレトモ其犯シタル刑律ノ等級齊シカラサレハ其中最重ノ罪ヲ取テ處ス

第一百九條 數個ノ重罪ニ付テ同一ニ言渡ヲ爲ス可キトキ又ハ數個ノ刑ヲ合計刑ト爲ス可キ時ニシテ數個ノ羈絆刑ナレハ只其一個ヲ採リ而シ

テ就中其刑同等ナラサル場合ナレハ最重ナルモノヲ其基トナシ則テ刑ヲ相定ムルニハ其俱發スルモノヲ其如等ノ事由ト看做スヘシ
前件ノ重大ナル場合ニ於テハ裁判官其適用スル刑法ノ定期ナル最長時限ヲ二倍迄ニ増加スルノ權アリ如此ノ際ニ當テハ禁獄ハ五年ヨリ越ユルトモ十年ヨリ長カラシム可カラス然レトモ徒刑ノ最長時間ハ之ヲ超過スルヲ得ス

第二十條 他ノ惡業ノ爲メ羈絆ノ刑及ヒ罰金ノ合併スルトキ罰金ヲ以テ羈絆ノ刑ニ換フ可キ方法第一百十九條ノ成規ヲ適用ス可キナリ

唐律

諸二罪以上俱發以重者論等者須從一斷

即以賊致罪頻犯者竝累科

若罪法不等者即以重賊併滿輕賊各倍論

其一事分爲二罪罪法若等則累論

罪法不等者則以重法併滿輕法累併不加重者止從重

若一罪先發已經論決餘罪後發其輕若等勿論重者更論之通計前罪以充後數其應除免倍設備償罪止者各盡本法

明清律

凡二罪以上俱發以重者論罪各等者從一科斷其應入官賠償刺字罷職罪止者各盡本法

假刑律

凡二罪以上俱ニ發セハ重キモノヲ以テ論決ス各相等シキトキハ一ニ從テ科斷ス

若一罪先ニ發シ既ニ論決ヲ經ル後餘罪猶發シ其前罪ヨリ輕ク又ハ相等ハ無論其重キモノハ更ニ是ヲ論シ前罪ニ通計シテ後數ニ充シム其徵贓賠償除職ハ各其本法ヲ盡ス

新律綱領

凡二罪以上俱ニ發覺スレハ一ノ重キ者ヲ以テ論シ各等シキハ一ニ從テ科ス

其贓罪ニ係ル者ハ重贓ヲ以テ輕贓ニ併セ重キニ從テ科ス若シ併セテ仍ホ輕ク若クハ等シキハ一ノ重キニ從テ科ス輕贓ヲ以テ重贓ニ併スルコトヲ得ス假令ハ枉法贓百兩ヲ犯シ又竊盜二百兩ヲ犯セハ枉法贓ヲ以テ竊盜ニ併セ三百兩絞ニ處ス監守盜七十兩ヲ犯シ又不枉法一十兩ヲ犯セハ罪仍ホ輕シ一ノ監守盜七十兩ヲ以テ科ス常人盜八十兩ヲ犯シ又竊盜一十兩ヲ犯セハ罪等シ一ノ常人盜八十兩ニ從テ科スルノ類

若シ一罪先キニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發シ輕ク若クハ等キハ論スルコト勿レ重キハ更ニ論シ前罪ニ通計シ後數ニ充ツ

改定律例

第七十條 凡罪ヲ犯シ實斷贖罪並發スル二罪各等キ者ハ一ノ實斷ヲ以テ論ス若シ贖罪實斷ヨリ重キ者ハ重キニ從ヒ贖罪ニ處ス士族ノ破廉耻甚ヲ犯ス者ハ此例ヲ用ヒス

第七十一條 凡二罪以上俱ニ發覺スレハ一ノ重キ者ヲ以テ論シ各等キハ一ニ從テ科スト雖モ其贓物ノ追徵シテ官ニ入レ主ニ給シ若クハ棄毀器

物ノ賠償ス可キ等ハ各本法ヲ盡ス

第七十二條 凡二次以上盜ヲ爲シ首從ノ贓竝發スル者ハ首從ノ贓ヲ併セテ罪一等ヲ減ス若シ併セテ首從ノ本罪ト仍ホ等キ者ハ更ニ減セス假令ハ從贓五十圓ナルニ首贓四十圓ナルハ之ヲ併セテ九十圓懲役十年ニ該ル者從贓ニ併セテ罪仍ホ等キ者ハ減セスシテ全科ス

第七十三條 凡二次盜ヲ爲シ一次先キニ發シ已ニ論決ヲ經テ一次後ニ發シ及ヒ先キニ審結シテ贓ヲ盡ササル者論決ノ後發覺スレハ俱ニ後發ノ贓ヲ以テ前贓ニ併セ罪ヲ加フヘキナケレハ論セス若シ併セテ重キ者ハ更ニ加ヘテ全科ス

第七十四條 凡罪ヲ犯シ實斷收贖竝發スル者ヲ收贖折減ノ法ニ照シテ重キニ從ヒ實斷ニ處ス假令ハ實斷ノ懲役十日ヲ犯シ又收贖ノ十年ヲ犯セハ十年ヨリ五等ヲ減シテ懲役二年ニ實斷ス實斷ノ五十日ヲ犯シ又收贖ノ百日ヲ折半シテ五十日罪仍ホ等シ實斷ノ五十日ニ處スルノ類

第七十五條 凡華士族破廉耻甚ノ懲役百日以下ヲ犯シ又囚刑ノ禁錮一年

以上ヲ犯シ二罪俱發スレハ一ノ破廉耻甚ヲ以テ重ト爲シテ論ス

明律

若一罪先發已經論決餘罪後發其輕若等勿論重若更論之通計前罪以充後數

和蘭刑法

第五十五條 一個ノ行爲カ刑法中ノ一以上ノ規定ニ依テ罰セラルルトキハ單ニ其規定中ノ一ノミヲ適用シ其規定ニ差異アル場合ニ於テハ其定ムル所ノ主刑ノ最モ重キモノヲ適用ス

刑法ノ一般ノ規定ヲ以テ罰スル所ノ所爲ニ付キ刑法中ニ特別ノ規定アルトキハ單ニ特別ノ規定ノミヲ適用ス

第五十六條 數個ノ所行ヲ別々ニ見ルトキハ各一個ノ犯罪又ハ違警罪ヲ構成スト雖モ互ニ相關連スルヲ以テ之ヲ一個ノ繼續ノ行爲ト看做ササルヘカラサルトキハ單ニ刑法中ノ一規定ノミヲ適用ス其規定ニ差異アル場合ニ於テハ其定ムル所ノ主刑ノ最モ重キモノヲ適用ス

偽造罪 貨幣ノ偽造又ハ變造ノ罪ヲ犯シ且偽造貨幣ノ偽造又ハ變造ノ

用ニ供シタル目的物件ヲ使用シタリトシテ有罪ト認メラレタル者ニ對シテモ亦タ單ニ一個ノ刑ノミヲ適用ス

第五十七條 各獨立ノ所爲ト看做スヘキモノニ係リ且同性質ノ刑ヲ以テ罰スル數個ノ犯罪ヲ構成スル所ノ數罪俱發ノ場合ニ於テハ單ニ一個ノ刑ノミヲ宣告ス此刑ノ最高點ハ是等ノ犯罪ニ付キテ定メタル最高刑ノ總額ナリトス然レトモ此刑ハ最モ重キ刑ノ最高點ニ其三分之一以上超過スルヲ得ス

第五十八條 各獨立ノ所爲ト看做スヘキモノニ係リ且異ナリタル性質ノ主刑ニ該ルヘキ數個ノ犯罪ヲ構成スル所ノ數罪俱發ニ於テハ其刑ノ各個ヲ宣告ス然レトモ其合算シタル刑ハ最モ重キ刑ノ期限ニ其三分ノ一以上超過スルヲ得ス

罰金ハ之ニ換ハルヘキ拘留ノ最高點ノ期限トシテ之ヲ算用ス

第五十九條 無期禁錮ノ刑ヲ言渡ス場合ニ於テハ特定ノ權利ノ剝奪既ニ押收シアル物件ノ沒收及裁判ノ公示ノ外他ノ附加刑ヲ科スルコトヲ得ス

第六十條 第五十七條及ヒ第五十八條ニ豫定シタル場合ニ於テ附加刑ニ關シテハ左ノ規定ニ從フヘキモノトス

第一 同一ノ權利ノ剝奪ノ刑ハ之ヲ合併ニテ一個ノ刑ト爲シ其刑期ハ科セラレタル主刑又ハ數個ノ主刑ヨリ二年以上三年以下ヲ超過スルモノトス若シ罰金ノ外他ニ主刑ヲ科セサリシトキハ其刑期ハ二年以上五年以下トス

第二 異ナリタル權利剝奪ノ刑ハ各犯罪ニ付キテ別々ニ之ヲ科シ其刑ヲ輕減ス

第三 特定物件ノ沒收ノ刑竝ニ其物件ノ交付セラレサリシ場合ニ於ケル補充ノ拘留ハ各犯罪ニ付キテ別々ニ之ヲ科シ其刑ヲ輕減セス

補充ノ拘留ノ刑ハ之ヲ合算シテ八月ノ期限ヲ超過スルコトヲ得ス

第六十一條 異ナリタル性質ヲ有スル主刑ノ比較上ノ輕重ハ第九條ニ定メタル列舉ノ順序ニ從フ

裁判官カ二個ノ主刑中ニ於テ選擇ヲ爲シ得ヘキトキハ刑ノ比較上ニ於

テ單ニ此兩刑中ノ最モ重キモノノミヲ採擇スルモノトス
同一ノ性質ヲ有スル刑ノ比較上ノ輕重ハ其最高點ヲ以テ之ヲ定ム或ル
モノハ同一ノ性質ヲ有シ其他ノモノハ異ナリタル性質ヲ有スル所ノ主
刑ハ比較上ノ期限モ亦タ其最高ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 第五十七條第五十八條ニ示シタル條件ニ於テ犯罪ト違警罪
ト俱發シ若クハ數個ノ違警罪カ俱發シタル場合ニ於テハ各違警罪ニ付
キテ一ノ刑ヲ科シ刑ヲ輕減セス
拘留ノ刑竝ニ補充ノ拘留ト併合シタル違警罪ノ爲メ八月ノ期限ヲ超過
スルヲ得ス
官設ノ作業場ニ留置スルノ刑ハ之ヲ合併シテ一個ノ刑ト爲シ本刑期ハ

第三十二條ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム
第六十三條 犯罪人カーノ刑ノ言渡ヲ受ケタル後更ニ其言渡前ニ行ヒタ
ル犯罪又ハ違警罪ニ付キテ有罪ト宣告セラレタルトキハ同時ノ判決ニ
關スル本章ノ規定ニ從ヒ前キニ言渡サレタル刑ヲ參酌ス

奧太利刑法草案

第七十五條 同一ノ所爲ニ依リ刑法ノ種々ノ規定ヲ犯シタルトキハ止タ
一ノ刑ノミヲ科ス可シ此際ニハ侵犯セラレタル規定中刑ノ種類其ノ最
上限及ヒ其最下限ノ關係ニ於テ最モ重キ規定ヲ適用スルモノトス
然レトモ若シ侵犯セラレタル規定中其刑ノ最モ重キ規定ニ於テ二個以
上ノ刑類ニ就テ選擇シテ處刑スヘキコトヲ定メアルトキハ前段ノ規定
ノタメ判事ノ撰擇權ハ變更セラルルコトナキモノトス
右ニ依リ適用ス可キ刑ノ最長期及ヒ最短期ヨリ大ナルトキハ第十七條
ニ定メタル規定ニ從ヒ換刑ス可キモノトス
侵犯セラレタル規定中ノ一ニ於テハ國家禁錮他ニ於テハ禁錮ヲ科シア
ルトキハ後記ノ刑ヲ適用ス可シ但第十六條ノ規定ヲ妨ケサルモノトス
第七十六條 數多ノ獨立ナル所爲ニ依リ數多ノ種々ナル重罪輕罪又ハ違
警罪ヲ行フカ若クハ數多ノ獨立ナル所爲ニ依リ同一ノ重罪又ハ輕罪又
ハ同一ノ違警罪ヲ數同行フトキハ第七十五條ノ規定ヲ適用スルモノト

ス

第七十七條 侵犯セラレタル目的物ノ價額又ハ加ヘラレタル損害カ一定ノ金額ヲ超ヘタルトキ加重ノ刑ヲ適用スル罰スヘキ所爲ニアリテハ同一ナル罰ス可キ所爲ヲ基クル一又ハ一以上ノ同時ノ攻撃又ハ數回ノ攻撃ニ依テ該金額ヲ達スルトモ又ハ數回ノ罰ス可キ所爲カ總テ又ハ一部成就スルトモ又ハ只未遂ニ止マルトモ區別ナキモノトス

第七十八條 附加刑及ヒ主刑ノ結果ニ關スル規定ハ假令之ヲ止タ數多ノ犯罪中ノ一ノミヲ附加ス可キトキト雖モ亦適用スルモノトス
數多ノ行爲中一ノミカ罰金ノ刑ニ科セラレタルトキト雖モ自由刑ト共ニ之ニ言渡スコトヲ得可シ

第七十九條 一ノ罰ス可キ所爲ノ判決ヲ經サル後チ犯罪者カ其ノ判決前ニ尙ホ他ノ罰ス可キ所爲ヲ犯シタルコト發覺シタルトキハ後發ノ所爲ヲ處刑スルノ際前判決ヲ以テ科シタル刑ヲ注意ス可シ但此ノ注意ノタメ死刑ノ適用ヲ排斥スルヲ得サルモノトス

假令以前判決ニ於テ二個ノ犯罪ニ就キ同時ニ刑ヲ言渡サルルトモ其刑ハ現刑ヨリ甚タ重キコトナカル可シト思料セラルル場合ニアリテハ後發ノ所爲ノ糺罪及ヒ處刑ハ之ヲ爲ササルコトヲ得ルモノトス

那威刑法

第六十二條 何人ト雖モ一個又ハ數個ノ所爲ニ依リ禁錮又ハ拘留ヲ科ス可キ數個ノ罪又ハ違背ヲ犯シタルトキハ其各個ノ可罰所爲ニ付キ規定シタル最低刑中最高ナルモノヨリ嚴峻ニシテ何ノ場合ニ於テモ各個ノ可罰行爲ニ付キ規定シタル最高度ニ其半額ヲ加ヘタルモノヲ超過セサル併合刑ヲ裁定ス可シ併合刑ハ其可罰行爲ノ一個ニ對シ禁錮ヲ科ス可キ場合ニ於テハ通常之ヲ禁錮ニ確定ス
可罰行爲ノ一個ニ對シ禁錮ヲ科ス可キ場合ニ於テハ拘留ヲ適用スルトキト雖モ禁錮ヲ適用セルトキト同一ノ副刑ヲ科ス

瑞西刑法典案

第四十五條 何人ト雖モ自由刑ヲ規定シタル數個ノ罪ニ因リ審理ヲ受ク

ルトキハ最重ノ罪ヲ管轄スル瑞西裁判所之ヲ判決ス
何人ト雖モ一個又ハ數個ノ行爲ニ依リ數個ノ自由刑ヲ科セラレタルト
キハ判事ハ最重ノ罪ノ刑ヲ判決シ適當ニ之ヲ加重ス
判事ハ規定シタル刑ノ最高度ノ半ハヲ加重スルコトヲ得但シ刑種ノ法
定存續期ニ拘束セラレ

最重ノ罪ノ刑ハ何人ト雖モ自由刑ヲ宣告セラレタル者其執行前其宣告
前ニ犯シタル罪中ノ一個ニ因リ自由刑ヲ執行シタル場合ニ於テモ亦同
一ニ其適用ヲ有ス

自由刑ト共ニ豫見セル刑又ハ處分ハ絶對ノ適用ヲ有ス

第三 釋義

第四十五條ハ併合罪トシテ處斷ス可キ場合ヲ示シタルモノニシ
テ確定裁判ヲ經サル數罪ハ併合罪トシ若シ數罪中ノ或罪ニ付キ確定裁判ア
リタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トスルコト
ヲ規定シタルモノナリ

第四十六條ハ死刑無期ノ懲役禁獄ト他ノ刑トノ併科ヲ爲スヘキ場合ノ規定

ニシテ前ニ擧ケタル如ク本法ハ併合罪ノ場合ニ於テ各罪ニ付キ其刑ヲ併科
スル主義ヲ採レトモ若シ一罪ニ付キ死刑ヲ科ス可キ場合ニハ他ノ刑ハ之ヲ
科スルヲ得サルモノアリ又其必要ナルモノアリ故ニ沒收ヲ除ク外ハ他ノ刑
ヲ科セサルコトヲ規定セリ若シ又一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可
キトモ之ト同一ノ理由ニテ罰金科料及ヒ沒收ノ外ハ他ノ刑ヲ科セサルコト
ヲ規定シタリ被告人死刑ニ處セラレタルモノト雖モ沒收ハ其身體ニ關係ナ
クシテ之ヲ執行シ得可シ又無期刑ニ處セラレタル者ト雖モ罰金科料及ヒ沒
收ハ共ニ被告人ノ財産ヨリ徵收スルモノナレハ是亦併科スルニ差支ナシ是
兩項ニ但書アル所以ナリ

第四十七條ハ二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ科ス可キ場合ニシテ前ニ述
ヘタル如ク制限併科ノ主義ヲ採リタルモノナリ其制限ノ程度ハ本條ノ定ム
ル所タリ即チ併合罪中最モ重キ罪ニ對スル刑ノ長期ニ其半ヲ加ヘタルモノ
ヲ以テ併合罪ニ對スル刑ノ長期ト爲スヲ原則トス(例ヘハ長期十年ノ有期刑
ニ該ル可キ罪ヲ二個犯シタル場合ニ於テハ十五年ニ處スルノ類然レトモ併

合罪ノ刑期ハ其各罪ノ長期ヲ加ヘタルモノニ超過スルコトヲ得サルモノトス(例ヘハ長期十年ノ有期刑ニ該ル可キ罪ト二年ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ本文ノ規定ニ依レハ十五年ニ處スルコトヲ得可キ結果ヲ生スレトモ各罪ニ付キ併科スルモ其積算ハ十二年ニ過キス若シ之ヲ十五年ニ處センカ普通ノ場合ヨリモ重ク處罰スルノ結果ヲ生スルヲ以テ但書ヲ以テ十二年以上ニ處スルコトヲ得サル旨ヲ規定シタルモノナリ)此ノ如ク規定セサレハ却テ制限併科ノ趣旨ニ反シ純粹ニ各刑ヲ併科シタルヨリ一層不利益ナル效果ヲ犯人ニ及ホシ遂ニハ名ハ有期刑ナルモ其實無期刑ニ均シキ結果ヲ生スレハナリ

本條ノ場合ニ於テ刑ノ長期ニハ其犯數ヲ加フルノ規定アルモ短期ニハ之ヲ除外ス蓋シ短期ハ別ニ併合罪ノ場合ニ於テモ之ヲ降スヘキ必要ナキヲ以テナリ如何トナレハ本法ニ於テハ成ル可ク刑ノ範圍ヲ廣クシテ裁判官ニ自由ヲ與ヘントスルノ希望ヲ有ス而シテ長期ヲ降スノ必要アルモ短期ハ例ヘ之ヲ降ササルモ其範圍内ニ於テ情狀ニ依リ其刑ヲ重クス可キ必要アルトキハ

其範圍内ニ於テ之ヲ斟酌スルコトヲ得ヘク又例ヘ併合罪ト雖モ情狀輕キ場合ニ在リテハ其刑ヲ下ス可キ必要アレハナリ

第四十八條ハ罰金ト他ノ刑トヲ併科スヘキ場合ノ規定ニシテ本法ハ刑ノ性質上併科シ得可キモノハ成ル可ク之ヲ併科スル主義ヲ採リタルヲ以テ罰金ノ如キハ他ノ刑ト併科スルコトヲ原則トセリ但本法第四十六條第一項ノ如ク死刑ヲ科ス可キ場合ノミハ之ヲ例外ト爲シタリ

本條第二項ニ二個以上ノ罰金ヲ科ス可キトキハ其罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷スルコトヲ規定シタルモノナリ本項ノ規定モ亦併科主義ヲ採リシモノナリ即チ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ範圍内ニ於テ處斷シタル罰金額ヲ合算スルモ各罪ニ付キ定メタル罰金額ヲ合算シタル範圍内ニ於テ其罪ヲ處斷スルモ理ニ於テ異ナル所ナシ但本條ノ如ク規定スルトキハ裁判官ニ裁量ノ餘地ヲ存シ各場合ニ付キ自由ニ酌量シ得ル便宜アリ純然タル併科主義ト其效果ヲ同フセス

第四十九條ハ併合罪ニ關スル沒收ノ規定トス

第一項ハ併合罪中其重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ其沒收ヲ科スルコトヲ規定セルモノトス

第二項ハ二個以上ノ沒收アル場合ニシテ沒收ハ特定ノ物ニ關シテ必要アルモノナルヲ以テ常ニ之ヲ併科スルコトヲ規定シタルモノナリ

第五十條ハ併合罪中或罪ハ已ニ裁判ヲ經或罪ハ未タ裁判ヲ經サル場合ニ於テハ未タ裁判ヲ經サル罪ノ刑ヲ定ムルコトヲ規定シタルモノニシテ其執行方法ハ次條ニ規定セリ

第五十二條ハ併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタル場合ノ規定ニシテ各裁判ニ對シ其刑ヲ併セ執行スルコトヲ原則トス然レトモ場合ニ依リ刑ノ性質上併セ執行スルコトヲ得サルコトアリ即チ一罪死刑ニ該ルトキハ沒收以外ノ刑ハ之ヲ執行セス又無期刑ヲ執行ス可キトキハ罰金科料及ヒ沒收ノ外他ノ刑ヲ執行セス又有期刑ヲ併セテ執行ス可キ場合ニハ其刑期ノ合計カ其最モ重キ罪ノ刑期ニ其半ヲ加ヘタルモノニ超過ス可カラサルコトヲ規定ス是皆執行官ニ於テ證據ス可キ標準ヲ示スモノナリ

第五十二條ハ併合罪ニ付キ處斷セラレタル者カ併合罪中ノ或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ノ規定ナリ大赦ハ其效力トシテ罪ニ付テノ裁判ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ更ニ獨立スル一ノ刑ヲ科スル必要アリ故ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ別ニ刑ヲ科スルコトト爲シ以テ舊刑法ノ不備ヲ補ヘリ

第五十三條ハ拘留又ハ科料ハ他ノ刑ト總テ之ヲ併科スルコトヲ規定シタリ舊刑法ハ違警罪ノ刑ハ之ヲ併科シ重罪輕罪ト共ニ發スルトキハ一ノ重キニ從ント規定セルヲ以テ本法ハ拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ併發ノ場合ハ現行法ノ違警罪併發ノ場合ト同一主義ヲ採リ拘留又ハ科料ニ處ス可キ罪其他ノ重罪ト共ニ發シタル場合ニハ舊刑法ノ吸收主義ヲ改メ併科主義ヲ採リタルモノナリ又本條但書ハ第四十六條ノ規定ヨリ生スル當然ノ結果ナリトス

第五十四條ハ學說ニ所謂想像上ノ數罪俱發ト稱スル場合及ヒ相牽連スル犯罪ニ關スル規定ナリ本法ハ併合罪ノ場合ニ於テハ成ル可ク各別ニ罰ス可キ

趣旨ニ依リ或ハ加重シ或ハ併科スル規定ヲ設ケタレトモ本條ニ規定シタル所ハ純粹ノ併合罪ト云フ可キモノニ非ス一個ノ行為ニシテ法律上數個ノ罪名ニ觸ルルモ元來ノ行為ハ唯一ナリ又ハ其行為カ犯罪ノ手段トナリ若クハ犯罪ヨリ生シタル所ノ結果カ他ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ普通ノ併合罪ノ如ク刑ヲ加重スルハ酷ニ過クルノ嫌アルヲ以テ此場合ニ於テハ其罪名中最モ重キ刑ヲ科スルコトトシ特ニ吸收主義ヲ採リタルモノナリ

第五十五條ハ所謂連續犯ト稱スル場合ノ規定ニシテ亦舊刑法ニ規定ナキ爲メ往々爭議ヲ生シタルモノナリ本條ハ連續シタル數個ノ行為カ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ之ヲ數罪トシテ處斷スル必要ナシト認メ一罪トシテ處斷スルコトヲ明ニシ從來ノ疑義ヲ避ケタルモノトス

第十章 累犯

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス

可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第一 沿革

第一案 第八十二條 確定判決ニ依リ先ニ刑ニ處セラレタル者再ヒ罪ヲ犯

ストキハ再犯ト爲ス

再犯ニ因リテ刑ヲ加重スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第八十三條 初犯再犯共ニ緊獄ノ刑ニ該リ同時之ヲ執行ス可キト

キハ定役ヲ附スルモノヲ先ニシ定役ヲ附セサルモノヲ後ニス若

シニ刑共ニ定役ヲ附スルモノナルカ又ハ定役ヲ附セサルモノナ

ルトキハ先ツ其重キモノヲ執行ス

第二案 第六十八條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除

アリタル日ヨリ十年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキ

ハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ該ル罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第六十九條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ法律ニ定メタル懲役ノ長期ノ二倍トス

第七十條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除アリタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第七十一條 三個以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第三案 第六十八條 第二案第六十八條ニ同シ

第六十九條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第七十條 第二案第七十條ニ同シ

第七十一條 第二案第七十一條ニ同シ

第四案 第六十七條 第三案第六十八條ニ同シ

第六十八條 第三案第六十九條ニ同シ

第六十九條 第三案第七十條ニ同シ

第七十條 第三案第七十一條ニ同シ

第二 參照法律

舊刑法

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本

刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラヌ各之ヲ徴收ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

佛蘭西刑法

第五十六條 施體又ハ加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ後更ニ主タル刑トシテ公權剝奪ノ刑ヲ言渡ス可キ重罪ヲ犯シタル者ハ追放ノ刑ノ言渡ヲ受クヘシ
更ニ追放ノ刑ニ處スヘキ重罪ヲ犯セシ者ハ囚獄ノ刑ニ處ス可シ
更ニ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ有期ノ徒刑ニ處ス可シ
更ニ囚獄ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ至重ナル囚獄ノ刑ノ二倍ヨリ多カラサル期限間囚獄ノ刑ニ處ス可シ
更ニ有期ノ徒刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ至重ナル有期ノ徒刑ノ二倍ヨリ多カラサル期限間有期ノ徒刑ニ處ス可シ
更ニ流刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ
一旦無期ノ徒刑ヲ言渡サレシ者更ニ無期ノ徒刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セ

シ者ハ死刑ニ處ス可シ

第五十七條 重罪ノ爲メ一年間以上ノ禁錮ノ刑ヲ言渡サレシ後更ニ懲治ノ刑ニ處ス可キ輕罪又ハ重罪ヲ犯セシ者ハ法律上ニ定メタル至重ノ懲治刑ニ處セラル可シ但シ其期限ハ通常ノ期限ノ二倍ニ至ル迄之ヲ増スコトヲ得可シ此刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第五十八條 輕罪ノ爲メ一年以上禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者其後更ニ懲治ノ刑ニ處ス可キ輕罪又ハ重罪ヲ犯セシトキハ法律上ニ定メタル至重ノ懲治刑ニ處セラルヘシ但其期限ハ通常ノ期限ノ二倍ニ至ル迄之ヲ増スコトヲ得可シ又其再犯人ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

第四百七十四條 第四百七十一條ニ記シタル(註誤ノ刑一)フランクヨリ少カラス五フランクヨリ多カラサル罰金各犯人再犯ノ罪アルトキハ三日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ

第四百七十五條 第五ニ記シタル者同罪ヲ再犯シテ逮捕ヲ受ケタルトキハ其犯人ヲ輕罪裁判所ニ呼出シ六日ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處シ且十六フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ヲ言渡ス可シ

第四百七十八條 第四百七十五條ニ記シタル(六)フランクヨリ少カラス十フランクヨリ多カラサル罰金各犯人再犯ノ罪アルトキハ五日ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第四百八十二條 第四百七十九條ニ記シタル場合ニ於テ(十二)フランクヨリ少カラス十五フランクヨリ多カラサル罰金其各犯人ニ再犯ノ罪アルトキハ五日ノ時間禁錮ノ刑ニ處ス可シ

第四百八十三條 犯人前ノ十二月内ニ裁判所ノ管轄内ニ於テ誑誤ノ罪ヲ犯スニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル後其裁判所ノ管轄内ニ於テ再ヒ其罪ヲ犯セシトキハ此編ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ再犯ノ罪アリトス
獨逸刑法

第二百四十四條 強竊盜又ハ強盜ト同シク論スヘキ罪或ハ其窩主ヲ爲シタルニ依リ已ニ處決セラレシ者再ヒ其同種ノ重罪輕罪ヲ犯シ其再犯ノ罪若シ竊盜ニ該レハ十年以下ノ徒刑ニ處シ若シ強盜ニ該レハ二年以上ノ徒刑ニ處ス

若シ酌量輕減アルトキハ竊盜ナレハ二年以上ノ禁獄ニ處シ強盜ナレハ一年以上ノ禁獄ニ處ス

第二百四十五條 前刑ノ一部ヲ終ヘ又ハ其全部或ハ一部ヲ赦宥セラレタルトキモ亦前條ヲ通シ用フヘシ然レトモ若シ處刑ヲ全ク終ヘ又ハ赦宥セラレシトキヨリ再ヒ盜罪ヲ犯ス迄ノ時間已ニ十年ヲ過キタル者ハ此例ニ在ラス

第二百五十條 強盜又ハ強盜ト等シク論スヘキ重罪ニ因リ已ニ處決セラレシ者強盜ヲ爲シタルトキハ第二百四十五條ニ記セシ規則ヲ通シ用フ可シ

第二百六十一條 已ニ窩主ノ罪ニ處決セラレシ者更ニ其同種ノ重輕罪ニ

依リ處決セラレ其後重盜又ハ強盜若クハ強盜ト同シク論スヘキ重罪ニ
ヨリ再ヒ窩主ノ罪ヲ犯セシトキハ二年以上ノ徒刑ニ處ス若シ酌量輕減
アリト雖モ一年ノ禁獄ヨリ減ス可ラス

第二百六十四條 已ニ詐欺犯罪ニ依リ處決セラレシ後再ヒ其同種ノ輕罪
ニ因ツテ處決セラレシ者更ニ詐欺取財ノ罪ヲ犯セシトキハ十年以下ノ
徒刑ニ處シ尙ホ五十「タ」レル以上二千「タ」レル以下ノ罰金ヲ科ス
若シ酌量輕減アルトキハ三月以上ノ禁獄ニ處シ千「タ」レル以下ノ罰金
ヲ科ス

白耳義刑法

第五十四條 何レノ箇條タルヲ論セス已ニ重罪ヲ犯セシ後更ニ再役ニ該
ル罪ヲ犯ス者ハ十年以上十五年以下ノ徒刑ニ處ス
更ニ十年以上十五年以下ノ徒刑ニ該ル罪ヲ犯ス者ハ十五年以上二十年
以下ノ徒刑ニ處ス
更ニ十五年以上二十年以下ノ徒刑ニ該ル罪ヲ犯ス者ハ十七年ヨリ少カ

ラサル徒刑ニ處ス

第五十五條 已ニ重罪ヲ犯セシ後更ニ五年以上十年以下ノ禁錮ニ該ル罪
ヲ犯ス者ハ十年以上十五年以下ノ禁錮ニ處ス

更ニ十年以上十五年以下ノ禁錮ニ該ル罪ヲ犯ス者ハ非常禁錮ニ處ス
第五十六條 已ニ重罪ヲ犯スノ後更ニ輕罪ヲ犯ス者ハ輕罪一等ヲ加重ス
初犯一年以上ノ獄ニ該リ其期終ルノ日又ハ其受刑ノ日ヨリ算シ五年ヲ
出テスシテ再ヒ輕罪ヲ犯ス者ハ同刑ニ處ス可シ
右二件ニ於テハ其犯人ヲ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間警
視ノ監察ニ付ス可シ

第五十七條 已ニ軍律ヲ犯シ又其再犯輕重罪ニ依テ論ス可キ者ヲ犯スモ
前數條ニ依テ處斷ス如此類ハ再犯加等ニ於テ前犯ヲ其尋常律ノ下等ニ
該ルモノトス(例ヘバ徒刑十五年以上二十年以下ニ該ル者ハ十五年ニ處
スルモノトスルノ類)

第五百五十八條 第五百五十五條及ヒ第五百五十六條ノ違警罪再犯スル

者ハ罰金ノ外尙ホ一日ヨリ四日マテノ獄ニ處スルコトアル可シ
 第五百五十七條ノ違警罪再犯スル者ハ裁判官ヨリ罰金ノ外尙ホ獄ヲ科
 スルコトアル可シ但シ獄ハ七日ニ止マル可シ
 第五百六十二條 第五百五十九條及第五百六十條ノ再犯ハ罰金ノ外尙ホ
 獄ヲ科スルコトアル可シ但シ獄ハ五日ニ過ク可カラス
 第五百六十一條ノ再犯ニ在テハ裁判官ヨリ罰金ノ外尙ホ獄ヲ科スルコ
 トアル可シ但シ獄ハ九日ニ止マル可シ
 第五百六十四條 第五百六十三條ノ再犯ハ罰金ノ外尙ホ獄ヲ科スルコト
 アル可シ但シ獄ハ十二日ニ止マル可シ
 第五百六十五條 十二个月間ニ同罪兩度ニ及ヒ同裁判所ニ關スル者ハ再
 犯トス

英吉利刑法

一 重罪ヲ犯シ已ニ處斷ヲ經テ再ヒ死罪及ヒ竊盜ニ非サル重罪ヲ犯ス者
 ハ七年以上終身ニ至ル徒刑ニ處ス又ハ監牢若クハ苦役ヲ加ヘ又ハ之ヲ

加ヘスシテ四年以下ノ囚獄ニ處ス

一 重罪ヲ犯シ已ニ處斷ヲ經テ再ヒ徒刑ヲ以テ罰スヘキ罪ヲ犯ス者ハ七
 年以上ノ徒刑ニ處スヘシ

一 偽造變造タルヲ知テ金銀貨幣ヲ行使スル罪ニ處斷セララル後再ヒ同
 罪ヲ犯ス者ハ五年以上終身ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ監牢苦役ヲ加ヘ又ハ
 之ヲ加ヘスシテ二年以下ノ囚獄ニ處ス

一 竊盜律ニ依テ罰スヘキ輕罪ヲ犯シ已ニ處斷ヲ經テ再ヒ竊盜又ハ竊盜
 律ニ依テ罰スヘキ罪ヲ犯ス者ハ五年以上七年以下ノ徒刑或ハ監牢苦役
 ヲ加ヘ又ハ之ヲ加ヘス二年以下ノ囚獄ニ處ス可シ

一 即決法ニ依テ罰スヘキ罪ヲ再犯シ判決ヲ經ル後竊盜若クハ竊盜律ヲ
 以テ罰スヘキ罪ヲ犯ス者ハ五年以上七年以下ノ徒刑或ハ苦役監牢ヲ加
 ヘ又ハ之ヲ加ヘス二年以下ノ囚獄ニ處スヘシ

一 輕罪ヲ犯シ已ニ處斷ヲ經テ再ヒ竊盜若クハ竊盜ヲ以テ論ス可キ罪ヲ
 犯ス者ハ五年以上七年以下ノ徒刑或ハ苦役監牢ヲ加ヘ又ハ之ヲ加ヘス

二年以下ノ囚獄ニ處ス可シ
一 純粹ノ軍律犯罪ハ再犯ニ算ヘス其他ノ犯罪ハ軍人ト雖モ通例常律裁
判所ニ於テ之ヲ處斷ス

埃地利刑法

第四十四條第三項 同種ノ重罪ノ爲メ已ニ刑ニ處セラレシ者再犯スルト
キハ加等スヘキ情狀トス
第四十九條 加等ノ爲メ各重罪ニ用フ可キ刑ノ種類ヲ變シ及ヒ法律ヲ以
テ定メタル制限ヲ超過ス可ラス
第五十條 死刑及ヒ無期徒刑ニ於テハ加等法ヲ適用スルコトヲ得メ
第五十一條 有期徒刑ニ於テ加等スヘキ時ハ法律ヲ以テ定メタル幾上等
ノ期限若クハ其最長ノ期限ニ循テ處シ且ツ其分ニ應シテ第十九條ニ記
セシ加重法ノ一個若クハ數個ヲ科ス
第二百六十三條 輕罪、遠式罪トモ左ノ情狀アル者ハ總テ之ヲ加等ス
第二 已ニ輕罪若クハ遠式罪ヲ以テ刑ニ處セラレシ者更ニ前罪ヲ再犯

スルトキ

再犯ノ罪ハ各本條ニ掲ケリ
第四百三十六條 若シ前條ノ遠式罪再犯スルハ其罰金倍額ヲ科ス可シ又
三犯スレハ自分總テ建築ノ工事ニ從事スルヲ禁止ス再犯ノ罪ハ各本條
ニ掲ケリ

瑞典刑法

第十二條 終身工役刑ニ處セシ者更ニ死刑ニ非ル罪ヲ犯セシドキハ二十
一日ニ過キササル時間監室孤繫ニ處ス
前項ヨリ重キ者ニ對シテハ日數ヲ三倍スルコトアリ即チ其期限ハ三月
ヨリ少カルヘカラス

露西亞刑法

第三百三十七條 犯罪者其重罪ヲ再犯シ或ハ前ニ犯爲セシ重罪ノ刑ヲ受ケ
シ後更ニ他ノ重罪ヲ犯シ及ヒ前ニ犯爲セシ重罪ハ大赦或ハ帝王ノ特赦
ヲ以テ其罪ヲ免サレタルトキ更ニ新重罪ヲ犯爲スル者モ亦加重ノ情狀

トシ論セラルヘシ

第三百三十八條 成法中各個再犯ニ對シ特別ノ刑ヲ掲ケサルトキハ裁判所ニ於テ其科スヘキ刑ノ最重ヲ擇テ之ヲ處ス

埃及刑法

第十三條 重罪ヲ犯シ其刑ヲ言渡サレシ者其後更ニ位級ヲ得及ヒ公務ヲ行フ權ノ無期ノ剝奪又ハ公權剝奪ヲ以テ罰スヘキ重罪ヲ犯シタルトキハ有期繫獄ノ刑ニ處ス

第十四條 無期追放ノ刑ヲ言渡サレシ者其後更ニ無期繫獄刑ヨリ輕キ刑ヲ以テ罰スヘキ重罪ヲ犯シタルトキハ無期繫獄刑ニ處ス

第十五條 無期繫獄刑ヲ言渡サレシ者其後更ニ無期徒刑ヨリ輕キ刑ヲ以テ罰スヘキ重罪ヲ犯シタルトキハ無期徒刑ニ處ス

第十六條 無期徒刑ヲ言渡サレシ者其後更ニ重罪ヲ犯シタルトキハ死刑ニ處ス

第十一條 再犯ノ罪アルトキハ其犯人ニ法律上ニ定ムル刑ノ至重ノ限極

ヲ言渡ス可ク又其刑ノ限極ヲ増シテ二倍ト爲スコトヲ得可シ但シ別段法律上ニ定メタル場合ハ例外ナリトス

第十二條 重罪ヲ犯シテ刑ヲ言渡サレシ者其後更ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルトキ又ハ一年以上ノ禁錮或ハ有期追放ノ刑ヲ言渡サレシ者其後更ニ輕罪ヲ犯シタルトキハ再犯ノ罪アリト看做ス可シ

第十七條 重罪ヲ犯シタル者更ニ輕罪ヲ犯シタルトキハ法律上ニ定メタル刑ノ外五年以上十年以下ノ監視ヲ受ケシム

第十八條 前數條ニ記シタル場合ノ外一個ノ特ニ定マリタル罪ヲ犯シテ其刑ヲ言渡サレタル者其後十年内ニ更ニ以前ト同シキ罪ヲ犯シタルトキハ前刑ノ二倍ヨリ少カラサル刑ニ處ス但シ其刑ハ法律上ニ定メタル刑ノ二倍ニ過ク可ラス

印度刑法

第七十五條 貨幣印紙等ノ贋造及財産ニ對スル罪ニ依テ已ニ三年以上ノ加苦役又ハ無苦役囚獄ヲ以テ罰スヘキ犯罪ヲ判決セラレ再ヒ其罪ヲ犯

ストキハ再犯罪ヲ以テ終身流刑又ハ再犯ニ非スシテ處セラレヘキ刑ノ
二倍ニ處ス但シ再犯ト雖モ十年ニ超フル囚獄ニ處スルコトナカル可シ

加利堡爾尼刑法

第六百六十六條 先キニ州獄ノ刑ヲ以テ處斷セラレシ者更ニ他ノ罪ヲ犯
ストキハ左ニ記スル刑ヲ以テ之ヲ罰スヘシ

第一 初犯ニ於テハ五年以上ノ州獄ニ處スヘキモノ再犯ニ係レハ十年
以上ノ州獄ニ處ス可シ

第二 初犯ニ於テハ五年以下ノ州獄ニ處ス可キ者再犯ニ係レハ十年以
下ノ州獄ニ處ス可シ

第三 後犯ノ罪竊盜罪或ハ五年以下ノ州獄ニ處スヘキ罪ヲ犯サントシ
テ未タ遂ケサル者ハ五年以下ノ州獄ニ處ス

第六百六十七條 竊盜ヲ犯シテ處斷セラレ或ハ州獄ヲ以テ處ス可キ罪ヲ
犯サントシテ未タ遂ケサル爲メ處斷セラレシ者更ニ他ノ罪ヲ犯ストキ
ハ左ニ記スル刑ヲ以テ之ヲ罰スヘシ

第一 初犯ニ於テハ裁判官ノ意見ヲ以テ終身ノ州獄ニ處スヘキ者再犯
ニ係レハ之ヲ終身州獄ニ處ス可シ

第二 初犯ニ於テハ終身ニ至ラサル州獄ニ處スヘキ者ニ係レハ後犯ノ
罪其最長期ノ州獄ニ處ス可シ

第三 後犯ノ罪竊盜罪ニ係リ或ハ州獄ニ該ル罪ヲ犯サントシテ未タ遂
ケサル者ハ五年以下ノ州獄ニ處ス可シ

第六百六十八條 凡他州他政府若クハ外國ニ在テ處刑ヲ受ケ更ニ本州ニ
於テ他ノ罪ヲ犯セシ者ハ其初犯本州ニ於テ州獄ニ該ル可キ者ニ係レハ
本州裁判所ニ於テ處刑セシ者ト同シク前二條ノ例ヲ以テ其再犯罪ヲ處
斷ス

細々利刑法

第七十九條 先ニ重罪ノ刑ヲ犯シタル者再犯重罪ヲ犯シタル時ハ其事犯
ニ科スヘキ本刑ニ一等ヲ加重シテ處斷ス但シ加ヘテ無期徒刑ニ止メ死
刑ニ入ルコトヲ得ス

第八十一條 無期徒刑ノ罪犯或ハ前條ノ規則ニ從ヒ有期ノ刑ヲ加等シテ無期徒刑ニ該ル者更ニ徒刑第二等若クハ其重キニ處スヘキ重罪ヲ犯シタルトキハ死刑ニ處ス

第八十二條 重罪ヲ犯シタル者再ヒ輕罪ヲ犯ス時ハ其輕罪ニ就テ定メタル刑ノ至重ニ處シ又ハ其刑ヲ二倍スルコトヲ得可シ若シ其初犯ノ刑期未タ滿タサルトキハ其初犯ノ刑期滿チタル後チ第二ノ刑ヲ決行ス

第八十三條 輕罪ヲ犯シタル者再ヒ輕罪ヲ犯シタルトキハ其輕罪ニ就テ定メタル刑ノ至重ニ處シ又ハ其刑ヲ二倍スルコトヲ得ヘシ

第八十四條 若シ一度違警罪ノ刑ニ處セラレタル後チ六月内ニ再ヒ違警罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ違警罪ノ再犯トス此場合ニ於テハ其再ヒ犯シタル違警罪ニ就テ定メタル刑ノ至重ニ處シ又ハ之ヲ二倍スルコトヲ得可シ

第八十五條 若シ重罪犯ノ未タ確定裁判ヲ受ケサルニ當テ再ヒ他ノ重罪ヲ犯シ或ハ輕罪犯ノ未タ確定裁判ヲ受ケサルニ當テ他ノ輕罪ヲ犯シ又

ハ違警罪犯ノ未タ確定裁判ヲ受ケサルニ當テ他ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ皆之ヲ二罪俱發トス

第九十條 赦ニ因リ宣告シタル刑ヲ免サレタル者ト雖モ其罪犯ノ性質ハ存在スルモノトス
故ニ其免刑ヲ受ケタル者再犯シタルニ於テハ一般ノ再犯ト同シク加重ノ刑ニ處スルモノトス

土耳格刑法

第八條 再犯ハ犯人ノ最初處セラレシ刑ヲ二倍ニ科スルモノトス但シ法律ニ於テ定メタル別段ノ場合ハ此限ニアラス

普魯士刑法

第五十八條 重罪輕罪ヲ犯シタル爲メ已ニ其處刑ヲ經タル後更ニ同一ノ重罪ヲ犯セシ者ハ再犯ト爲シ罰ス可シ

再犯ハ刑法上毎ニ其一定ノ法ナキヲ以テ其刑ハ法律ノ成規ヲ越エ増加スルコトヲ得可シ然レトモ法律上最モ重キ罰ノ半度以上ニ過ルヲ得ス

再犯ニ於テハ禁錮ノ時間ヲ五年以上ニ越ニシムルコトヲ得可シ
有期ノ羈絆ノ刑ヲ以テ論セラル可キ重罪ニ就テハ再犯ニ於テ其時間ヲ
二十年ヨリ減殺スルコトヲ得ス

第五十九條 先ニ重罪ヲ犯シテ後ニ輕罪ヲ犯シ又ハ先後ニ於テ輕重罪ニ
從犯シ及ヒ其既行未成モ亦再犯ト看做ス可シ

伊太利刑法

第八十條 五年以上ノ期限ヲ有スル刑ニ付テハ其刑ノ宣告ヲ受ケタル後
之カ執行ヲ終ヘ又ハ消滅シタル日ヨリ十年内ニ其他ノ刑ニ付テハ五年
内ニ更ニ他ノ罪ヲ犯シタルトキハ其罪ニ科スヘキ刑ノ長期ニ處ス
再犯ノ罪前ニ裁判ヲ受ケタル罪ト性質ヲ同フスルトキハ左ノ規定ニ從
ヒ犯人ヲシテ其刑ノ加重ヲ受ケシム
一 再犯ノ罪懲役ナルトキハ分房繋留ノ通常期限ハ本刑六分ノ一ノ割
合ヲ以テ之ヲ加重ス若シ懲役ノ全部ヲ分房ニ於テ執行スルトキ又ハ
其科スヘキ刑ノ範圍内ニ於テ右期限ヲ増加スルコト能ハサルトキハ

其増加ヲ爲スカ爲メ右割合ヲ以テ刑期ヲ加重スルモノトス

二 再犯ノ罪懲役ト異ナリタル刑ニ該ルトキハ其六分ノ一以上三分ノ

一以下ヲ加重ス

何レノ場合ニ於テモ前項ニ定メタル規定ハ先キニ科セラレタル一ノ
重キ刑ノ程度外ニ於テ之ヲ適用スルコトヲ得ス而シテ財産刑ニ付テ
ハ其程度ヲ定ムルカ爲メニ第十九條ノ規定ニ從ヒ折算法ヲ行フ

第八十一條 數度三個月以上ノ繋獄ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタ
ル者前條ニ掲ケタル期限内ニ於テ同性質ノ繋獄ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタ
ルトキハ其刑期三十個月以下ナルトキハ其刑期ノ半ニ等シキ加重ヲ受
ク其他ノ場合ニ於テハ其三分ノ一以下ノ加重ヲ受ク但シ懲役及ヒ禁獄
ニ付テハ三十年ヲ超過スルコトヲ得ス

サクソン刑法

第八十二條 故意ヲ以テ犯セシ罪ノ爲メ已ニ處刑セラレ又同罪或ハ同種
ノ罪ヲ新ニ犯シタルトキハ之ヲ處スルニ他ノ制度アラサルヲ以テ新犯

ノ罪ニ就テ其罰ヲ増加ス然レトモ其定度二倍以上ニ超エシムルコトヲ許サス

ヘツセヌ刑法

第四十九條 再犯トシテ處スヘキ重罪ハ即チ次項ノ如シ

- 一 項 貨幣鑄造若クハ其字畫姿樣ヲ模擬スルコト國印及ヒ印紙ヲ偽造スルコト其他官職ヲ詐稱スルコト
- 二 項 墮胎又ハ兒ヲ棄テ及ヒ殺スコト
- 三 項 謀殺毒殺
- 四 項 故殺殺傷爭鬪ノ加功
- 五 項 不義ノ奸淫竝ニ強姦ニ重結婚者アリ婦アル者ノ奸通私奔
- 六 項 詐僞ノ報告誹謗
- 七 項 劫盜竊盜逼勒監守盜騙取暴行盜賊ヲ私和スル等ノ罪
- 八 項 放火及ヒ物品ノ損害スルコト
- 九 項 偽誓違盟

第二百二條 己ニ終身刑ヲ言渡シテ特赦スヘカラサル後新ニ死刑ニ非サル罪ヲ犯シタル者ハ有期徒刑ニ副刑ヲ加ヘ以テ之ヲ論ス
ヲルデンブルク刑法

第五十五條

- 一 項 重罪或ハ輕罪ヲ犯シタル爲メ己ニ處刑セラレシ後重キ模樣ノ有無ニ關セス同一ノ重罪或ハ輕罪ヲ犯シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス
- 二 項 刑法上特ニ再犯ノ刑ヲ置カサルヲ以テ如斯件ニ當テハ其定法ノ度ヲ越エ處分スルコトヲ得ヘシト雖モ決シテ刑法上高科ノ半度以上ニ出ツルコトヲ許サス
- 三 項 禁獄ノ時間ハ再犯ニ於テ五年以上ニ出ツルヲ得可シ
- 四 項 有期羈絆ノ刑ヲ以テ處セシ罪科ニ在テハ再犯ニ於テ二十年以上ナルコトヲ得ス

チユーリング刑法

第四十六條 罪犯依然トシテ其行狀ヲ改メス因テ自ラ其罪ヲ犯ス者之ヲ

處刑スルコト更ニ嚴刻ニ爲ササルヲ得ス
 罪犯一惡事ノ爲メ以前已ニ處刑セラレ少クトモ之ヲ履行シ或ハ特赦ヲ以テ輕減セラレタルトキ若シ其同罪或ハ同種罪ヲ犯シ又ハ刑法上如此ノ再犯ニ對シ各個ニ罰ス可キ方法ナキヲ以テ裁判官ノ意見ヲ以テ其處刑ニ適用スヘキ重キ刑類或ハ其長キ時限ヲ選フ爲メ特ニ其罰ヲ重クス可カラス且ツ其論ス可キ罪ニ就テ定法ヲ超出シ及ヒ定期ヲ延スコト勿レ
 罪犯先キニ其再犯ノ爲メ加等ヲ以テ論セラレタルトキハ裁判官現在ノ再犯ニ處スル所ノ罪科ニ副刑ヲ加ヘ以テ之ヲ嚴責スルノ權アリトス
 副刑ヲ以テ嚴責スルコトハ同種類ニ非サル罪科ノ爲メ已ニ處刑セラレシ罪犯ニ於テモ亦之ヲ適用ス

プロンズウイク刑法

第五十八條 違令ノ爲メ全部或ハ一部ヲ處刑セラレシ後更ニ同種類若クハ同一ノ違令ヲ犯シタル者ハ更ニ嚴罰ニ處ス可シ而シテ其時間ハ違令

ニ適セル刑ノ系屬中ニ定メラレタル時限ヲ延展スヘシト雖モ其最長時限ニ超出スルコトヲ許サス

リフベック刑法

第五十七條 一惡事ノ爲メニ本邦或ハ外國ニ於テ已ニ處刑セラレ其全部又ハ幾部ヲ履行セシ後重キ景況ノ有無ヲ問ハス更ニ同一ノ罪ヲ犯シタル者ハ再犯ノ刑ヲ以テ論ス
 刑法上特ニ再犯ノ刑ヲ置カサルヲ以テ之ヲ處スルニ定法ノ度ヲ越エ増加スヘシト雖モ刑法上高科ノ半度ニ過クルコトヲ得ス

バビエール刑法

刑法中再犯ノ刑ニ於テ一般ノ制定ナシ然レトモ左ノ惡事ニ就テハ各其ノ本條ヲ照シテ處分ス身體ノ傷害竊盜強盜及ヒ逼勒盜贓私和騙欺等ノ罪ナリ

ブレイメン刑法

第一百三條 再犯ニ付テ法律上罪ヲ増加スル爲メ前罪ヲ引用スルトキ或

ハ當初些少ナリトモ其罰ヲ履行シタルカ或ハ特赦ヲ以テ全部若クハ一部ヲ免ササルカ或ハ輕罪ニ變換スル等モ亦處刑セシ者ト看做スヘシ

第百十四條 若シ以前ノ惡事ニ就テ處分セラレシ後更ニ犯罪シタル日迄十年間ヲ經過セハ再犯ノ爲メ増罪スルコトヲ禁ス

第百十五條 前條ノ制定ハ二回以上ノ罪犯ニ就テ増罪セシ者ニ適用ス各個ノ再犯ハ即チ左ノ各條ニ於テ其刑ヲ決定ス

竊盜強盜贓私和騙欺等ノ罪ナリ

ウールデンブルグ刑法

第百二十四條 重罪輕罪ノ爲メ内國裁判所ノ定法處分ニ因リ又ハ其法律書ニ照ラシ處刑セラレタル後同種類ノ重罪輕罪ヲ犯セシ者ノ再犯ハ更ニ其罪ヲ論ス

強盜竊盜又ハ騙欺ニ力ヲ盡セシ外國ノ兇徒ニ對シテハ既ニ外國裁判所ノ處刑ヲ受ケタリト雖モ爾後復タ犯罪セハ之レヲ再犯ノ部中ニ入ルヘシ

バーデン刑法

第百八十四條 再犯トシテ處刑スルニ當テハ次項ヲ領解セサル可ラス

一項 罪犯先ニ惡事ヲ成セシカ或ハ已ニ行フテ成ササルカヲ問ハス其

二回以上犯罪セル前ニ首謀或ハ加功ノ罪ヲ以テ内國又ハ外國ノ裁判所ヨリ處刑セラレ及ヒ其言渡ヲ受ケシコト

二項 舊罪及ヒ新罪ノ同種類ヲ犯セシコト

第百八十七條 再犯トシテ論ス可キ二回以上ノ違令ハ諸件ニ於テ初犯ノ者ヨリモ嚴科ヲ以テ論ス

第百八十八條 違令初犯ノ時ニ適用シタル刑ノ再犯ニ於ケルヤ凡其半ヲ増加スルヲ得ヘシ又數回犯罪セシ者ニ於テハ每罪ニ四分ノ一ヲ増加ス然レトモ再犯ヨリ生セシ増罪ハ其前ニ犯シタル違令ノ罪ヲ合算スル者ノ外ニ出ツルヲ許サス又數回ノ犯罪ニ就テハ前ニ犯シタル幾許ノ違令ヲ集合シタルモノヨリ上ルヲ許サス

唐律

刑法釋義 第一編 總則

諸犯罪已發及已配而更爲罪者各重其事即重犯者依留任法決杖於配所役三年

若已至配所而更犯者亦準之

即果流徒應役者不得過四年若更犯流徒罪者準加杖例

其杖罪以下亦各依數決之累決笞杖者不得過二百其應加杖者亦如之

明清紳

凡罪已發又犯罪者從重科斷已徒已流而又犯罪者依律再科後犯之罪其重犯

流者依留任法三流並決杖一百於配所拘致四年若犯徒者依後所犯杖數該徒

年限決託應役亦總不得過四年其杖罪以下亦各依數決之其應加杖者亦如之

大寶律

凡犯罪已發及已配而更爲罪者各重其事而重犯流者依留任法決杖於配所役

三年

若已至配所更犯者亦準之

即累流徒應役不得過四年若更犯流徒罪者準加杖例

新律綱領

強盜不持兇器再犯ハ財ヲ得スト雖モ絞持兇器再犯ハ財ヲ得スト雖モ斬

凡竊盜及賭博ヲ犯シ已ニ官司ノ斷決ヲ經テ再ヒ犯ス者ハ竝ニ後犯ノ本罪

ニ一等ヲ加フ其贓ヲ計ルハ初犯ノ贓ニ通算シテ科スルコトヲ得ス若シ初

犯ノ罪赦前ニ在ル者ハ再犯ト雖モ仍ホ初犯ヲ以テ論ス其初犯強盜ニシテ

再犯竊盜ナル者及ヒ初竊盜ニシテ再犯強盜ナル者ハ再犯ト雖モ仍ホ竝ニ

初犯ヲ以テ論シ一等ヲ加フ若シ徒限内ニ在テ逃走スル者ハ律ニヨリ罪ヲ

科スト雖モ外ニ在テ又罪ヲ科ス者徒罪以下杖等ニ至ルマテ竝ニ徒一等ヲ

加フ加ヘテ四年ニ過クル者ハ流ニ入レ再逃スル者ハ本律ニ依テ之ヲ科ス

其先キニ罪ヲ犯シ未タ論決セスシテ監獄ニ在リ脱越スル者ハ律ニ依リ罪

ヲ科スト雖モ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ前後二罪ノ重キ者ニ從ヒ二等ヲ加

フ賊罪ニ係ル者ハ贓ニ計ヘ通計合算シテ二等ヲ加フ

凡先キニ罪ヲ犯シ已ニ發覺シ尙未タ論決ヲ經スシテ又別罪ヲ犯ス者ハ先

後二罪ノ重キ者ニ從テ之ヲ科ス若シ徒已ニ役シ流已ニ配シテ又別罪ヲ犯

ス者ハ律ニ依リ再ヒ後犯ノ罪ヲ科ス其重ネテ流ヲ犯ス者ハ三流竝ニ拘役四年若シ徒ヲ犯ス者ハ後犯ノ徒限ニ依テ役スルモ亦四年ニ過クルコトヲ得ス其杖罪以下ハ始數ニ依テ大ヲ科ス

若シ初犯ノ罪赦前ニ在ル者ハ再犯ト雖モ仍ホ初犯ヲ以テ論ス

改定律例

強盜不持兇器再犯ハ財ヲ得スト雖モ懲役終身

第二百七十一條 凡博戲ニ用フル骰子骨牌ヲ賣ル者ハ賭博者ト同罪再犯ハ一等ヲ加ヘ三犯以上ハ懲役一年

第八十七條 凡徒限内ニ逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者徒罪以下杖笞ニ至ル迄竝ニ徒一等ヲ加フル律ヲ改メ懲役人逃走條例ニ依テ科斷ス

凡監守及ヒ常人監再犯スル者ハ竊盜ト同シク竝ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フ 明治六年七月増補

凡初犯再犯各盜罪ヲ犯シ已ニ斷決ヲ經テ又盜罪ヲ犯ス者ハ其輕キ所ノ盜罪三犯ヲ以テ論ス若シ後犯ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス假令ハ初犯

竊盜再犯強盜ニシテ三犯監守盜ナル者ハ竊盜三犯ヲ以テ論シ初犯竊盜ニシテ再犯三犯強盜ナル者ハ強盜再犯ヲ以テ論スルノ類 明治九年第百二十六號布告

凡初犯竊盜ニシテ再犯監守盜若クハ常人盜タル者及ヒ初犯監守盜ニシテ再犯常人盜若クハ竊盜ナル者及ヒ初犯常人盜ニシテ再犯監守盜若クハ竊盜ナル者ハ竝ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フ 明治九年百三十七號布告

第四十一條 凡懲役百日以下ノ囚役限内ニ在リ又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ前犯ノ日數ニ通算シテ之ヲ科ス若シ後犯一年以上ニ該ル者ハ新ニ後犯ノ罪ヲ全科ス

第四十二條 凡懲役一年以上ノ囚役限内ニ在リ又罪ヲ犯ス者ハ後犯ノ日數ヲ加役スト雖モ重ネテ一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ已ニ役過スル日數ヲ通算シテ前後四年ニ過クルコトヲ得ス若シ五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ已ニ役過スル日數ヲ問ハス新ニ後犯ノ罪ヲ全科ス

第四十三條 凡懲役五年以上ノ囚重ネテ五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ竝ニ拘役四年ヲ加フ若シ三年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ後犯ノ年限ヲ折半シテ加役シ百日以下ノ罪ヲ犯ス者モ亦日數ニ照シテ加役ス

凡懲役終身ノ囚人又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ第五條ニ照シテ棒鎖ヲ科シ(懲役十日以上ノ者ハ棒鎖一日六十日以上ノ者ハ二日八十日以上ノ者ハ三日)一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ四日以上六日以下ノ棒鎖五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ七日以上九日以下ノ棒鎖懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ棒鎖十日

明治十年第二十五號布告

第三百三十五條 竊盜三犯以上五十兩以上絞ニ處スル律ヲ改メ懲役終身

第三百三十六條 凡竊盜三犯以上財ヲ得サル者ハ懲役三年
凡竊盜四犯以上財ヲ得ル者ハ贓ノ多寡ヲ論セス懲役終身 六年七月布告

第二百六十九條 凡賭博三犯以上ハ懲役一年其他及ヒ各藩ハ第九十條ヲ見ル可シ

舊幕府法制

一 遠島者島ニテ死刑以上ノ惡事致候ニ於テハ於其島死罪但同類又ハ於其島ネダリ事或ハアバレ候類ノ者島替

一 御構ノ地ニ致徘徊候上惡事致候者入墨以上可申付程ノ惡事ニ候ハハ死罪但入墨ニ可申付程ノ惡事ニ無之候前共前々御仕置ヨリ一等重ク可申付

一 入墨ヲ拔キ御機ノ地へ立歸リ候者ハ入墨ノ上前々御仕置ヨリ一等重ク可申付但入墨以上ニ可申付惡事致候ハハ死罪

一 入墨ニ成候以後又盜致候者ハ但外ノ惡事致候ハハ敵一旦追放ニ成其後構場へ立歸リアバレ候者ハ死罪

瑞西刑法典案

第二十四條 累犯者ニハ十年以上二十年以下ノ保管ヲ命ス保管ハ此目的ニ專用スル建用物ニ於テ之ヲ爲ス
被保管人ハ嚴峻ニ之ヲ勞役ニ服セシム

被保管人初メテ保管セラレタル者ナル場合又ハ其宣告ヲ受ケタル刑ノ三分ノ二ヲ執行シタル場合ニ於テ更ニ罪ヲ犯スノ虞ナシト認ム可キトキハ官廳ハ五年ヲ經過シタル後假ニ釋放ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 何人ト雖モ生命及ヒ身體ニ對スル罪、財産ニ對スル罪、節義及ヒ信仰ニ對スル罪、性的風儀及ヒ自由ニ對スル罪又ハ公共ヲ危害スル罪ニ因リ既ニ數個ノ自由刑ヲ執行シタル者更ニ此種ノ罪ニ因リ自由刑ヲ宣告セラレタル場合ニ於テ其罪最後ノ自由刑ノ執行後尙ホ三年ヲ經過セサル日時内ニ犯サレタルモノナルトキハ判決裁判所ハ被宣告者刑ノ執行後累犯スト思料ス可ク且ツ保管ヲ必要ト認ム可キ場合ニ於テハ管轄聯邦廳ニ其保管ヲ申請スルコトヲ得

聯邦廳ハ其經歷其家族關係其所得其身體及ヒ精神ノ健康並ニ其犯シタル罪及ヒ其執行シタル刑ヲ審理シ且ツ直接ニ之ヲ聽取ス

聯邦廳被宣告者ハ刑ノ執行後累犯スト思料シ且ツ保管ヲ必要ト認メタルトキハ十年乃至二十年ノ期間被宣告者ノ保管ヲ命ス

保管ノ期間ハ行爲者ノ宣告セララル可キ刑ノ存續期ヨリ長期ニ之ヲ裁量スヘシ 保管ハ此目的刑ニ代ハル

聯邦廳被宣告者ノ保管ヲ命セサルトキハ判決ハ之ヲ執行セス

第三

釋義 本章ハ舊刑法第一編第五章ノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑法

ハ再犯及初犯間ノ日數ニ付キ重罪輕罪ニ關シテ何等ノ制限ナク初犯後數十年ヲ經タル後ト雖モ更ニ犯罪アレハ之ヲ再犯ト爲セリ是犯人ニ對シ酷ニ失スルモノニシテ再犯加重ヲ爲ス所以ノ趣旨ニ添ハサルモノトス特ニ再犯ハ初犯後久シカラサル期限内ニ於テ最モ多ク發生スルヲ以テ此點ニ對シテハ一ノ制限ヲ設ケ初犯後五年内ニ非サレハ再犯例ヲ適用セサルコトト爲セリ
第五十六條ハ懲役ニ處セラレタル者執行ヲ終リ又ハ其免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ有期懲役ニ處ス可キ罪ヲ犯シタル場合ニ限り再犯例ヲ適用ス可キコトヲ規定シタルモノナリ而シテ再犯例ヲ適用ス可キ期限ヲ定ムルニ付テハ或ハ初犯ノ裁判確定ヨリ起算シ若干年ト爲ス立法例アリト雖モ本法ハ裁判ノ確定ノミニテ未タ犯人ノ再犯ヲ防クニ足ル可キ實效ナキモノトシ

其裁判ノ執行ヲ終ルカ若クハ其裁判ノ執行ノ免除ヲ受ケ十分ニ裁判ノ實效ヲ生シ得可シト認ム可キ時期ヨリ起算スルコトトシ其期間ヲ斟酌シテ五年ト定メタルモノナリ

本條第一項ニ於テハ初犯ハ懲役ニ限ルト雖モ懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得タル者若クハ死刑ヨリ懲役ニ減輕セラレタル者ニ付テハ尙ホ一層之カ再犯ニ付キ加重ス可キ必要アリ此ヲ以テ此等ノ者カ本條第一項ノ期間内ニ更ニ有期懲役ニ處ス可キ罪ヲ犯セハ之ニ再犯例ヲ適用セサル可カラス是本條第二項アル所以ナリ

本條第三項ハ本法ニ於テ併合罪ニ付キ併科主義ヲ採用シタル結果最重刑又ハ特別刑ヲ科スルヲ以テ再犯例ノ適用上必須ノ規定ナリ

第五十七條ハ再犯ノ刑ノ分量ニ關スル規定ニシテ舊刑法ハ再犯ノ刑ハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加フルト定メタリ然レトモ其結果ハ重罪ニ付テハ多クモ四年ヲ超ユルコトナク輕罪、違警罪ニ付テハ刑期又ハ罰金額ノ四分一ヲ加重スルニ過キス而シテ第九十八條ノ規定ニ因リ三犯以上ノ場合ト雖モ之ト異ナル

コトナキ爲メ一般ニ加重ノ分量輕キニ失シ現時累犯ノ増加スルコト夥シク再犯ヲ防遏スル目的ヲ達スルコトヲ得ス是舊刑法ノ改正ヲ要スル一大要點ナリ是ヲ以テ本法ハ加重ノ分量ヲ増加シ其罪ニ付キ定メタル刑期ノ二倍以下ヲ以テ再犯ノ刑ト定メタリ

第五十八條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ舊刑法ハ再犯加重ノ分量輕キニ過キ再犯ヲ防遏スルニ足ラサルニモ拘ハラス犯人ハ尙ホ刑ノ加重ヲ免レント計リ犯數ヲ隱蔽スルヲ以テ之ヲ發見スルコト容易ナラス本法ニ於テハ加重ノ分量更ニ大ニナリタレハ勢ヒ犯數ヲ隱蔽スル者ノ増加ハ豫期シ難カラス然ルニ舊刑法ニ於テハ裁判ノ當時ニ於テ再犯者タルコト發見セラレサルトキハ縱令其後ニ至リ再犯者タルコト發覺スルモ其刑期ハ之ヲ加重シ得可カラサルヲ以テ犯人ハ其裁判ノ時ニ當リテ其再犯者タルコトヲ隱蔽シ萬一ヲ僥倖センコトヲ企ツ可シ是ヲ以テ本法ハ一旦裁判ヲ受ケタル後ト雖モ再犯者タルコト發覺スルニ至レハ更ニ其刑ヲ加重スルコトヲ規定シタルモノナリ前草案ニ於テハ本條第二項ノ規定ハ懲役ノ執行ヲ終リ又ハ其執行免除アリ

タルモノニ就テハ前項ノ規定ヲ適用セストアリタル爲メ極メテ滿期ニ接近シタルトキニ於テ再犯者タルコトヲ發覺シタル場合ニ於テハ本條第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サル結果ヲ生ス可シ既ニ裁判確定後ト雖モ再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ更ニ其刑ヲ加重スル必要ヲ認メタル以上ハ其發覺ノ時期遅ク加重刑言渡ノ裁判確定セサル中ニ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ受ケタル場合ニ於テ本條ノ適用ヲ爲スコト能ハサルハ頗ル失當ナリト云ハサル可カラス故ニ本條ニ於テハ執行ヲ終リタル後又ハ執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ就テハ前項ノ規定ヲ適用セサル趣旨ニ改メ刑ノ執行ヲ終ル迄又或ハ執行免除ノアルマテニ再犯ニ關スル訴追ノアリタルトキハ本條第一項ノ規定ヲ適用スル趣旨ヲ明ニセリ

第五十九條ハ舊刑法第九十八條ト其趣旨ヲ同フス本法ハ既ニ再犯ノ場合ニ十分ノ加重ヲ爲シ得ル範圍ヲ設ケタルヲ以テ三犯以上ト雖モ特別ノ加重例ヲ設クル必要ヲ認メス

第十一章 共犯

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第一 沿革

- 第一案 第九十五條 二人以上共ニ罪ヲ犯シタル者又ハ罪ヲ犯スニ際シ之ニ必要ナル所爲ニ加功シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス
- 第二案 第七十二條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス
- 第三案 第七十二條 第二案第七十二條ニ同シ
- 第四案 第七十一條 第三案第七十二條ニ同シ

第二 參照法律

舊刑法

第百四條 二人以上既ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

佛蘭西刑法

第五十九條 重罪又ハ輕罪ノ附從ハ其重罪又ハ輕罪ノ首謀ト同一ノ刑ヲ

以テ罰スヘシ但シ法律上ニ別段定メタル場合ハ格別ナリトス
白耳義刑法

第六十六條第一項 共ニ輕罪ヲ犯スニ自ラ其事ヲ遂ル者若クハ其加力スル者
以上皆適意者ヲ以テ論シ其本刑ヲ加フ

獨逸刑法

第四十七條 數人同ク罪ヲ犯セハ皆首犯トシ論ス

奧太利刑法

第五條 自ラ手ヲ下シテ重罪ヲ犯セシ本犯ノミ獨リ其罪アリト爲ス可カ
ラス教令勸獎挑唆等ヲ以テ人ヲ誘導シ若クハ挑撥シテ重罪ヲ犯サシメ
或ハ人ノ重罪ヲ犯サンコトヲ知り故ラニ其方策ヲ授ケ若クハ其妨碍ト
ナルヘキコトヲ除去シ或ハ其他各種ノ方法ヲ以テ其犯罪ヲ遂ケシメ若
クハ其結果ヲ堅固ナラシムル爲メ之ニ協力セシ者及ヒ其犯罪後ニ助力
ヲ爲シ又ハ其賊ヲ分ルコトヲ豫メ約定セシ者ハ皆之ヲ罰ス可シ

英吉利刑法典

一 數人共ニ犯スニ既ニ其罪ヲ企テ犯ス者ヲ第一ノ首犯トス然レトモ必
シモ其罪ヲ犯ス場所ニ在ルコトヲ要セス(譬ヘハ人ニ毒藥ヲ與ヘン爲ニ
之ニ設クルヲ其人自ラ吞テ死スルトキ罪犯ハ其場ニ在ラスト雖トモ
仍ホ第一ノ首犯トス)又必スシモ手カラ其罪ヲ犯スコトヲ要セス(譬ヘハ
無知ノ人ヲ教令シテ罪ヲ犯サシムル如キ罪犯其場ニ居ラスト雖トモ第
一ノ首犯トスルノ類)

一 犯罪ノ場所ニ在テ助力スル者ヲ第二ノ首犯トス然レトモ現ニ其場所
ニ在ラスト雖モ必ス助力セント欲スル意思アレハ足レリトス(譬ヘハ共
犯者家内ニ在テ重罪ヲ犯スヲ知リ戶外ニ在テ爲メニ瞭望守禦スレハ即
チ場所ニ在ル者ト看做シ第二ノ首犯トスルノ類)

露西亞刑法

第十三條 數人相共ニ犯爲セル重罪ハ豫メ同謀スルヤ否ヤヲ區別スヘシ
第十四條 同謀セスシテ數人重罪ヲ犯ストキハ分テ之ヲ正犯及ヒ扶助者

刑法釋義 第一編 總則

トス則チ

六七二

- 第一 他人ノ所爲ヲ定メ或ハ之ヲ指揮スル者及ヒ他人ニ先テ犯罪ノ著手ヲ爲シ或ハ親躬ラ之ヲ全成スル者ヲ正犯トス
- 第二 親ラ犯罪ニ與シ正犯ノ扶助ヲ爲セシ者或ハ犯罪ノ方法ヲ授ケ或ハ其障礙ヲ除去スル者ヲ扶助者ト云フ
- 第十五條 豫メ相約シテ犯罪ヲ共ニスル者左ノ如シ
- 第一 首謀者凡重罪ノ基本ヲ立テ他人ヲ誘導シテ之ヲ共犯セシメ及ヒ重罪全成或ハ其謀試ニ於テ他人ノ所爲ヲ指揮シ或ハ衆ニ先チ著手スル者是ナリ
- 第二 共犯者首謀或ハ其他ノ者ト同意シ重罪犯爲ヲ共ニスル者是ナリ
- 第二百二十三條 豫メ約セシテ數人共ニ同一ノ重罪ヲ犯セシトキハ正犯ハ其本刑ノ最重ニ處シ扶助者ハ一等又ハ二等ヲ減ス
- 第二百二十四條 豫メ約シテ數人共ニ重罪ヲ犯シ而シテ本條其附從者ノ刑名ヲ定メサルハ其首謀者ハ縱令實施ニ與ラスト雖トモ其本刑ノ最重ニ

處ス

埃及刑法

- 第七十三條 重罪又ハ輕罪犯ノ同謀者ハ其本人ト同一ノ刑ニ處スヘシ但法律上ニ別段ノ規則アル時ハ此例ニアラス

印度刑法

- 第三十四條 數人共ニ一刑事ヲ犯スルトキハ各獨リ之ヲ犯シタルト同ク其事ヲ犯スノ責ニ任スヘシ
- 第三十五條 數人共ニ其罪ヲ犯スノ意アリ又ハ其罪タルヲ知ルノ故ニ有罪トスヘキ所爲ヲ行フニ其罪ヲ犯スノ意アリ又ハ其罪タルヲ知テ之ヲ行フ者ハ各獨之ヲ行フタルヲ同ク其責ニ任スヘシ
- 第三十七條 數所爲ヲ以テ一罪ヲ犯スニ獨リ又ハ共ニ其所爲ノ一ヲ行フテ故意其罪ヲ遂クルニ加功スル者ハ乃チ其罪ヲ犯スナリ
- 第三十八條 數人共犯スル者其所爲如何ニ因テ其罪ヲ同セス
- 第一百十條 加力ヲ受クル者ト意ヲ同フセスシテ所爲ヲ行フトキモ罪ヲ行

刑法釋義 第一編 總則

六七三

フニ加力スル者ハ加力ヲ受クル者意ヲ同フシテ所爲ヲ行フトキ加力ヲ處スルノ罰ヲ以テ論ス

巴西兒刑法

第四條 自ラ罪ヲ犯シ或ハ人ヲ強テ之ヲ行ハシメ或ハ人ニ命シ之ヲ行ハシムル者ヲ正犯トス

布哇刑法

一 共ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ其場ニ在テ犯人ヲ教唆助力シタル者ハ正犯トス

二 犯罪ノ場ニ在ラスシテ其犯罪ヲ補助シ又ハ指揮隱祕等ノ爲メ其罪ヲ犯スコトヲ得セシメタル者ハ事前ノ從犯ト爲ス

三 正犯ト事前ノ從犯トハ本刑ト同一ノ刑ニ處スヘシ

羅馬法

一 一人ニテ罪ヲ犯スコトアリ又數人ノ補助ヲ得テ犯スコトアリ前ノ場合ハ首犯ノミヲ罰シ後ノ場合ハ補助人モ亦助人モ亦罰スヘシ羅馬法ニ

於テハ首犯從犯ヲ罰スルノ總則ナシ各本條ニ其罰ヲ定メリ又犯罪中首犯從犯ヲ同等ニ處スルモノ多シ其所以ハ從犯ト雖モ首犯ト同一ノ惡意ヲ有スルトキハ同一ノ刑ニ處スヘキハ無論ノコトナレハナリ併テ此原則ハ一般ニ行ハルルモノニ非サレハ明カニ法律ニ掲クルトキニ非サレハ首從犯ヲ同刑ニ處スルヲ得ス

首犯トハ己レ一人又ハ他ノ首犯又ハ從犯ト共ニ犯シタルモノヲ云フ又首犯ハ他人ヲシテ罪ヲ犯サシムルコトアリ其場合左ノ如シ

- 一 命令及ヒ脅迫ニ因テ他人ヲシテ犯サシムルコトアリ 命令ヲ受クル者ト教唆スル者トノ關係ニ於テ其命令ヲ拒ムコト能ハサル者ハ止テ教唆シタル者ノミヲ刑ニ處ス(奴隸及ヒ子ノ其主人及ヒ父ニ於ケルカ如シ)
- 二 依頼ヲ爲シテ罪ヲ犯サシムルコトアリ

謀殺罪ニ於テハ依頼人モ依頼ヲ受ケタルモノモ共ニ同一ノ刑ヲ受クヘシ

普魯士刑法

三 希望又ハ勸誘又ハ助言ニ因テ他人ニ罪ヲ犯サシムルコトアリ

第三十五條 重罪或ハ輕罪ノ從犯及ヒ重罪輕罪ノ從犯ニシテ既行未成ノ

者ハ其首謀ニ當ツヘキ刑ト同等ノモノヲ用フ可シ

サクソン刑法

第五十條 一惡業ヲ行フ爲メ數名從犯シタルトキハ總テ其所行ヲ互ニ談

決シ又ハ其談決ニ因テ其所行ヲ爲スニ加功スルカ或ハ其所行ヲ爲サス

ト雖トモ其場所ニ居リシ者ヲ首謀ト看做ス可シ

オンテンブルク刑法

第三十一條 重罪或ハ輕罪ノ從犯及ヒ其既行未成ノ從犯ニ科スヘキ刑ハ

首謀ニ當ツルモノト同等タルヘシ

ソフベック

第三十三條 從犯ニ當ツヘキ刑ハ其首謀ニ處スル者ト同等タル可シ而シ

テ首謀ハ充分ニ本刑ヲ受クヘシト雖モ從犯ハ其既行未成ノ者ニ用フル

所ノ成規ニ準テ其刑ヲ斷ス

チエトリング刑法

第三十一條

既成未成ヲ論セス數名共同シテ左ノ件ニ係ル者ハ共犯ヲ以テ論シ其所業ニ預カル各犯ニ對シ其罪ヲ科ス可シ

一 惡事ヲ爲スノ前ニ確乎ト契約シ或ハ其合議ニ與カラスシテ偶然一致シタルコト

二 惡事ヲ爲スニ就テ扶助シ或ハ之ヲ爲スノ場所ニ會同シ或ハ止タ之ヲ行フ前ニ加勢スルコト

プロンズウイク刑法

第四十三條 惡行ヲ共ニ營ムタメ確乎ト同心シ或ハ默然一致セシ者ハ次

項ニ記スル所ニ從ヒ其罪ヲ處分ス可シ

一 惡業ヲ爲スノ際ニ加功シ及ヒ之ヲ爲スノ前又ハ其後ニ於テ加功シタル者ハ其犯セシ所業ノ如何ヲ問ハス之ヲ首犯トシテ其罪ヲ論ス

二 自ラ惡事ヲ爲ササレトモ止タ其場ニ會同シ或ハ止タ其所業ヲ爲ス
ノ前後ニ於テ加力セント結約シテ爲シタル從犯ニ對シテハ死刑ニ換
ル終身繫獄ノ刑ヲ以テ之ヲ處ス可シ

ハンブルク刑法

第四十一條 惡業ヲ爲スタメ數人相誓テ同意シタル歟或ハ默然一致シタ
ルトキ各自ノ施術ヲ以テ惡業ヲ行フ際又ハ其前後ニ於テ加勢シタルカ
或ハ惡業ヲ爲ス場所ニ在テ現ニ加功シタル者等ハ從犯トシテ罰スヘシ

バイエルン刑法

第五十二條 數名相共ニ惡事ヲ謀リシトキ之ニ當ツヘキ罪科ハ自己ノ所
爲ヲ以テ直チニ其惡事ヲ行ヒシ者ヲ處スルノミナラス其惡事ヲ幫成シ
或ハ加勢シタル從犯モ亦同ク其罪科ニ處ス可シ從犯ノ認ムル所ハ首謀
ノ犯セシモノヨリ輕キ惡業トシテ幫成シ及ヒ加勢シタルトキハ其犯シ
タル罪ノミニ就テ其刑ヲ當ツヘキナリ

ブレイメン刑法

第六十六條 共ニ輕重罪ヲ犯スニ自ラ其事ヲ遂クル者若クハ其加勢ヲ爲
ス者

其所ニ會セスト雖モ首トシテ方略ヲ示シ輕重罪ヲ助ケ遂ケシメタル者
以上皆造意者ヲ以テ論シ其本刑ニ處ス

唐律

諸共犯罪者以造意爲首從者減一等若家人共犯止座尊長侵損於人者以本
人首從論

即共監臨主守爲犯雖造意仍以監守爲首凡人以常從論

若本條言皆者罪無首從不言皆者從首繼法即強盜及姦略人爲奴婢犯關入若
逃亡及私度越度關棧垣離者無首從

明清律

凡共犯罪者以造意爲首從者減一等若一家人共犯止座尊長若尊長年八十
以上及篤疾歸罪於共犯罪以次尊長侵損於人者以凡人首從論若共犯罪而首
從本罪合別者各依本律首從論

若本條言皆者罪無首從不言皆者依首從法

假刑律

凡俱ニ罪ヲ犯ハ造意主謀ノ名ヲ以テ首トシ隨從與黨スルヲ從ト爲シ罪一
等ヲ減ス若家人俱ニ犯スハ家長ヲ以テ罪ニ座ス卑幼ハ科ヲ免ス若尊長年
八十以上及ヒ篤疾ニ係ラハ罪ヲ免シ獨罪ヲ俱ニ犯ス以次之尊長ニ歸ス若
シ婦人尊長ト男夫卑幼同犯スハ婦人首タリト雖モ猶男夫ヲ座ス其殺傷開
闕強竊盜類ハ凡人首從法ニ依テ科斷ス
若本條內皆ト云ハ罪首從ノ別無シ皆ト不云ハ首從ノ法ニ因ル破關奔亡及
ヒ姦ヲ犯スハ罪皆首從無シ

新律綱領

凡共ニ罪ヲ犯ス者ハ造意一人ヲ以テ首トナシ隨從者ハ從トナシ一等ヲ減
ス

若一家人共ニ罪ヲ犯セハ止々尊長ヲ座シ卑幼ハ論セス若シ尊長八十以上

及ヒ篤疾アレハ共犯スル其次ノ尊長ヲ座ス婦人ノ尊長ハ首タリト雖モ仍
ホ卑幼ノ男夫ヲ座ス

其盜罪及ヒ枉法不枉法若クハ鬪毆殺傷等父子同ク犯スハ竝ニ凡人首從ノ
法ニ依ル

若シ本條內ニ皆ト言フ者ハ首從ヲ分タス一體ニ之ヲ座シ皆ト言ハサル者
ハ首從ノ法ニ依ル

改定律例

第七十九條 凡本條ニ皆ト言ハスト雖モ脱籍越獄及ヒ犯姦若クハ懲役人

逃等身自ラ犯スヲ以テ罪ヲ得ルニ係ル者ハ首從ヲ分タス各本科ニ處ス

第八十條 凡一家人共ニ寶貨ヲ僞造スル者ハ一家共犯罪ニ依リ止々尊長
ヲ座シ卑幼ハ論セス

伊太利刑法

第六十四條 左ニ記載シタル場合ニ於テ共同シテ罪ヲ犯シタル者本刑徒

刑ニ該ルトキハ十二年以上ノ懲役ニ處シ其他ノ場合ニ於テハ本刑ノ半

第三 釋義 本條ハ舊刑法第四百條ノ規定ト同一ニシテ唯文字ヲ修正シタルニ止マル舊刑法ハ現ニナル文字ヲ以テ實行正犯ノ意義ヲ明ニシタルトモ其意義多少狹キニ失スル嫌ナキニアラサルヲ以テ之ヲ修正シテ共同シテナル文字ヲ用ヒタリ舊刑法ハ又各自ニ其刑ヲ科スト規定スレトモ既ニ法律ニ於テ皆正犯トスト規定シタル上ハ各自正犯トシテ其刑ヲ科セラルルコトハ明文ヲ要セサルヲ以テ本法ハ此一句ヲ刪除セリ

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第一 沿革

- 第一案 第九十六條 贈與約束脅迫威權其他ノ手段ヲ以テ教唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス
- 第二案 第七十三條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタルモノハ正犯ニ準

ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第三案 第七十三條 第二案第七十三條ニ同シ

第四案 第七十二條 第三案第七十三條ニ同シ

第二 參照法律

舊刑法

第一百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

佛蘭西刑法

第六十條 贈物約束脅迫擅權奸謀偽計ヲ以テ人ニ輕重ノ罪犯ヲ行ハシメ又ハ其罪犯ヲ行フヘキ指揮ヲ爲シタル者ハ其輕罪及ヒ重罪ノ附從トナシテ罰ス可シ

白耳義刑法

第六十六條第二項 其犯罪ノ場所ニ會セスト雖モ首トシテ方策ヲ施シ輕重罪ヲ援ケ遂ケシメタル者

或ハ利ヲ以テ誘キ或ハ約ヲ結ヒ劫迫シ或ハ奸謀若クハ偽計ヲ以テ輕重罪ヲ行ハシムル者

以上ハ皆造意者ヲ以テ論シ其本刑ヲ加ヘ又ハ教唆輕重罪條ヲ以テ論シ縱ヒ事ヲ行ハサルモ仍ホ別ニ教唆輕重罪ヲ加フ

獨逸刑法

第四十八條 贈物約束脅迫權威等ヲ以テ故ラニ人ヲ誘導シ又ハ誘導シ又

ハ人ノ疑惑ニ乘シ故ラニ教唆鼓舞シ又ハ之ヲ繼續セシメ又ハ其他種々ノ方略ヲ以テ挑唆スル者ハ竝ニ附從ト爲シテ論ス

挑唆ニヨリ附從ト爲シ論スルノ刑ハ首ト同刑ニ處ス

英吉利刑法典

一 犯人ヲ教唆誘導スルノミニシテ其犯罪ノ場所ニ在ラサル者ヲ犯罪前

ノ附從ト爲ス犯罪前ノ附從ハ首犯ト同刑ニ處ス

埃太利刑法

第五條 自ラ手ヲ下シテ重罪ヲ犯セシ本犯ノミ獨リ其罪アリト爲ス可カ

ラス教令勸獎挑唆等ヲ以テ人ヲ誘導シ若クハ挑撥シテ重罪ヲ犯サシメ或ハ人ノ重罪ヲ犯サンコトヲ知リ故ラニ其方策ヲ援ケ若クハ其妨碍トナルヘキコトヲ除去シ或ハ其他各種ノ方法ヲ以テ其犯罪ヲ遂ケシメ若クハ其結果ヲ堅固ナラシムル爲メ之ニ協力セシ者及ヒ其犯罪後ニ助力ヲ爲シ又ハ其賊ヲ分ルコトヲ豫メ約定セシ者ハ皆之ヲ罰ス可シ

露西亞刑法

第十五條 第三 教唆者及ヒ煽動者親ラ重罪實施ニ關係セスト雖トモ請

求勸誘賄賂約定詐欺強剝脅迫等ヲ以テ他人ヲ鼓動スル者是ナリ

第二百二十六條 教唆者及ヒ煽動者ハ首謀ニ非スト雖モ其之ニ因テ犯サシ

メシ本刑ノ最長ヲ以テ論ス然レトモ爾後若シ其企謀セシ罪ノ施行ヲ廢止セント務メントキハ縱令之レヲ官署ニ届出テスト雖トモ其刑一等ヲ減ス

埃及刑法

第七十四條 本人ニ贈遺或ハ約束ヲ爲シ或ハ威嚇詭計ヲ用ヒ罪ヲ犯サシ

メタル者又ハ本人ヲ指令シ或ハ權柄ニ憑リ其罪ヲ犯サシメタル者
印度刑法

第一百七條 加カトハ

第一 人ヲ教令シテ事ヲ爲サシムルヲ云

第二 隠謀ニ與カリ一ノ非法ナル怠慢ノ所爲ヲナス者ヲ云

第三 故意事ヲ行フコトヲ翼助スルヲ云

説明一 故意事ヲ以テ事實ヲ僞リ又ハ之ヲ隠シ以テ知ナガラ人ヲシテ
一事ヲ爲サシメ又ハ之ヲ爲サシメント試ムル者ヲ稱シテ事ヲ行フコ
トヲ教令スルト云

説明二 一所爲ヲ行フニ先チ又之ヲ行フニ當テ其所爲ヲ行ヒ易ラシメ
ン爲メニ事ヲ爲シ因テ其所爲ヲ易カラシムル者ヲ稱シテ其所爲ニ加
カスル者ト云

加利堡爾尼刑法

第三十一條 凡罪犯ハ其親ラ之ヲ犯シ若クハ人ヲ幫助勸誘シテ之ヲ犯サ

シメ若クハ其場ニ在ラスシテ其犯罪ヲ指導鼓舞シ若クハ狂癡暗愚及ヒ
十四歳未滿ノ幼者ヲ教唆指導鼓舞シテ之ヲ犯サシメ若クハ欺瞞局騙又
ハ威力ヲ以テ人ヲ醉ハシメテ之ヲ犯サシメ若クハ人ヲ恐嚇脅迫指令強
逼シテ之ヲ犯サシムル等其重罪輕罪ヲ分タス竝ニ首犯ト爲ス

普魯士刑法

第三十四條 重罪輕罪ニ該ル犯者ノ從犯トシテ罰スヘキモノ左ノ如シ

一 已ニ贈物ヲ與ヘ又ハ之ヲ與ヘント約シ或ハ脅嚇シ或ハ威權ヲ用或ハ
妄ニ貴權ノ身位ヲ揮ヒ或ハ人ニ惑心ヲ生セシメ或ハ其他種々ノ謀計ヲ
用テ重罪或ハ輕罪ヲ犯サシメンカ爲メ犯者ヲ煽動誘唆シテ其意ヲ決セ
シムル者

サクソン刑法

第六十二條 他人ニ對シ威權脅迫ヲ加ヘ命令條約說諭ヲ與ヘ或ハ報謝ヲ

約束シ及ヒ付與シ或ハ故ヲニ他ノ惡事ヲ爲スノ發意ニ就テ盡力セシメ
或ハ惡事ヲ施行スルコトヲ誘唆スル等ノ所業アル者ハ之ヲ首謀ト爲ス

可シ

第六十三條 故ラニ一ノ所業上ニ於テ幻惑ヲ用ヒ以テ他人ヲ誘唆スル者ハ首謀ト同視ス可シ蓋シ如此所業ハ必シモ幻惑ヲ用ヒサルモ其人大小ノ罪ヲ受ク可キ者トス

テューリング刑法

第三十四條 罪惡ヲ爲サンカ爲メ威權脅迫ヲ加ヘ命令委任條約ヲ與ヘ或ハ報酬ヲ約束シ及ヒ之ヲ付與シ或ハ幻惡ヲ用ヒ心意ヲ攪動シ或ハ他ノ方法ヲ以テ他人ヲ誘唆シタル者若シ此ニ由テ其罪惡ヲ遂ケタルトキハ首犯ト看做シ以テ處刑ス可シ
若シ惡業ノ未タ成ラサル時ノ他ノ誑惑ニ因テ決心シタル從犯ハ第二十八條ノ成規ニ準シ其罪ヲ處ス其他誑惑ノ既行未成ニ就テハ特ニ其罪ヲ論ス可キ場合ニ於テノミ處刑スルコトアリ又惡業ヲ成ス爲メ施ス所ノ誑惑ヲ一個ノ惡業ト看做ス可キトキハ之ヲ第二十三條ニ照シ其罪ヲ科ス可シ

ブロンズウイック刑法

第四十一條 惡業ヲ行フ爲メ他人ニ對シ威權脅迫ヲ加ヘ委任條約ヲ與ヘ或ハ報酬ヲ約束シ及ヒ之ヲ付與シ或ハ幻惑ヲ用ヒ心意ヲ攪動シ或ハ他ノ方法ヲ以テ惡意ヲ決セシメタル者亦其所業ヲ親履セシ者ト看做シ各之ヲ同罪ニ科ス

ハンブルグ刑法

第三十八條 惡業ヲ行フ爲メ故ラニ他人ヲ決意セシメタルニ因リ罪ニ座シタル者ハ惡業ヲ犯シタルモノト同視シテ其刑ヲ科ス

バイエルン刑法

第五十四條一款 確然タル議決ハ條約ニ因リ或ハ勸誘ニ因リ或ハ報酬及ヒ贈物ノ約束ヲ爲シ若クハ之ヲ付與セシニ因リ或ハ威權脅迫命令ニ因リ或ハ煽惑及ヒ神迷セシムルニ因リ或ハ其他此等ニ齊シキ方法ヲ以テ故ラニ罪ニ處セラルヘキ所業ヲ爲サシムル者

フレイメン刑法

第六十六條三項 或ハ利ヲ以テ誘ヒ或ハ約ヲ結ヒ或ハ劫迫シ或ハ威迫シ
或ハ奸謀僞計ヲ以テ輕重罪ヲ犯サシムル者
或ハ衆會公席ニ利害ヲ辯シ或ハ路傍ニ議論ヲ揭示シ或ハ刊行文書ヲ頒
布シ因テ輕重罪ヲ犯サシムル者
以上ハ皆造意ヲ以テ論シ其本刑ニ處シ又ハ其教唆輕重罪ヲ論シ假令其
事ヲ行ハサルモ仍ホ別ニ教唆輕重罪律ニ處スヘシ

伊太利刑法

第六十四條 左ニ記載シタル場合ニ於テ共同シテ罪ヲ犯シタル者本刑徒
刑ニ該ルトキハ十二年以上ノ懲役ニ處シ其他ノ場合ニ於テハ本刑ノ半
ヲ減ス

一 罪ヲ犯スノ決心ヲ誘起シ若クハ鞏固ナラシメ又ハ事後ニ補助ヲ爲
スコトヲ約束シタルトキ

第三 釋義

本條第一項ハ舊刑法第五百條ト同一ノ規定ニシテ所謂實行正犯
ヲ教唆シタル場合ノ規定トス舊刑法ハ前條ト同シク文字稍不明ナル處アル

ヲ以テ之ヲ修正セリ舊刑法ハ又教唆者ヲ正犯ト爲スト規定スレトモ本法ハ
正犯ニ準スト改メタリ是教唆者ハ實行正犯ニ非サルモ其責任ニ於テハ正犯
ト同一ナルコトヲ明ニスルモノナリ

第二項ハ新ニ設ケタル規定ニシテ實行正犯ノミナラス教唆者ヲ教唆シタル
者モ亦之ヲ罰スルモノナリ舊刑法ニ於テ此規定ナキ爲メ實際上往々不良ノ
徒ヲシテ其刑ヲ免レメシタルコトナキニアラス本法ハ此理由ニ因リ教唆者
ヲ教唆シ教唆罪ヲ實行セシメタル者モ亦實行正犯ヲ教唆シタルモノト同シ
ク準正犯ト爲スコトヲ規定シタルナリ

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第一 沿革

第一案 第九十七條 左ニ記載シタル者ハ重罪輕罪ノ從犯ト爲シ正犯ノ刑
ニ一等ヲ減ス

一 正犯ヲシテ其罪ヲ遂ケシムル爲メ誘導指示シ又ハ犯罪ノ用ニ供シ若クハ犯罪ヲ容易ナラシム可キ器具方法ヲ授ケ若クハ之ヲ得セシメ其他豫備ノ所爲ニ加功シタル者

二 罪ヲ犯スニ際シ其便利トナルヘキ所爲ニ加功シ又ハ當然爲ス可キノ義務ヲ執行セスシテ正犯ヲ幫助シタル者

身分ニ因テ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ルトキハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

第二案

第七十四條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

第三案

第七十五條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第四案

第七十四條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

第五案

第七十五條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六案

第七十三條 第三案第七十四條ニ同シ

第七案

第七十四條 第三案第七十五條ニ同シ

第二 參照法律

舊刑法

第一百九條 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

佛蘭西刑法

第六十條二項 輕罪ノ累犯ヲ行フノ用ニ充ツ可キコトヲ知リ故ラニ兵器器具及ヒ其他此等ノ罪犯ヲ行フニ用フ可キ物品ヲ貸與フル者ハ其輕罪及ヒ重罪ノ隨從ト爲シテ罰ス可シ

輕罪又ハ重罪ヲ行フヲ知リ故ラニ其輕重ノ罪犯ヲ爲スヘキ設備ヲ爲シ又ハ其罪犯ヲ容易ナラシメ又ハ輕重罪ヲ成就スルノ助ヲ爲シ其首謀ニ助力スル者ハ其輕罪又ハ重罪ノ附從ト爲シテ罰ス可シ但此條ニ記スル所ト國ノ内外ノ安寧ヲ害ス可キ隱謀暴動ヲ爲ス者其目的タル重罪ヲ行

フコト能ハサルトキト雖トモ之ヲ罰スルカ爲メ此刑法中ニ別段定メタル刑ト相觸ルルコトナカル可シ

白耳義刑法

第六十七條 輕重罪ヲ行ハントスルヲ知リ其方策ヲ授クル者

輕重罪ヲ犯スカ爲メ用フルノ情ヲ知テ兇器器械其他此等ノ用ニ充ツヘキ器具ヲ貸與フル者

第六十六條 第三項ニ掲クル如キ者ニ非スシテ凡情ヲ知リ輕重罪犯ヲ援ケ其犯罪ヲ容易ナラシメ或ハ已ニ行フノ後之ヲ扶クル者以上皆附從ヲ以テ論スヘシ

第六十九條 重罪ノ附從者ハ本律第八十條及第八十一條ニ依リ主謀者ニ一等ヲ減ス

輕罪ノ附從者ハ主謀者ニ科ス可キ刑ノ三分ノ二分ヲ科ス可シ

獨逸刑法

第四十九條 凡輕重罪ヲ犯サントスルヲ知テ言語又ハ所業ヲ以テ首謀ヲ

幫助スル者ハ其幫助ニ依リ附從トナシテ論ス
幫助ニ依リ附從トナシテ論スルノ刑ハ犯情ヲ知リ幫助シタル罪ノミ本犯ト同シク論ス然レトモ罪ヲ犯サントセシ所業ヲ處スル條ニ循ヒ減等スルコトヲ得可シ

英吉利刑法典

一 犯人ヲ誘導スルノミニテ犯罪ノ場所ニ在ラサル者ヲ犯罪前ノ附從ト爲ス犯罪前ノ附從ハ首犯ト同刑ニ處ス

埃太利刑法

第五條 或ハ人ノ重罪ヲ犯サントスルヲ知リ故ラニ其方策ヲ授ケ若クハ其妨碍トナルヘキコトヲ除去シ或ハ其他各種ノ方法ヲ以テ其犯罪ヲ遂ケシメ若クハ其結果ヲ堅固ナラシムル爲メ之ヲ協力セシ者及其犯罪後ニ助力ヲ爲シ又ハ其贓ヲ分クルコトヲ豫メ約定セシ者ハ皆之ヲ罰ス可シ

露西亞刑法

第十四條 第二 親ヲ犯罪ノ施行ニ關スル正犯ノ扶助ヲ爲セシ者或ハ犯罪ノ方法ヲ授ケ或ハ其障礙ヲ除去スル者ヲ扶助者トス

第十五條 第四 親ヲ重罪施行ニ關セスト雖トモ重罪ヲ謀圖セシ者ノ爲メニ注意教示間諜方法ヲ授ケ障礙ヲ除去シ或ハ之ヲ約シ或ハ犯罪ノ企アルヲ知テ之ヲ寄宿セシメ又ハ重罪ヲ曲庇スヘキコトヲ約セシ者ヲ加功者トス

第二百二十三條 扶助者一等又ハ二等ヲ減ス

第二百二十七條 加功者ノ刑ハ其加功ナカリセハ正犯其目的ヲ達シ得ザリシ場合ニ於テハ其罪正犯ト同ク論ス餘ノ加功者ハ犯罪ノ時現在セザリシ其犯者ノ刑ニ一等ヲ減ス

埃及刑法

第七十四條 犯罪ノ用ニ供スルヲ知テ兵器器具及ヒ其他總テ犯罪ヲ便ナラシムル諸件ヲ給與シタル者
犯罪ノコトヲ知テ本人ヲ助ケ其犯罪ノ設備ヲ爲シ又ハ犯罪ヲ容易ナラ

シメ或ハ犯罪ヲ成就セシメタル者

贓物タルヲ知テ之ヲ隱匿セシ者

此等ノ者ハ輕重罪ノ同謀者ナリト看做ス可シ

細々利刑法

第七十四條 罪ノ從犯ハ左ノ如シ

第一 罪ヲ犯サンカ爲メ其委任或ハ令狀ヲ贈與シタル者

第二 贈遺約束強迫擅權隱謀等ニ依リ罪ヲ犯サンカ爲メ其必要ナル指揮ヲ與ヘ或ハ挑唆シタル者

第三 兵器其他事犯ヲ行フニ要用ナル器具ナルヲ知テ之ヲ送付シタル者

第四 事犯ヲ設備シ又ハ之ヲ助ケ或ハ既行シタル所ノ行爲ノ主謀或ハ各主謀ヲ放ラニ補翼シタル者

第七十五條 從犯ハ其罪ノ主謀ト同一ノ刑ニ處ス然レトモ前條第三第四項ニ示定シタル從犯ハ若シ其罪ヲ定ムル所ノ審問ニ循ヒ其共犯ノ行爲

罪ヲ仕遂クルニ必要ナリシコトヲ認定セザルトキハ其罪一等或ハ二等
ヲ減ス但シ法律ニ於テ別段ニ掲ケタル場合ハ格別ナリトス

巴西兒刑法

第六條 從犯ト看做ス者ハ左ノ如シ

第一項 物品ヲ隱藏シ或ハ買入スルノ附託ヲ受ケシ者其附託セシ人ノ
身分或ハ有様ヲ以テ贓物ナルコトヲ知リ或ハ事實知ラスト爲ス可カラ
サル者ニシテ故ラニ其物品ヲ隱藏シ或ハ買入スル者

第二項 現ニ罪ヲ犯シ或ハ犯サントスルノ意アルヲ知テ謀殺或ハ盜罪
ヲ犯ス可キ者ヲ隱匿シ或ハ家宅ヲ貸シテ其集會ノ場所ニ供シタルモノ
土耳其刑法

第四十五條 重罪又ハ輕罪ノ附從ハ其重罪又ハ輕罪ノ主謀ト同一ノ刑ニ
處スヘシ但シ法律ニ於テ定メタル別段ノ場合ハ此限りニアラス

羅馬法

從犯トハ犯罪ノ前及ヒ犯罪中又ハ犯罪ノ後ニ正犯ヲ補助スル者ヲ云フ從

犯ハ止タ僅少ノ補助ヲ爲スノミナラス正犯同様ニ犯罪ニ加ハハルコトヲ
要ス併ナカラ法律ニハ從犯ニ係ル通則ナケレハ從犯ヲ罰スヘキ正條ナキ
ニ因テ之ヲ罰スルコトヲ得ス人ヲ略賣シニル川ノ堤防ヲ崩壞シ或ハ妖術
ヲ行ヒタル罪ハ從犯ノ罰ヲ掲ケルカ如シ又從犯ハ場合ニ因リ正犯ト同刑
ニ處スルコトアリ則チ謀反大逆ノ類
犯人ヲ藏匿シ贓物ヲ隱匿シ及ヒ贓物ヲ販賣シテ正犯ヲ補助スル者モ亦從
犯トシテ罰スヘシ此從犯モ亦正犯ト同刑ニ處セララルヘキコトアリ則竊盜
ノ從犯ノ如シ

普魯士刑法

第三十四條 重罪輕罪ニ該ル犯者ノ從犯トシテ罰スヘキ者左ノ如シ

二 重罪輕罪ヲ犯サシムル爲メ誘導ヲ與ヘタル者又ハ其犯罪ニ供スヘ
キコトヲ知テ其用ニ堪フル所ノ兇器器具等ヲ授ケタル者又ハ犯罪ノ
準備ヲ爲シ或ハ之ヲ容易ナラシメ或ハ之ヲ成就セシムル等ノ所爲ヲ

以テ其情實ヲ知ナカラ加功シタル者

第三十五條 第三十四條第二項ニ掲ケタル場合ニ於テ從犯ヲ處ス可キ刑ハ左ノ如シ

- 一 死刑或ハ終身徒刑ニ換ヘ六年以上ノ徒刑且警視ノ監察ヲ受クヘシ
- 二 爾餘ノ場合ニ於テハ重罪或ハ輕罪ニ當ツヘキ懲役及ヒ罰金ノ最輕度ヨリ半額以下ヲ以テ其罪ヲ論ス

ナクソン刑法

第五十三條 他ノ決定シタル惡事ヲ未タ行ハサル以前或ハ已ニ行フノ際ニ加功シタル者又ハ惡事ヲ行フ爲メ必スシモ其決意ヲ爲サシムルニ非サレトモ合議ニ參シ指教ヲ與ヘタル者ハ之ヲ加功ト定ム可シ

第五十五條 重キ加功ニ當ツルノ刑ハ總テ該本罪ノ最重科ヨリ輕クス可シ然レトモ其三分一ヨリ減ス可ラス又輕キ加功ニ於テハ其最重ノ半額以下タル可シ

チユーリング刑法

第三十五條 惡業ヲ企ツルノ際何ノ施爲モナク止タ之ニ加ハハルモ其惡業ノ次項ニ因ル者ハ從犯トシ其罪ニ處ス可シ

- 一 惡業ヲ爲ス契約ヲ結ビ或ハ惡業ヲ爲スニ當リ默然一致同心シ或ハ惡業ヲ悔ルモ仍ホ自ラ改メサルコト
- 一 惡業ノ談決ニ與カラサルモ之ヲ爲スニ就テ指示シ若クハ工夫スルコト

- 一 惡業ノ談決ニ與カラサルモ之ヲ行フ以前ニ加功スルコト此等ノ者ニ科スル刑ハ首謀ヲ處スヘキ刑ノ三分二以上ニ超過スルコトヲ得ス而シテ其刑終身徒刑ニ該ルモ徒刑二十年ヨリ超過スルヲ許サス

リフベック刑法

第三十三條 從犯ニ當ツ可キ刑ハ其首謀ヲ處スルモノト同等タル可シ而シテ首謀ハ充分ニ本刑ヲ受ク可シト雖トモ從犯ハ其既行未成ノ者ニ用フル所ノ成規ニ準シテ其刑ヲ斷ス

ハンブルグ刑法

第四十四條 他人ノ發意ヨリ爲セル惡業ノ情實ヲ知テ指教ヲ加ヘ又ハ其所爲ヲ容易ナラシメ及ヒ進捗ヲ與ヘタル者ハ之ヲ加功トシ其罪ヲ科ス
第四十五條 加功ニ處ス可キ刑ハ法律上首謀ニ科スルノ刑ニ準ス然レトモ該刑ヲ輕減シ且其所業ヲ爲スニ當テ加功シタル者ノ景況ニ從ヒ之ヲ處刑スヘシ加功ニ當ルノ刑ハ首謀ニ處ス可キ刑ノ三分ノ二以上ニ超過スルヲ得ズ若シ首謀ヲ死刑ニ座スルトキハ該刑ヲ最長期限ノ徒刑ト同視シ以テ其算ヲ起スヘシ

バイエルン刑法

第五十四條

二 已ニ決定セシ惡事ヲ爲スノ初メニ當リ其所行ノ種類或ハ其方法ヲ指示シ若クハ之ヲ議決セシ者兇器及ヒ其用ニ供スヘキ器械ヲ給與スル者惡事ヲ行フノ機會ヲ教示セシ者惡事ヲ行フノ障礙ヲ除去シ若クハ惡事ヲ爲スノ準備ヲ爲シ及ヒ其業ヲ扶助セシ者

第五十五條 前條ノ從犯ヲ處スル刑ハ左ノ如シ

一 死刑或ハ終身徒刑ニ處ス可キ重罪ハ八年以上ノ徒刑ニ減スルヲ得可シ

二 總テ爾餘ノ罪ニ處ス可キ所爲ニ就テハ之ヲ減シテ最輕度ノ四分一ニ至ル

ブレイメン刑法

第七十七條 惡事ノ從犯ト爲シ罪ニ處ス可キ者ハ左ノ如シ

三款 議決セシ惡事ヲ行フノ初メニ當リ其所業ノ種類及ヒ方法ニ就テ其計策ヲ示授シ及ヒ誘導スル者又ハ兇器或ハ其用ニ供スヘキ器械ヲ給與スル者又ハ其所業ヲ爲スノ好機ヲ指教シ或ハ爲メニ其障礙ヲ除却スル者此他總テ惡事ヲ準備スル時判然扶助ヲ爲セシ者

第七十八條 從犯ノ罪科ハ其首犯ニ準シテ之ヲ論シ其罪ハ首犯ヨリ減スルコトヲ得レトモ各個ノ法則ハ舊ニ依リ之ヲ設ク

伊太利刑法

第六十四條 左ニ記載シタル場合ニ於テ共同シテ罪ヲ犯シタル者本刑徒

刑ニ該ルトキハ十二年以上ノ懲役ニ處シ其他ノ場合ニ於テハ本刑ノ半ヲ減ス

二 罪ヲ犯ス爲メ誘導指示シ及ヒ之カ方法ヲ與ヘタルトキ

三 事ヲ行フ前又ハ之ヲ行フ間ニ補助ヲ爲シテ之ヲ容易ナラシメタルトキ

第三 釋義 第六十二條第一項ハ舊刑法第九條ト同一ノ規定ナリ舊刑法ニハ幫助ニ付テノ方法ヲ列舉シタルモ是唯例示ニ過キスシテ何等ノ實益アルトナシ是ヲ以テ本法ハ別段其方法ヲ示サス苟モ正犯ヲ幫助シタル者ハ總テ之ヲ從犯ト爲スコトトセリ然レトモ廣ク學說ニ所謂事後從犯ノ如キ者ヲモ包含セシムル趣旨ニ非スシテ舊刑法ト同シク實行前又ハ實行中ノ從犯ノミニ限ルモノトス

第二項ハ從犯ノ教唆者ヲ準從犯ト爲ス規定ナリ本法ハ既ニ教唆者ノ教唆ヲ準正犯ト爲ス旨ヲ規定シタリ然ラハ從犯ヲ教唆シテ幫助ヲ實行セシメタル者モ亦之ヲ準從犯ト爲スニアラサレハ聊カ不權衡ノ嫌ナキ能ハス是本項ヲ

設ケタル所以ナルヘシ

第六十三條ハ舊刑法第九條ト同シク從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ヨリ之ヲ減輕スルコトヲ規定シタルモノナリ蓋シ從犯ハ正犯ト異ナリ犯罪ノ成立ヲ幫助シタルニ止マリ其情狀ニ於テ大ニ正犯ヨリ輕キ所アリ之ト同一ノ刑ニ處スルハ重キニ失スルヲ以テナリ

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第一 沿革

第一案 缺如

第二案 第七十六條 輕罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ別段ノ規定アルニアラサレハ之ヲ罰セス

第三案 第七十六條 拘留又ハ科料ニ科料ノミニ處スヘキ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第四案 第七十五條 第三案第七十六條ニ同シ

第二 釋義 本條ハ本法ニ於テ拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ハ罪質輕微ナルヲ以テ拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ罪質更ニ輕微ニシテ一般ニ之ヲ處罰スルノ必要ナシト爲シ其特ニ必要アルモノニ限リ各本條ニ讓ル趣旨ニ出テタルモノナリ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス
身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第一 沿革

第一案 第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ刑ヲ加重スヘキ場合ニ於テハ共犯中其事ニ與ラサルモ情ヲ知リタルトキ若クハ豫知シ得ヘキトキハ其加重ヲ免カルコトヲ得ス
共犯ノ身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキトキハ他ノ共犯ニ及ホスコト

ヲ得ス

第二案 第七十七條 犯人ノ身分ニ因リ構成スヘキ罪ヲ共ニ犯シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

ヲ科ス

第三案 第七十七條 第二案第七十七條ニ同シ

第四案 第七十六條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

ヲ科ス

第二 參照法律

舊刑法

第六十六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キトキハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスコトヲ得

第一百條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ス

英吉利法典

一 首犯ノ死去赦免ノ爲メ從犯タル者其罪ヲ宥免スルコトヲ得ス

甲乙ニ指令シテ人ヲ殺サシム乙甲ノ眼前ニ非スシテ其人ヲ殺ストキハ

乙ヲ首ト甲ヲ從トス然レトモ甲乙ヲ指令シテ人ノ家ヲ燒カシムルニ乙

之ヲ燒クトキ強盜ヲ犯セハ甲ハ放火ノ從ニシテ強盜ノ從ニアラス

奧太利刑法

正犯者若クハ從犯者連累者ノ内一人其身ノ事故ニ由テ免罪スルコトアリ

ト雖トモ他ノ共犯者連累者ニ及フコトヲ得ヘカラス

埃及刑法

第七十五條 輕重罪ノ同謀者其本人ノ罪ヲ犯スニ方リ其罰ヲ重劇ナラシ

ムヘキ所爲ヲ行フニ參セサルトキハ本人ト同シク其重劇ノ罰ヲ受クルコトナカルヘシ但本人ヲ挑唆シテ罪ヲ犯サシメタル同謀者ハ例外ナリトス

細々利刑法

第七十六條 從犯若クハ其主謀ノ身分ニ依リ刑ヲ加重シ又ハ免除スヘキ

ト雖モ之ヲ其他ノ人ニ及ホスコトナシ

第七十七條 刑ヲ加重スヘキ所ノ事犯ノ況狀ハ其本犯或ハ從犯ノ事犯ヲ

行フ時其情ヲ知テ犯セシ場合ノミニ限ルヘシ

サクソン刑法

第五十一條二項 一 惡業ヲ爲シ其共犯數名ニシテ各犯ノ身分關係及ヒ其

思慮ノ向フ所ニ因リ罪科ノ輕犯ヲ異ニスル場合ニ於テハ其身分ノ關係

其思慮ノ向フ所ニ從ヒ其各共犯ノ負フ可キ刑ヲ以テ科ス可シ

第五十五條 首謀ノ身分關係又ハ加功ノ身分關係ニ因リ其當ツヘキ刑類

ノ異ナルトキ加功ノ受クヘキ刑ノ輕重ハ即チ首謀ノ關係ニ從ヒ科セラ

レタル刑ニ準スヘシ首謀ノ身分關係ニ因リ處刑ス可キコトニ於ケルモ亦同シ

第五十六條 首謀ノ身分關係及ヒ發意ノ様子ニ從ヒ從犯ノ承認シタルモノヨリ重キ罪科ニ當ツ可キ現況アルトキ從犯ニ科スルノ罪ハ只首謀ヨリ授ケラレタル指教ノ上ニ就テ其刑ヲ言渡シ其重キ罪科ニ當ツヘキ現況ハ之ヲ憫諒スヘシ

ハンブルク刑法

第五十一條 共犯ノ身分關係ヨリ生シタル惡業ノ種類及ヒ其身分ニ就テ特ニ其罪ヲ増加シ或ハ之ヲ寬典ニ處スルノ理由ハ爾餘ノ共犯ニ交觸スルコトアル可カラス而シテ之ヲ處刑スルニハ只各自ノ犯シタル罪狀ニ從ヒ其刑ヲ言渡ス可シ

ブレイメン刑法

第八十二條 首犯從犯中或ル者ノ身分其處刑上ニ特別ノ關係アルトキハ其特別ノ關係ノ情狀ヲ自他ノ利益トナシ又其損害ト爲ス可カラス

唐律

諸共犯罪而本罪別者雖相因為首從其罪各依本律首從論

明清律

若共犯罪而首從本罪各別者各依本律首從論犯罪共逃條其因人連累數罪而罪人自死者聽減本罪二等以下指囚人連累而言謂因別人但連累以得罪者如藏匿引送資給罪人及保勘供證不實或失覺察關防鈴束聽使之類其罪人非被刑殺而自死者又聽減罪二等若罪人自首告及遇赦原免或蒙特恩減罪收贖者亦準罪人原免減等贖罪法

假刑律

凡人ニ因テ連累シテ罪ヲ得罪人刑殺ヲ被ニアラス自分死スレハ本罪二等ヲ減ス若罪人自首致シ及ヒ赦宥ニ係ラハ一體ニ免之若俱ニ罪ヲ犯シ首從ノ本罪自ラ各別ナルハ各其本罪ニ就テ首從ヲ分テ論ス若俱ニ罪ヲ犯シ首從ノ本罪自ラ各別ナルハ各其本罪ニ就キ首從ノ分ヲ論ス

新律綱領

犯罪共逃條 其人ニ因リ連累シテ罪ニ致シ正犯罪人自死スル者連累人ハ

本罪ニ二等ヲ減スルコトヲ聽ス

若シ罪人自ラ首告シ及ヒ恩赦ニ遇テ原免セラレハ連累人モ亦減罪スルコトヲ聽ス

若シ共ニ罪ヲ犯シテ首從ノ本罪各別ナル者ハ各本律ノ首從ニ依テ論ス(假令ハ甲他人ヲ引テ共ニ兄ヲ毆テハ甲ハ弟毆兄律ニ依リ他人ハ凡人毆毆ニ依テ論ス又卑幼外人ヲ引キ己レノ家ノ財物ヲ盜メハ卑幼ハ私擅用財律ニ二等ヲ加ヘ外人ハ凡盜ノ從ニ依テ論スルノ類)

獨逸刑法

第五十條 凡罪ヲ犯シ其身分及ヒ情狀等ニ因リ加減ス可キトキハ其身分情狀ニ因リ首從ヲ酌定ス可シ

伊太利刑法

第六十五條 共同シテ罪ヲ犯シ又ハ之ヲ犯スコトヲ容易ナラシメタル者

ニ對シ永久ナルト一時ナルトヲ問ハス身分及ヒ情狀ニ依リ刑ヲ加重スヘキトキハ犯罪加功ノ際其身分及ヒ情狀ヲ知リタル者ニモ亦刑ヲ加重ス但其刑ノ六分ノ一ヲ減スルコトヲ得且其徒刑ニ該ルトキハ二十五年以上三十年以下ノ懲役ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三 釋義 本條第一項ハ新ニ設ケタル規定ナリ舊刑法ニ於テハ此場合ニ關スル規定ナキ爲メ學說ニ派ニ分レ一ハ之ヲ以テ共犯ニ非スト爲シ一ハ之ヲ以テ共犯ト爲セリ本法ハ第二ノ主義ヲ採リ身分ナキ者カ身分アル者ト共ニ身分ニ依リ構成ス可キ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ共犯ト爲スコトトセルモノ如シ
第二項ハ舊刑法第六條及ヒ第一百十條ト同一ノ規定ニシテ舊刑法ニハ減輕ノ場合ニ關スル規定不備ナルヲ以テ之ヲ補充シタルモノナルヘシ

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第一 沿革

第一案 第八十一條 重罪、輕罪、違警罪ヲ分タス所犯ノ情狀ニ因リ本刑又ハ加減シタル刑ノ最低度以下ニ減輕ス可キモノハ酌量シテ仍ホ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

酌量減輕ス可キモノハ其刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第二案 第七十八條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕ス可キモノト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 法律ニ於テ刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キモノト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第三案 第七十八條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第七十九條 法律上刑ヲ加重又ハ減輕ス可キモノト雖モ仍ホ酌量

減輕ヲ爲スコトヲ得

第四案 第七十七條 第三案第七十八條ニ同シ

第七十八條 法律上刑ヲ加重又ハ減輕ス可キモノト雖モ仍ホ酌量

減輕ヲ爲スコトヲ得

法律上刑ヲ減輕スルコトヲ得ヘキ場合亦同シ

第二 參照法律

舊刑法

第八十九條 重罪、輕罪、違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ

本刑ヲ減輕スルコトヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

佛蘭西刑法

第四百六十三條 犯罪ノ證アル被告人ヲ法律ニ循ヒ處ス可キ刑ヲ輕減ス可キ情狀アルコトヲ陪審ノ決定シタルトキハ左ノ如ク其刑ヲ減ス可シ

若シ法律ニ循ヒ死刑ヲ言渡ス可キトキハ裁判所ヨリ無期ノ徒刑又ハ有期ノ徒刑ヲ言渡ス可シ

無期ノ徒刑ヲ言渡ス可キトキハ裁判所ヨリ有期ノ徒刑又ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ヲ言渡スヘシ

若シ城塞中ニ繋囚スル流刑ヲ言渡ス可キトキハ裁判所ヨリ通常ノ流刑又ハ囚獄ノ刑ヲ言渡ス可シ但シ第九十六條及ヒ第九十七條ニ記シタル場合ニ於テハ通常ノ流刑ノミヲ言渡ス可シ若シ流刑ヲ言渡ス可キトキハ裁判所ヨリ囚獄ノ刑又ハ追放ノ刑ヲ言渡ス可シ

若シ有期ノ徒刑ヲ言渡ス可キトキハ裁判所ヨリ徒刑場内ニ於テ使役スル刑又ハ第四百一條ニ記シタル刑ヲ言渡スヘシ但シ其禁錮ノ時間ヲ二年ヨリ少ナク減ス可ラス

若シ徒刑場内ニ於テ使役スル刑囚獄ノ刑追放ノ刑公權剝奪ノ刑ヲ言渡ス可キトキハ裁判所ヨリ第四百一條ニ記シタル刑ヲ言渡ス可シ但其禁錮ノ時間ヲ一年ヨリ少ク減ス可ラス

法律ニ循ヒ至重ノ施體ノ刑ヲ言渡ス可キトキ其刑ヲ減輕ス可キ情狀アルニ於テハ裁判所ヨリ至輕ノ施體ノ刑ヲ言渡シ又ハ施體以下ノ刑ヲ言渡ス可シ

何レノ場合ニ於テモ法律ニ循ヒ禁錮ノ刑ト罰金トヲ言渡ス可キトキ其刑ヲ減輕ス可キ情狀アルニ於テハ再犯ノ場合ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ其禁錮ノ刑竝ニ罰金ヲ左ノ如ク減ス可シ

若シ罪ノ種類又ハ罪ノ再犯ニ因リ法律ニ循ヒ一年ヨリ少カラサル禁錮ノ刑又ハ五百フランクヨリ少カラサル罰金ヲ言渡ス可キトキハ裁判所ヨリ其禁錮ノ時間ヲ六日迄ニ減シ且其罰金ヲ十六フランク迄ニ減スルコトヲ得ヘシ

其他ノ場合ニ於テハ裁判所ヨリ其禁錮ノ時間ヲ六日以下ニ減シ其罰金ヲ十六フランク以下ニ減スルコトヲ爲シ得ヘク又其禁錮ノ刑ニ換テ罰金ヲ言渡スコトヲ得ヘシ但何レノ場合ニ於テモ其罰金ハ註誤ノ罪ニ付キ言渡スヘキ罰金ヨリ少キコトナカルヘシ

第七十九條 凡情狀酌量スヘキ者ハ下條ニ照シ刑ヲ減輕ス可シ

第八十條 罪死罪ニ該ル者ハ減シテ無期徒刑又ハ十五年以上二十年以下ノ徒刑ニ處スヘシ

無期徒刑ニ該ル者ハ減シテ十五年以上二十年以下ノ徒刑又ハ十年以上十五年以下ノ徒刑ニ處ス可シ
十年以上十五年以下ノ徒刑ニ該ル者ハ減シテ監役又ハ三年以下ノ囚獄ニ處ス可シ

監役ニ該ル者ハ減シテ三月ヨリ少カラサル囚獄ニ處ス可シ

第八十一條 罪無期禁錮ニ該ル者ハ非常禁錮又ハ十年以上十五年以下ノ禁錮ニ處ス可シ

非常禁錮ニ該ル者ハ十年以上十五年以下ノ禁錮又ハ五年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス可シ

十年以上十五年以下ノ禁錮ニ該ル者ハ五年以上十年以下ノ禁錮又ハ二

年以上ノ囚獄ニ處ス可シ五年以上十年以下ノ禁錮ニ該ル者ハ二年以上ノ囚獄ニ處ス可シ

第八十二條 罪本刑ノ重キニ該ル者ハ同刑ノ輕キニ論シ若クハ一等ヲ減ス

第八十三條 重罪ノ罰金ハ減スト雖モ二十六フランクニ下ル可ラス

第八十四條 重罪ヲ減シテ禁獄ニ該ル者モ二十六フランクヨリ一千フランクニ至ルマテノ罰金ヲ命ス可シ且該犯人ハ第三十一條ニ記スル民權ノ全部又ハ幾分ヲ剝奪ス可シ但シ其期限ハ五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ多カラサルヘシ

監察ヲ受ケシム可キ期限モ亦五年ニ始リ十年ニ止ル

第八十五條 囚獄又ハ罰金ニ該ル者モ其情狀輕減ス可キ者ハ減スト雖モ其違警罪以下ニ非ルヨリハ囚獄ハ八日以下ニ減ス可ラス罰金ハ二十六フランク以下ニ減ス可ラス右兩刑ヲ區別シテ科スルハ裁判官ノ意見ニ任ス若シ囚獄ノミニ該ル者ハ裁判官之ニ換フルニ罰金ヲ以テシ而テ其金額ハ五百フランクニ越ユ可ラス

若シ第三十一條ニ記スル民權剝奪及ヒ監察ニ該ル者ニ一年間ノ剝奪及ヒ五年間ノ剝奪ニ命スルハ裁判官ノ意見ニ任ス

獨逸刑法

該刑法ニ於テ酌量減輕ハ各本條ニ記載セリ

英吉利刑法典

英國ニ於テ犯罪ヲ情狀原諒スヘキトキハ裁判官法律ニ定ムル區域ニ隨ヒ其適意ニ刑ヲ減輕ス

奧太利刑法

第四十六條 右ニ記載シタル各件ハ情狀ヲ酌量減輕ス可キモノトス

第一項 犯人ノ年齢二十歳ニ滿タサル者ハ其知識空洞ナル者又ハ其教育ヲ受クル事至テ淺キ者

第二項 罪ヲ犯セシ以前ハ平生其品行全ク善良ナリシ者

第三項 他人ニ挑撥セラレ其威力ヲ恐レ又ハ從順ナル爲ニ犯セシ者

第四項 人情感動サレ易キ事件ニ激發セラレ因テ犯セシ者

第五項 初ヨリ惡意ヲ以テ其事ヲ企ツルニ非スシテ多クハ他人ノ怠慢ニ乘シ好機會ヲ得テ自カラ不圖犯セシ者

第六項 貧困ニ迫リ因テ犯セシ者

第七項 重罪ニ由テ生セン損害ヲ顯然自ラ償還スルコトヲ勉メ若クハ之ニ繼發スヘキ餘毒ヲ顯然自ラ防遏スルコトヲ勉メシ者

第八項 逃亡爲シ易ク又ハ發覺爲シ難キ際ニ於テ其罪ヲ自首シタル者

第九項 他ニ潜伏セシ重罪人ヲ發覺シ之ヲ捕獲スヘキ機會ト其方法トヲ明白ニセシ者

第十項 自ラ招キシ罪ニ非スシテ鞫問ノ爲メ永時間拘留セラレシ者

第四十七條 左ニ記載シタル各件ハ罪狀ヲ酌量減輕スヘキモノトス

第一項 未遂犯罪ノ既遂ノ點ヨリ隔タル間ノ多少ニ從ヒ減等ノ度ヲ異ニス可シ

第二項 重罪ヲ犯ストキ更ニ大ナル損害ヲ加ヘ得可キ好機會アリト雖モ之ヲ自ラ制シテ該犯ニ止マリシ者

第三項 重罪ニ由テ來セシ損害ノ至小ナル者或ハ其被害者充分ノ償還
或ハ報酬ヲ得ル者

伊太利刑法

第五十九條 法律ノ正條ヲ以テ定メタル減刑ノ外犯人ノ爲メニ酌量減輕
スヘキ情狀アルトキハ徒刑ニ換フルニ三十年ノ懲役ヲ以テシ其他ノ刑
ニ付テハ六分ノ一ヲ減ス

露西亞刑法

第四百十條 左ノ情狀アル者ハ其罪ヲ酌量スヘシ

- 第一 犯罪者未タ疑密ヲ受ケナル前自心ヨリ悔悟ヲ起シ官署ニ至リ犯
シタル事件ヲ正直ニ自首スルトキ
- 第二 已ニ疑ヲ受クルト雖モ裁判官ノ一問ニ應シ悉皆自首シ悔悟ノ意
ヲ表スルトキ
- 第三 遲延ナク又正直ニ諸連累者ヲ告知スルトキ
- 第四 他人誣罔ニ罹リ倉卒或ハ誤解或ハ不知ヲ以テ重罪ヲ犯ストキ

第五 人我ニ無禮損害等ノ所業ヲ加フルニ依リ憤怒ノ餘犯ストキ

第六 職務上或ハ自然ノ理ニ於テ我ニ支配スヘキ權アル者ノ委託命令
或ハ先導ニ隨テ重罪ヲ犯ストキ

第七 貧困ニ切迫シテ重罪ヲ犯ストキ

第八 重罪ヲ犯ストキ之ヲ悔ヒ希圖セシ罪ノ一部分ヲ罷メ或ハ殊ニ其
犯者ヲ控製シテ之ヲ犯サシメサルトキ

第九 重罪ヲ犯セシ後ト雖モ其後患ヲ除キ務メテ其害ヲ減少スル者
第四百十一條 前條ニ記スル酌量ノ事由一個若クハ數個現ニ顯ハルルト

キ裁判所ニ於テ爾他ノ情狀ト比照シ其刑ヲ輕減スルコトアリ但シ減シ
テ成法上ニ定ムル等ヲ越ヘシム可ラス

埃及刑法

第三百四十一條 若シ犯罪ノ模樣裁判役ノ宥恕ヲ得ヘキモノタルトキハ
左ノ如ク其刑ヲ輕減ス可シ

若シ其罪ノ死刑ニ當ルトキハ無期ノ徒刑ニ處シ又更ニ輕減シテ有期ノ

徒刑ニ處スルコトヲ得可シ

若シ其罪ノ無期ノ徒刑ニ當ルトキハ有期ノ徒刑ニ處シ又更ニ輕減シテ有期ノ繫獄ノ刑ニ處スルコトヲ得ヘシ

若シ其罪有期ノ徒刑又ハ無期ノ繫獄ノ刑ニ當ルトキハ有期ノ繫獄ノ刑ニ處シ又更ニ輕減シテ二年ヨリ少カラサル時間禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得可シ

若シ其罪無期ノ追放ノ刑ニ當ルトキハ有期ノ追放ノ刑ニ處シ又更ニ輕減シテ一年ヨリ少カラサル時間禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得可シ若シ其罪有期ノ追放ノ刑有期ノ繫獄ノ刑無期ノ官職剝奪ノ刑民權剝奪ノ刑ニ當ルトキハ六月ヨリ少カラサル時間禁錮ノ刑ニ處ス可シ

若シ其罪ノ輕罪アルトキハ法律上ニ定メシ其罪ニ當ル最輕ノ刑ヨリ更ニ重キ刑ヲ言渡ス可ラス又禁錮ノ刑期ヲ其最輕ノ刑期ヨリ更ニ減シ或ハ唯罰金ノミヲ言渡スコトヲ得可シ但之カ爲メ其刑ヲ註誤ノ刑ヨリ更ニ輕カラシム可ラス

若シ其罪ノ註誤タルトキハ其刑法律上ニ定メシ本罪ニ當ル最輕ノ刑ヨリ更ニ重キコトナカル可ク又之ヲ輕減シテ五ピアストンヨリ少カラサル罰金ヲ言渡スコトヲ得可シ

新律綱領

凡庶人罪ヲ犯シ過誤失錯連累其他不幸ニ出テ事矜憫ス可ク情原諒ス可クシテ的決シ難キ者ハ法ニ依リ贖罪ヲ準ス

改定律例

第三十條 凡平民罪ヲ犯シ贖罪スヘキ者無力ニシテ贖フコト能ハサル者ハ律ニヨリ實斷スト雖モ死罪ハ一等ヲ減シテ懲役ニ服ス

凡罪ヲ斷スル正條アリト雖モ處犯情狀輕キ者ハ仍ホ情法ヲ酌量シテ減輕スルコトヲ聽シ減シテ五等ニ過クルコトヲ得ス

第三

釋義 本法ハ舊刑法ノ刑ノ範圍狹キニ失シ實際ノ科刑上罪刑相適應セサルノミナラス彼此其權衡ヲ失スルノ弊アルヲ認メ此弊害ヲ避クル爲メ刑ノ範圍ヲ擴クスルコトヲ目的トシ各本條ニ於テ各罪ニ對スル刑ノ範圍ヲ廣

クシ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ量定セシムルコトヲ期セリ故ニ大體ニ於テハ酌量減輕ノ制度ハ殆ント之ヲ存置スル必要ナキモノノ如シト雖モ有期自由刑ノ短期ハ前草案ノ一日制ヲ改メ一月制ト爲シタル爲メ或ル場合ニ於テハ尙ホ刑ノ重キニ失スル場合ナキヲ保セス是レ刑ノ範圍擴張セラレタルニ拘ハラス酌量減輕ヲ採用セラレタル所以ナルヘシ

第六十六條ハ酌量減輕ノ要素ヲ定メタルモノニシテ犯罪ノ情狀ニシテ憫諒スヘキモノニ在テハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得ルコトトセリ是レ舊刑法第八十九條第一項ト其趣旨同一ニシテ別ニ説明ノ要ヲ認メス

第六十七條モ亦舊刑法第八十九條第二項ト其趣旨ヲ同フシ法律上ノ加重減輕ヲ爲スヘキ場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノニシテ要スルニ罪刑トモニ適應シテ彼此權衡ヲ失スルコトナキヲ期スルニ在ルモノノ如シ

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ理由

アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

- 四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス
 - 五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス
 - 六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス
- 第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ

減輕ス

七二八

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサ

ル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ス

トキ亦同シ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條

ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依

一 再犯加重

二 法律上ノ減輕

三 併合罪ノ加重

四 酌量減輕

第一 沿革

第一案 第五十七條 定役ヲ附スル重罪ノ刑ヲ左ノ等級ニ照シテ減輕ス

一 無期懲役

二 一等有期懲役

三 二等有期懲役

四 三等有期懲役

第五十八條 定役ヲ附セサル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ減輕ス

一 無期禁獄

三 一等有期禁獄

三 二等有期禁獄

四 三等有期禁獄

第五十九條 死刑ヲ減輕ス可キトキハ其罪ノ性質定役ヲ附スル刑

ニ該ルト定役ヲ附セサル刑ニ該ルトノ區別ニ從ヒ無期懲役又ハ無期禁獄ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第六十條 三等有期懲役ヲ減輕ス可キトキハ二年以上六年以下ノ有役禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲シ三等有期禁獄ヲ減輕ス可キトキハ二年以上六年以下ノ無役禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第六十一條 重罪ノ刑ノ加重ハ第五十七條及ヒ第五十八條ニ記載シタル順序ヲ顛倒シテ之ヲ行フモノトス
死刑及ヒ無期刑ハ如何ナル場合ニ於テモ加重ニ因リ之ヲ宣告スルコトヲ得ス

一等ノ有期懲役及ヒ有期禁獄ノ刑ヲ加重ス可キトキハ其短期及ヒ長期ニ三年ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

第六十二條 禁錮、罰金ヲ減輕ス可キトキハ其刑期全額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キトキハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但禁錮ハ加重ニ因リ七年ヲ超過スルコト

ヲ得ス

禁錮、罰金ノ加減二等以上ニ及フトキハ其已ニ加減シタルモノニ就テ加減ス

第六十三條 禁錮ヲ減シテ其長期十日以下ニ至ルトキハ其相當日數ノ拘留ニ處ス若シ其短期ノミ十日以下ニ至ルトキハ亦拘留ニ處スルコトヲ得

罰金ヲ減シテ其多數五圓未滿ニ至ルトキハ其相當額ノ科料ニ處ス若シ其寡數ノミ五圓未滿ニ至ルトキハ亦科料ニ處スルコトヲ得

第六十四條 拘留、科料ヲ加減ス可キトキハ禁錮、罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス但拘留ハ減シテ一日未滿ニ下スコトヲ得ス科料ハ減シテ十錢未滿ニ下スコトヲ得ス

第六十五條 禁錮、拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サルトキハ之ヲ除棄ス

第六十六條 法律上同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キ原由アルトキハ一等減輕ト一加重ト相殺ス

第二案

第八十條 法律上刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ從テ之ヲ減輕ス

一 死刑ヲ減輕スヘキトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處ス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮若クハ拘留ヲ減輕スヘキトキハ其長期ノ三分ノ二以下ニ處ス但シ各本條ニ於テ特ニ短期ヲ定メタル場合ニ於テハ其三分ノ二ヲ減シタルモノヲ以テ短期トス

四 罰金科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ三分ノ二以下ニ處ス
第八十一條 法律上刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第八十二條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ短期アルモノヲ減輕ス可キトキハ其短期以下ニ處ス
第八十三條 附加刑ハ加重減輕セズ

第八十四條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一 再犯加重

二 法律上ノ減輕

三 併合罪ノ加重

四 酌量減輕

第三案

第八十條 法律上刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス
- 四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス
- 五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス
- 六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス
- 第八十一條 法律上刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス
- 第八十二條 懲役禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第八十三條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第八十條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第八十四條 附加刑ハ加重減輕セズ

第八十五條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

- 第四案
- 第七十九條 第三案第八十條ニ同シ
 - 第八十條 第三案第八十一條ニ同シ
 - 第八十一條 第三案第八十二條ニ同シ
 - 第八十二條 第三案第八十三條ニ同シ
 - 第八十三條 第三案第八十四條ニ同シ
 - 第八十四條 第三案第八十五條ニ同シ

第二 參照法律

舊刑法

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル

例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁獄

ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁獄ニ處スルヲ

以テ一等ト爲ス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金

額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一

ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコ

トヲ得

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科

料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及

ブ時ハ亦拘留科料ニ處スルコトヲ得

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルコトヲ得減シテ一日以下ニ降スコトヲ得スコ料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルコトヲ得減シテ五錢以下ニ降スコトヲ得ス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止タ主刑ヲ科ス

第七十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一 再犯加重

二 宥恕減輕

三 自首減輕
四 酌量減輕

白耳義刑法

第八十條 死刑ニ該ル者ハ減シテ無期徒刑又ハ十五年以上二十年以下ノ徒刑ニ處ス

無期徒刑ニ該ル者ハ減シテ十五年以上二十年以下又ハ十年以上十五年以下ノ徒刑ニ處ス

十年以上十五年以下ノ徒刑ニ該ル者ハ減シテ監役又ハ三年以上ノ囚獄ニ處ス

監役ニ該ル者ハ減シテ三月以上ノ囚獄ニ處ス

第八十一條 無期禁錮ニ該ル者ハ非常禁錮又ハ十年以上十五年以下ノ禁錮ニ處ス

非常禁錮ニ該ル者ハ十年以上十五年以下又ハ五年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

十年以上十五年以下ノ禁錮ニ該ル者ハ五年以上十年以下ノ禁錮又ハ二年以上ノ囚獄ニ處ス

五年以上十年以下ノ禁錮ニ該ル者ハ二年以下ノ囚獄ニ處ス

第二百六十六條 加等スヘキモノ囚獄ニ該ルハ至輕ヲ一倍ス(至輕ハ二十六日之ヲ一倍スレハ即チ五十二日トナルノ類)監役禁錮及ヒ徒刑ニ該ル者ハ其至輕ニ二年ヲ加フ

奧地利刑法

第四十九條 加等ノ爲メ各重罪ニ科スヘキ刑ノ種類ヲ變シ及ヒ其法律ヲ以テ定メタル制限ヲ超過ス可カラス

第五十條 死刑及ヒ無期ノ徒刑ニ於テハ加等法ヲ適用スルコトナシ

第五十一條 有期ノ徒刑ニ於テ加等ス可キトキハ法律ヲ以テ定メタル最長期ニ處シ且ツ其身分ニ應シテ第十九條ニ記シタル加重法ノ一個又ハ數個ヲ科ス可シ

第五十二條 死刑ニ處スヘキ重罪ニ於テ減等スヘキトキハ其法律ノ定メ

ニ從ヒ且ツ其他死刑處分ニ於テ頒布セラレシ諸規則ニ從フ可シ而シテ犯人ノ年齢未タ二十ニ滿タサル者ハ其死刑若クハ終身徒刑ニ換ヘ之ヲ十年乃至二十年ノ重徒刑ニ處ス可シ

第五十三條 他ノ場合ニ於テハ減等スヘキ爲メ其刑ノ種類及ヒ其法律ヲ以テ定メタル期限ヲ變セス唯其律ニ於テ許ス可キ範圍内ニ於テ其刑期ヲ短縮スヘシ

露西亞刑法

第一百五十四條 該刑法ニ掲クル刑ハ各犯人ノ情狀ニ從ヒ一等又ハ數等ヲ減スルコトアルヘシ而シテ刑類ノ區域内ニ以下ノ等ナキトキハ減シテ他ノ刑類ニ入ルコトヲ得則チ重罪刑ノ第二類ヨリ第三類ニ降リ第三類ヨリ懲役刑ノ第一類ニ降リ第一類ヨリ第二類ニ降リ第五類ヨリ第六類ニ降ルコトヲ得

懲治刑第二類ヨリハ決シテ他ノ寬ナル刑類ニ入ルコトヲ得ス又懲治刑ノ第三第四類ヨリ第五類ニ降ルヲ得ス

若シ一等又ハ數等ヲ加フヘクシテ該刑法ニ掲クル刑類ノ内ニ於テ更ニ加フヘキ等ナキトキハ前條ノ例ニ依リ懲治刑第六類ヨリ其第五類ノ重罪刑ノ第二類ヨリハ第一類第三類ヨリハ第二類ニ上ルコトヲ得然レトモ懲治刑ハ其第五類ヨリ第四類或ハ第三類ニ上ルコトヲ得ス及ヒ其第三類ヨリ第二類ニ上ルコトヲ得ス又懲治刑ヨリ重罪刑ニ上ルコトヲ得ス此場合ニ於テハ他ノ刑類ニ上ルヘキ代リニ唯タ刑ノ度ヲ上クルノミ則テ一年二年或ハ三年ヲ遷延シテ以テ一等二等三等ヲ加フルニ代フヘシ

埃及刑法

第三百四十一條 若シ犯罪ノ模様裁判役ノ宥恕ヲ得可キモノタルトキハ左ノ如ク其刑ヲ輕減ス可シ
 若シ其罪ノ死刑ニ當レルトキハ無期ノ徒刑ニ處シ又更ニ輕減シテ有期ノ徒刑ニ處スルコトヲ得可シ
 若シ其罪無期ノ徒刑ニ當ルトキハ有期ノ徒刑ニ處シ又更ニ輕減シテ有

期ノ繫獄ノ刑ニ處スルコトヲ得ヘシ

若シ其罪有期ノ徒刑又ハ無期ノ繫獄ノ刑ニ當レルトキハ有期ノ繫獄ノ刑ニ處シ又更ニ輕減シテ二年ヨリ少カラサル時間禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得ヘシ

若シ其罪無期追放ノ刑ニ當レルトキハ有期ノ追放ノ刑ニ處シ又更ニ輕減シテ一年ヨリ少カラサル時間禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得ヘシ

若シ其罪有期ノ追放ノ刑有期ノ繫獄ノ刑無期ノ官位職務剝奪ノ刑民權剝奪ノ刑ニ當レルトキハ六月ヨリ少ラサル時間禁錮ノ刑ニ處ス可シ

若シ其罪ノ輕罪ナルトキハ法律上ニ定メシ其罪ニ當レル最輕ノ刑ヨリ更ニ重キ刑ヲ言渡ス可ラス又禁錮ノ刑期ヲ其最輕ノ刑期ヨリ更ニ減シ唯罰金ノミヲ言渡スコトヲ得ヘシ

但シ之カ爲メ其刑ヲ註誤ノ刑ヨリ更ニ輕カラシム可ラス

若シ其罪ノ註誤タルトキハ其刑法上ニ定メシ其罪ニ當ル最輕ノ刑ヨリ更ニ重キコトナカル可ク又之ヲ輕減シテ五ビアストルヨリ少ナカラサ

ル罰金ヲ言渡スコトヲ得ヘシ
細々利刑法

第五十五條 若シ法律ニ於テ一般ノ規則ニ循ヒ輕減シテ刑ヲ適用スルコトヲ定ムルトキハ左ノ等ヲ追テ處斷ス可シ

- 第一 死刑
- 第二 無期徒刑
エルクカストロ
- 第三 四等徒刑
- 第四 三等徒刑
- 第五 二等徒刑
- 第六 一等徒刑
- 第七 監役
- 第八 流刑
- 第九 禁錮或ハ監視追放
- 第十 輕追放或ハ其他違警罪

「ブレジトド」ニ於ケル徒刑ハ第三第四第五及第六項ニ定ムル所ト同等タル可シ

第五十六條 前條ニ掲載セサル刑ニ付重キヨリ輕キニ減等スルトキハ左ノ如シ

- 第一 國外無期ノ追放
- 第二 國外有期ノ追放
- 第三 監視追放或ハ輕追放
- 第四 違警罪但シ拘留ヲ除ク

二

- 第一 公ケノ官吏トナルノ禁
- 第二 有期剝權或ハ輕追放
- 第三 輕罪罰金
- 第四 違警罪但シ拘留ヲ除ク

第五十七條 刑ノ輕キヨリ重キニ加等スル規則ハ左ノ如シ

- 第一 一等禁錮
- 第二 二等禁錮
- 第三 三等禁錮
- 第四 流刑
- 第五 監役
- 第六 一等徒刑
- 第七 二等徒刑
- 第八 三等徒刑
- 第九 四等徒刑
- 第十 無期徒刑
エルカストロ
- 第十一 死刑

「ブレジッド」ニ於ケル徒刑ハ亦タ本條第六第七第一及第九項ニ掲ケタル等ヲ追テ處斷ス可シ

第五十八條 前條ニ定メサル刑ニ就テハ左ノ法ニ循ヒ其等ヲ加重ス

- 第一 公ケノ官吏トナル有期ノ禁
 - 第二 無期剝權
 - 第三 流刑此刑ヨリ仍ホ加等スヘキトキハ通常ノ順序ニ從ヒ其等ヲ加重ス可シ但シ何レノ場合ニ於テモ無期ノ剝權ヲ附加スルモノトス
- 二
- 第一 國外有期ノ追放
 - 第二 國外無期ノ追放
 - 第三 「ブレジッド」ニ於ケル徒刑第一等其仍ホ加等スヘキトキハ通常ノ順序ニ從ヒ其等ヲ加重ス可シ但シ何レノ場合ニ於テモ無期ノ追放ヲ附加スルモノトス
- 三
- 第一 監視追放或輕追放
 - 第二 前期ト同等ノ禁錮此刑ヨリ仍ホ加等スヘキトキハ通常等ヲ追ヒ加重ス可シ

第一 有期剝權或ハ輕罪罰金

第二 監視追放第一等此刑ヨリ仍ホ加等スヘキトキハ通常ノ等ヲ追ヒ加重ス可シ但何レノ場合ニ於テモ有期ノ剝權又ハ輕罰金ヲ附加スルモノトス

第五十九條 違警罪ニ就テハ別段加重ノ定則ナシ故ニ其刑ノ極度ニ至ル迄加重シ得可シ

巴西兒刑法

罪科ノ情狀ヲ加重シ或ハ輕減スルハ法律ノ定ムル所ノ範域ニ於テ之ヲ參酌シ其刑ヲ加重或ハ輕減スルニアリ

第一款

第十六條 加重ノ情狀トハ即チ左ノ如シ

第一項 夜間罪ヲ犯シ或ハ空漠ノ地ニ於テ罪ヲ犯ス

第二項 毒藥ヲ盛リ或ハ放火シ或ハ流水セシメテ罪ヲ犯ス

第三項 同罪ヲ累犯ス

第四項 行犯セシ罪科ノ眞ニ殘惡忌嫌ス可キ原由或ハ鎖細輕浮ノ原由ニ出テタル時

第五項 害者ノ父タルヲ得可キ年齢ニ異同アル年長ニ對シ敬禮ヲ失シタル時

第六項 男女ノ氣體ニ差異アルニ因リ各人ノ勢力ニ強弱アルニ因リ又ハ害セントスル者ノ機具ト己レノ機具ト大利鈍ノ差異アルニ因リ其氣體ノ差異アルヲ頼ミ勢力ノ強ナルヲ頼ミ又ハ自己ノ機具ノ大且利ナルヲ頼ンテ人ヲ凌ク者

第七項 尊屬親或ハ主人或ハ長上或ハ父ト仰キ恭敬ヲ盡クス可キ人ニ對シ損害ヲ加フ

第八項 豫メ謀リテ罪ヲ犯シタル時即チ豫メ謀ルトハ豫メ害ヲ加ヘント定メタル人又ハ定メタル人ニ對シ損害ヲ加ヘタル時其害ヲ加フル前ニ當リ既ニ其企謀アリタルヲ云フ

豫謀ノ罪ハ罪ヲ行犯セント企テタル時ト之ヲ行フタル時トノ間二十四時以上ヲ經過セシ時ヲ云フ

第九項 詐僞ヲ用ヒ罪ヲ行犯ス

第十項 信任ヲ受ケタル者其信任ニ背ク

第十一項 報謝或ハ褒賞ヲ得ントスルノ意ヲ以テ罪ヲ犯ス

第十二項 一個或ハ數個ノ場所ニ伏ヲ設ケ人ヲ陥入レテ罪ヲ犯ス

第十三項 繞圍ノ藩籬ヲ破壊シテ罪ヲ犯ス

第十四項 罪ヲ行犯セントスルノ意ヲ以テ人ノ家宅ニ侵入シ或ハ侵入

セント試ム

第十五項 人ノ不意ヲ窺ヒ罪ヲ犯ス

第十六項 發露ヲ防カン爲容貌ヲ變シテ罪ヲ犯ス

第十七項 二人以上ノ者謀リテ罪ヲ犯ス

第十七條 左ノ諸罪モ亦加重ス可キ情狀アリトス

第一項 人ニ對シ損害ヲ加ヘタル時其損害ヲ加ヘタル時其損害ノ外ニ

被害者或ハ其親族ノ者ノ身體ニ傷害ヲ生シタル時

第二項 非常ノ情狀ニ因リテ人ノ身體ニ非常ノ苦痛ヲ生セシメシ時

第三項 損傷ヲ加ヘタル上猶ホ更ニ非常ノ情狀ヲ以テ耻辱ヲ與ヘタル時

第四項 被害者ノ蒙リタル損害回復スヘカラサル時

第二款

第十八條 罪ヲ輕減スルノ情狀ハ左ノ如シ

第一項 全ク罪事ナルコトヲ知ラスシテ罪ヲ犯シ又眞ニ之ヲ行フノ意ナクシテ行フタル時

第二項 至重ノ罪事ヲ避ケンテ罪ヲ犯シタル時

第三項 自己ノ身體或ハ權利又ハ其親族又ハ他人ノ身體或ハ權利ヲ防

衛セントシテ罪事ヲ犯シタル時

第四項 己レニ至重ノ誣罔ヲ受ケ或ハ名譽ヲ害セラレタルニ因リ又ハ尊屬配偶及ヒ兄弟ノ誣罔ヲ受ケ或ハ名譽ヲ害セラレタルニ因リ之ヲ

報復セントシテ罪ヲ犯シタル時

第五項 不當ノ命令ヲ拒マントシテ罪事ヲ犯ス

第六項 被害者ヨリ攻撃ヲ先ンシタル時

第七項 脅迫セララルニ因テ罪事ヲ犯ス

第八項 教唆ニ因テ罪事ヲ犯ス

教唆ハ其方法ノ輕重ト其教唆セシ時ト罪事ヲ行犯セシ時トノ早晚ニ從ヒ情狀ヲ輕減スルニ又多少アリ

第九項 醉中ニ罪ヲ犯ス

醉中ニ犯シタル罪ヲ輕減スルノ情狀アリトスルニハ左ノ條件ヲ兼ネ備ヘサル可ラス

第一 犯者ノ未タ酩酊セサル前ニハ罪事ヲ行ハントスルノ意アラサル事

第二 其罪事ヲ避ケントスルノ意ナキ事

第三 醉中常ニ罪事ヲ犯スノ惡癖アラサル事

第十項 犯者二十一歳以下ノ少年ナル時

若シ犯者十七歳以下十四歳以上ナル時ハ裁判官ノ見込ニ因テ從犯ノ刑ヲ科スルヲ得可シ

第二十條 罪ヲ輕減シ或ハ加重スルニハ此章ニ掲載スル所ノ情狀ニ照シ必ス之ヲ明瞭ニ證セサル可カラス若シ事實ノ疑ハシキ時ハ輕重半ハナル所ノ刑ヲ科ス

第六十三條 刑法上特ニ刑名ヲ定メシテ只刑ノ最多數ト最少數トノミヲ定メタルトキハ罪ノ加重輕減スヘキ情狀ニ從ヒテ之ヲ分ツテ最重等最輕等及ヒ中等ノ三等ニ分ツ即チ最重等ニハ刑ノ至重ナルモノヲ科シ最輕等ニハ刑ノ至輕ナルモノヲ科シ中等ニハ刑ノ重輕相半ハナルモノヲ科ス可シ

唐律

諸稱加者就重項稱減者就輕次唯二死三流同爲一減加者數滿乃坐又不得加至於死本條加入死者依本條

其罪止有半年徒者應加杖者杖一百應減者以杖九十爲次

明清律

凡稱加者就本罪上加重稱減者就本罪上減輕惟二死三流各同爲一減加者數滿乃坐又加罪止於杖一百流三千里不得加至於死本條加入死者依本條假刑律

凡加ト云モノハ本罪上ニ於テ一等ヲ加ヘ減ト云フハ本罪上ニ於テ一等ヲ減ス唯死二等流三等減スルトキハ各同一減ヲ爲ス絞劊俱ニ減シテ流ニ降シ三流俱ニ減シテ徒二年ニ降スヲ云フ

加罪之法加ヘテ死ニ至ルヲ得ス流七年ニ止ル其再犯以上加等死ニ至ルハ自ラ再犯本條ニ因ル

新律綱領

凡加ト稱スル者ハ本罪ノ上ニ就テ加重ス假令ハ笞四十ヲ犯スニ一等ヲ加フレハ笞五十ニ坐シ杖一百ハ徒一年ニ坐シ徒三年ハ流一等ニ坐シ流一等ハ流二等ニ坐スルノ類減ト稱スル者ハ本罪上ニ於テ減輕ス假令ハ笞五十

スニ一等ヲ減スレハ笞四十ニ坐シ徒一年ハ杖一百ニ坐シ徒三年ハ徒二年半ニ坐スルノ類唯二死三流ハ同シク一減ト爲ス假令ハ死罪ヲ犯スニ一等ヲ減スレハ絞斬ヲ分タス流三等ニ坐シ流罪ヲ犯スニ一等ヲ減スレハ徒三年ニ坐スルノ類加スル者數滿テ乃坐ス凡兩數目數器物地畝ノ數皆必ス其數ニ滿ルヲ計リテ乃始テ坐ス加等罪ハ流三等ニ止ル加ヘテ死ニ至ルコトヲ得ス若シ本條加ヘテ死ニ入ルモノハ本條ニ依テ加フルモ加ヘテ絞ニ入レ斬ニ至ラス

改定律例

第八十三條 凡三流同ク一減ト爲ス律ヲ改メ懲役三年以下ト同ク分テ三等ト爲シテ減ス其二死ノ減法ハ仍ホ本律ニ依ル

第八十四條 凡懲役終身ハ死刑ノ一部ニ準スト雖モ其加減ノ法二死ニ通シテ同ク一減ト爲スヲ得ス假令ハ死罪ヲ犯スニ一等ヲ減スレハ絞斬ヲ分タス懲役終身ニ坐ス若シ本條加ヘテ死ニ入ル者ハ改テ一體ニ懲役終身ニ止ム

舊幕府法制

一自本罪一等重キ御仕置ハ可爲遠島以下事

重追放ハ 入墨又ハ敵ノ上重追放

中追放ハ 重追放

輕追放ハ 中追放

所拂ハ 江戸拂

但都テ右輕重ニ可心得事

一自本罪一等輕キ御仕置ノ事

死罪ハ 遠島重追放

遠島ハ 中追放

但右同斷

第三 釋義 第六十八條ハ所謂法律上ノ減輕ノ場合ニ該當スルモノナリ本法ハ刑名ヲ減少シ其範圍ヲ廣大ニシタル結果トシテ減輕ノ分量ヲ定ムル方法モ亦全ク舊刑法ト異ナラサルヲ得ス舊刑法ハ第六十六條以下ニ於テ之カ爲

メ詳細ナル規定ヲ設クト雖モ本條ハ全ク之ヲ廢シ新ナル規定ヲ設ケタリ但本條ニ於テハ唯法律上ノ減輕ノ場合ニ關シテノミ之ヲ規定シ法律上ノ加重ニ關スル規定ヲ設ケサルハ其場合タル再犯若クハ併合罪ノ章ニ於テ既ニ之ヲ定メタルヲ以テナリ
又舊刑法ハ刑ノ種類ヲ細別シ多クノ階級ヲ設ケ加減ノ原因數個アル場合ニ於テハ一個毎ニ之ヲ計算シテ加減スルコトト爲スト雖モ本法ハ前ニ擧ケタル如ク刑ノ範圍極メテ大ナルヲ以テ之カ減輕ハ又頗ル刑ヲ輕クスルコトト爲ル可シ是ヲ以テ縱令數個ノ減輕ノ原因アルトキト雖モ之ヲ合シテ一ト爲シ一度刑ヲ減輕スルニ止ム是修正ヨリ生スル必要ノ規定ニシテ舊刑法ニ比シ敢テ減輕ノ利益ヲ縮少スルニ非ス
本法ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ其裁量ハ之ヲ裁判所ノ自由ニ任シタル場合多キヲ以テ各本條ニ於テ二個以上ノ刑名ヲ設ケ裁判所ヲシテ其一ヲ擇マシムルモノアリ第六十九條ハ此場合ニ於ケル法律上ノ減輕ヲ施ス方法ヲ規定シタルモノナリ

法律上ノ減輕ノ方法ハ第六十八條ニ之ヲ定メタリ同條ニ依レハ刑期金額ノ二分ノ一ヲ減スル場合アルヲ以テ或場合ニ於テハ減輕ノ結果一日未滿ノ時間又ハ一錢未滿ノ金額ヲ剩スコトナキニアラス此場合ニ於テハ此剩時間又ハ剩金額ノ刑ヲ科スルハ實際上便宜ナラサルノミナラス何等ノ必要ヲ見サルヲ以テ之ヲ除棄スルヲ妥當ナリトス是第七十條ノ規定ヲ見ル所以ナリ

第七十一條ニ於テハ舊刑法第九十條ヲ廢棄シ更ニ減輕ノ程度ヲ定ム此制度ハ第六十七條ニ掲ケタル如ク法律上ノ減輕ニ拘ラス更ニ酌量シテ減輕スルモノニシテ法律上減輕シタル刑ノ範圍カ尙ホ犯罪ニ比シ重キニ失スル場合ニ適用スル趣旨ナリ此等ノ場合ニ於テハ其刑又ハ其刑ニ法律上ノ減輕ヲ爲シタル刑ヨリ第六十八條及ヒ第七十條ノ例ニ從ヒテ更ニ其減輕ヲ爲ス可キモノトス

第七十二條ハ舊刑法ニ所謂加減順序ノ規定ニ該當スルモノニシテ前數條ニ於テ舊刑法ヲ改正シタルト同一ノ理由ニ因リ本條ニ於テモ新ニ其順序ニ付キ規定ヲ設ケタリ而シテ此順序ヲ定ムルニ付キ再犯加重ヲ先ニシタルハ若シ

犯罪中再犯ノモノアレハ其刑期ハ本刑ノ二倍以下ト爲ルコトヲ定メタルヲ以テ之ヲ第一ニ置ク必要アレハナリ次ニ法律上ノ減輕ヲ置キタルハ此減輕ハ亦各場合ニ於テ各犯罪ニ付キ減輕ス可ク併合罪ヲ第三ト爲シタルハ前二ノ加減ニ依リ各罪ニ付キ一旦刑ヲ定メ然ル後併合罪ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル必要アルニ因ル最後ニ酌量減輕ヲ置キタルハ其裁判所ノ任意ニ出テ法律ノ規定ニ因ル加重減輕ニ先ス可キ性質ノモノニアラサレハナリ

10/2/41

明治四十年十月三十日印刷
明治四十年十一月五日發行

改正刑法釋義上卷與付

正價金貳圓五拾錢

著者 田中正身
發行所 東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷者 白土幸力
印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地

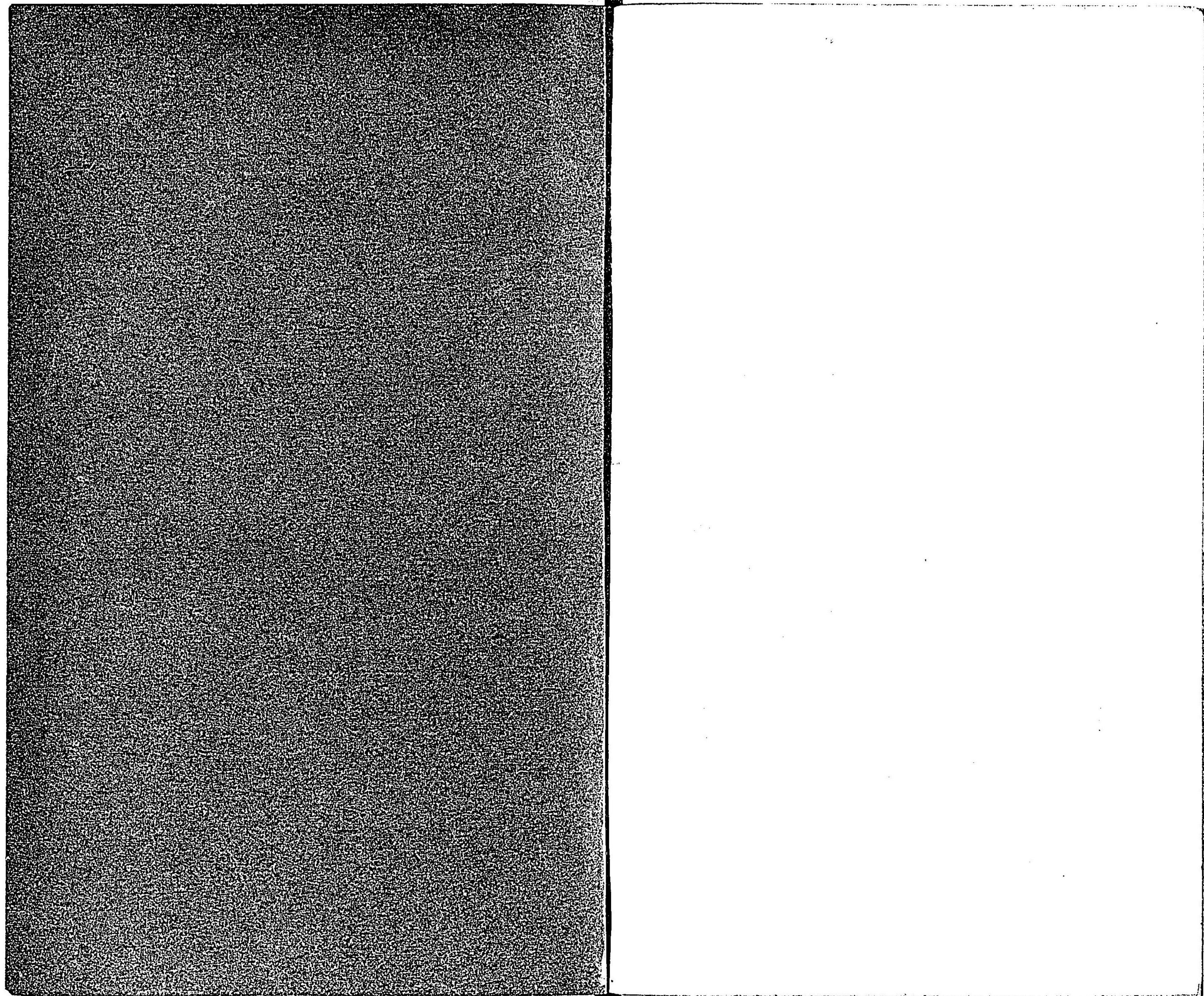
編著者 田中正身
發行所 東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷者 白土幸力
印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地

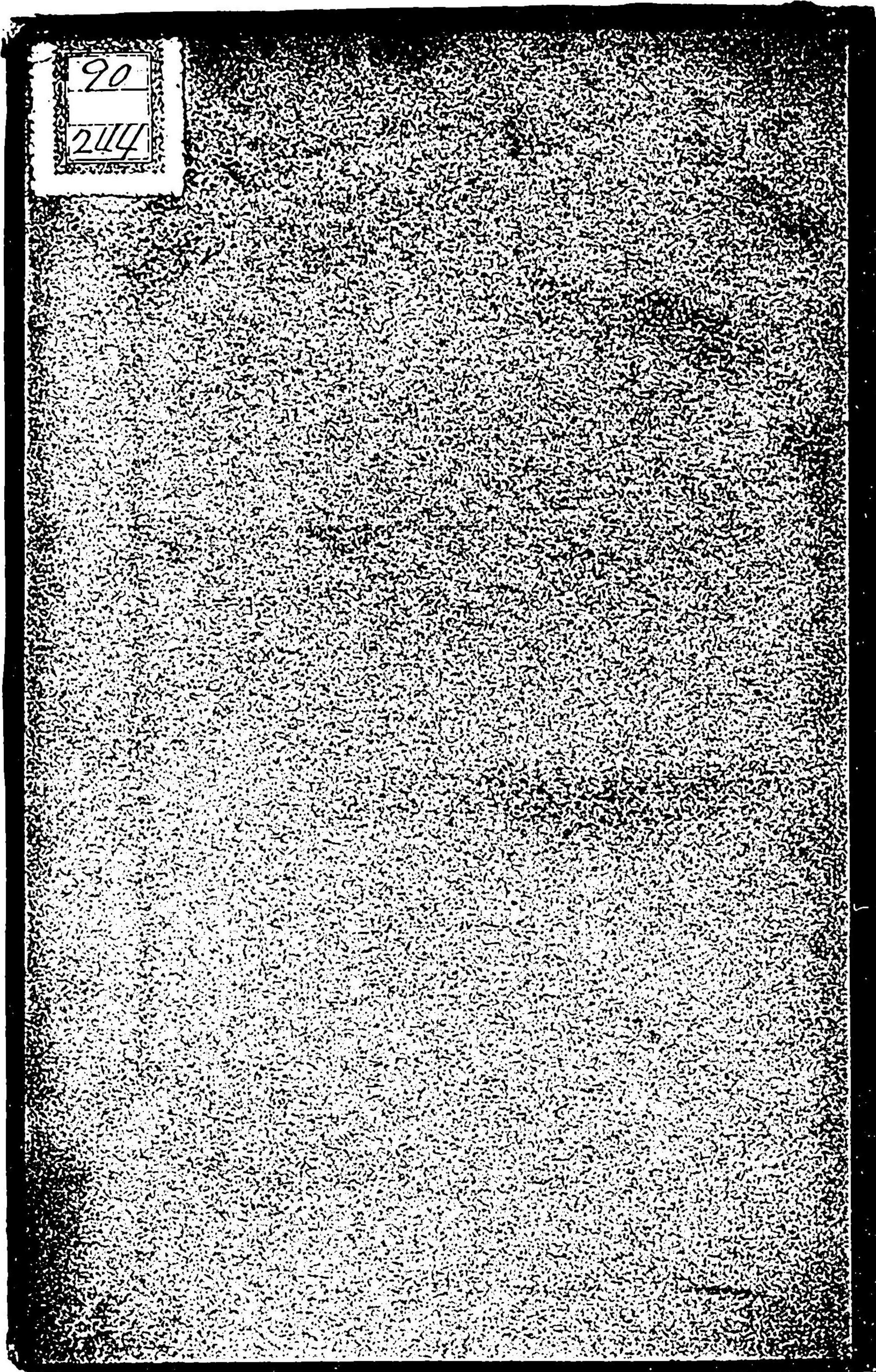
東京市神田區佐久間町一丁目一番地

發兌元

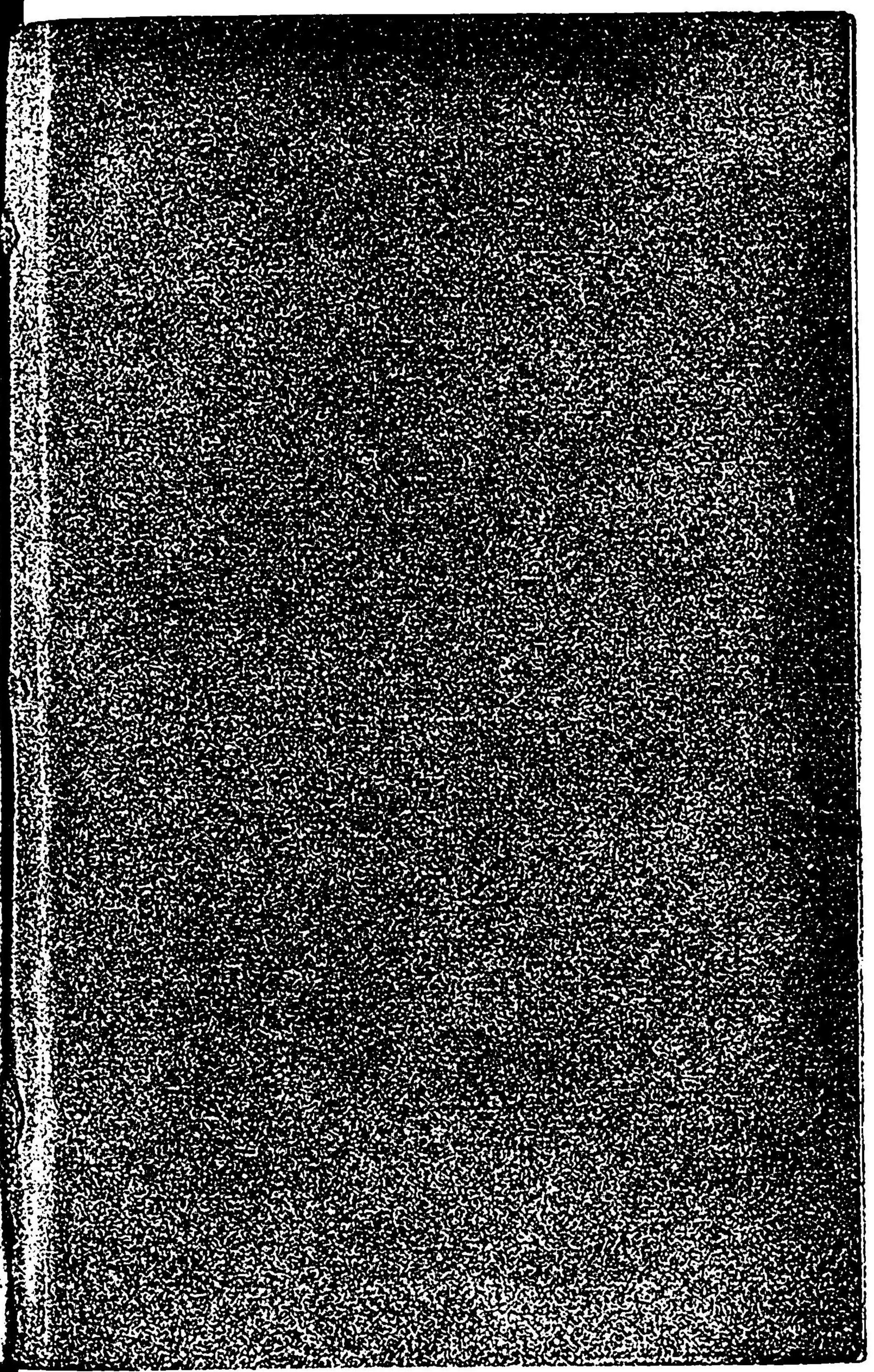
西東書房

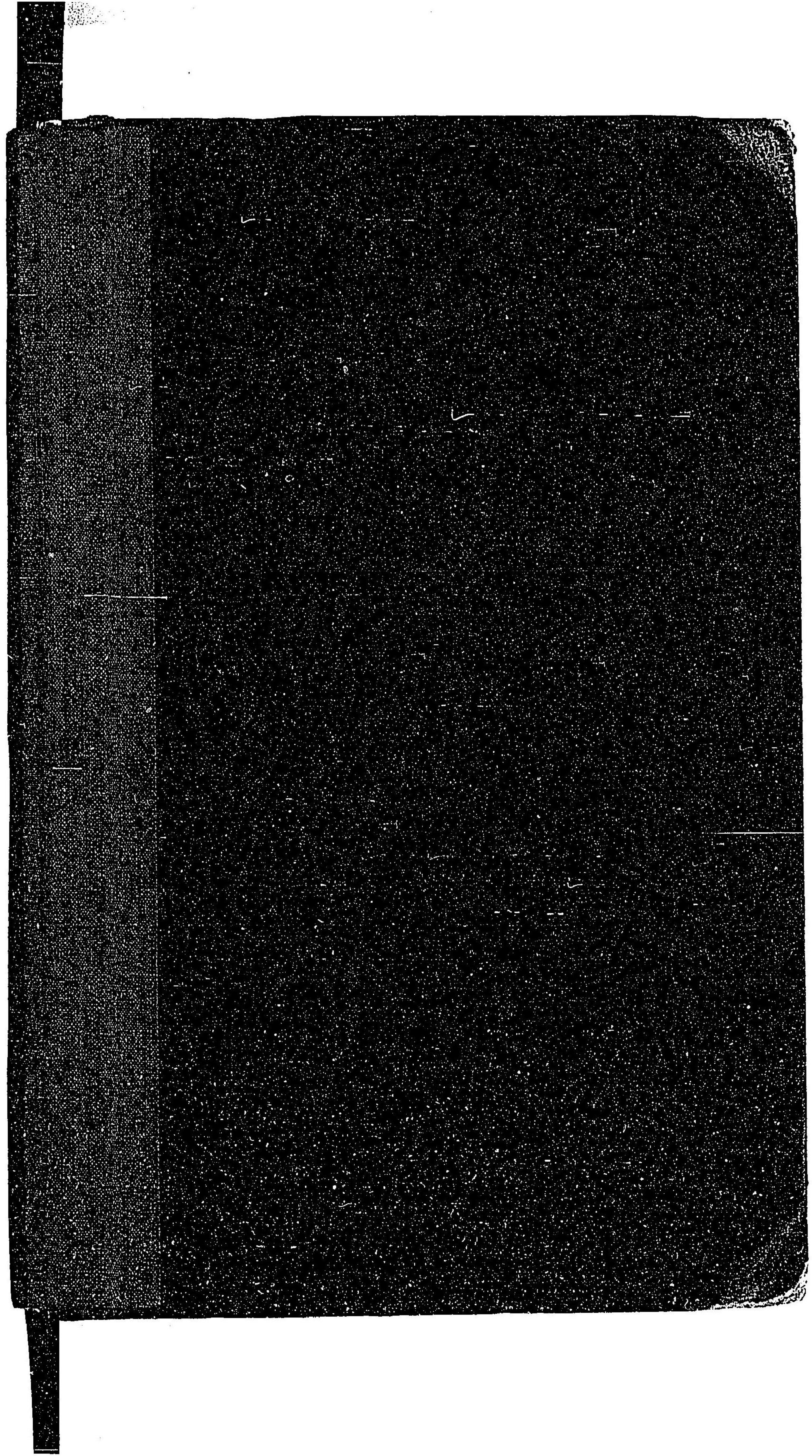
電話下谷七〇六番
振替貯金口座七三七番





90
214





90

244

035510-001-7

90-244

改正刑法釈義

田中 正身/編

上

M40, 41

BBP-0050



